

徳島市民病院 5階病棟改修工事

図面リスト

図面番号	建築工事	図面番号	電気設備工事	図面番号	機械設備工事
意-00	表紙				
意-01	改修工事特記仕様書(1)	電-01	電気設備工事特記仕様書	機-01	機械設備工事特記仕様書
意-02	改修工事特記仕様書(2)	電-02	電灯設備5階平面図(撤去)	機-02	空調換気設備 5階平面図(改修前)
意-03	改修工事特記仕様書(3)	電-03	電灯設備5階平面図(改修)	機-03	空調換気設備 5階平面図(改修後)
意-04	改修工事特記仕様書(4)	電-04	非常照明・誘導灯設備5階平面図(撤去)	機-04	排煙設備 5階平面図(改修前)
意-05	改修工事特記仕様書(5)	電-05	非常照明・誘導灯設備5階平面図(改修)	機-05	排煙設備 5階平面図(改修後)
意-06	改修工事特記仕様書(6)	電-06	弱電設備5階平面図(撤去)	機-06	消火設備 5階平面図(改修前)
意-07	配置図・工事概要	電-07	弱電設備5階平面図(改修)	機-07	消火設備 5階平面図(改修後)
意-08	1階平面図	電-08	自火報・排煙制御設備5階平面図(撤去)	機-08	給排水設備 5階透析室
意-09	5階病床平面図(改修前)	電-09	自火報・排煙制御設備5階平面図(改修)		
意-10	5階平面図(改修後)				
意-11	4床室改修図(改修前後)				
意-12	廊下廻り詳細図-1(改修前)				
意-13	廊下廻り詳細図-1(改修後)				
意-14	廊下廻り詳細図-2(改修前後)				
意-15	廊下廻り等 建具キープラン・建具表(改修前後)				
意-16	4床室 建具キープラン・建具表(改修前後)				
意-17	スチールパーティション詳細図				

5章 建具改修工事	3.2 性能及び構造	3. 樹脂製建具 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法 (mm) ・A種 S-4 W-4 70 ・B種 S-5 A-4 ・C種 S-6 W-5 防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 遮音性の種別： ・T-A ・T-B 断熱ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 断熱性の種別： ・H-A ・H-B ・H-C ガラスの形式： ・複層ガラス ・単層ガラス ・三重ガラス 建具の表面色： ・標準色 ・特注色 水切り板： ・取付ける ・取付けない ぜん板： ・取付ける ・取付けない
	4.2 性能及び構造	4. 鋼製建具 性能及び構造： ※JIS規格による 外部に面する鋼製建具の耐風圧性能： ・S-4 ・S-5 ・S-6 鋼板類の厚さ： ※表5.4.2による 鋼板類の厚さ (W950mm, H2, 100mmの場合)： ・図示 防音ドアセット、サッシの適用： ・適用 ・適用しない ・図示 遮音性の等級： ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 ガラス溝の大きさ： ※製造所仕様による ・図示
	4.4 形状及び仕上げ	
	5.2 性能及び構造	5. 鋼製軽量建具 性能及び構造： ※JIS規格による 簡易気密型ドアセットの適用： ・適用 ○適用しない ・図示 気密性： ・A-1 ・A-2 ※A-3 水密性： ・W-1 鋼板の種類： ・ビニル被覆鋼板 ・ガル鋼板 ・スチール鋼板 ○図示 召合わせ、縦小口包み板等の材質： ※鋼板 ・スチール鋼板 ・7%ニッケル合金押出形材 ステンレス鋼板の材質： ※SUS304, 430JIL, 430 ・SUS304 ・SUS430
	5.3 材料	
	6.3 材料	6. ステンレス製建具 性能及び構造： ※JIS規格による ステンレス鋼板の材質： ※SUS304, 430JIL, 430 ・SUS304 ・SUS430 表面仕上げ： ※HL ・鏡面 ・パフ () 曲げ加工： ・普通曲げ ・角出し曲げ
	6.5 工法	7. 建具用金物 適用範囲： ・建具製作所仕様以外の金物 (金物の種類、材質： ※表5.7.1による 軸吊りヒンジ： ○自閉装置付き ・自閉装置なし ドアクローザのディレードアクション (遅延閉) 機能の適用： ・適用 ○適用しない 戸当り： ○あおり止め(フック)付き ・あおり止め(フック)付きなし 鋼板製建具の丁番： ※表5.7.2による 樹脂製建具の丁番： ※表5.7.3による 権玉、レバーハンドル等の取付位置： ・FL+900 ・FL+950 ・FL+1,000 ○既存合せクレセント類の取付位置： ・FL+900~FL+1,500迄 マスターキー： ○製作する ・製作しない マスターキーの製作については施設管理者及び監督員と協議する。 指定建物錠の防犯性能の適用： ・する ○しない 指定建物錠とは、建物の外部出入口用いるシリンダー錠・シリンダー/ワキ錠が該当 耐ヒッキング性能 ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上 耐鍵穴壊し性能 ・5分未満 ・5分以上 ※10分以上 耐サムターン回し性能 ・なし (5分未満) ※あり (5分以上) 耐カム送り解錠性能 ・なし (5分未満) ※あり (5分以上) 耐こじ破り性能 ・なし (5分未満) ※あり (5分以上) 出荷時の子鍵本数： ※3本 ・6本 鍵箱の適用： ・必要 ・不必要
	7.3 取付け施工	8. 自動ドア開閉装置 スライディングドアの開閉性能： ※表5.8.1による ・図示 多機能トイレル出入口引き戸の開閉性能： ※表5.8.2による ・図示 検出装置の性能： ※表5.8.3による ・図示 戸の開閉方法： ・図示 センサーの種類： ・マトリクス型 ・光線スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ 凍結防止装置： ・有 ・無
	7.4 鍵	9. 自閉式上吊り引戸装置 自閉式上吊り引戸装置の性能： ※表5.9.1による メーカー： 小松ウォール 同等
	7.5 鋼製上吊り引戸性能等	10. 重量シャッター シャッターの種類： ・図示 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防護シャッター 耐風圧性能： ・50 ・80 ・120 開閉機能： ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式 シャッターケース： ・図示 ※設ける ・設けない 保護装置の設置： ・図示 障害物感知装置の設置： ・図示 危害防止機構の種類： ・自動閉鎖型 ・可動産金式 ・図示

5章 建具改修工事	11.2 形式及び機構	1.1. 軽量シャッター 開閉形式： ※手動式 ・上部電動式 (手動併用) ・開閉形式： ※手動式 ・上部電動式 (手動併用) 耐風圧性能： ・50 ・80 ・120 スラットの材質： ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・スチール鋼板 ※塗装溶融亜鉛-5%7%ニッケル合金めっき鋼板 ・7%ニッケル合金めっき鋼板 <パイプの材質>： ・スチール ・スチール <パイプ径>： ・図示 ・13mm ・16mm ・19mm <パイプ間隔>： ・図示 ・70mm <格子間隔>： ・図示 ・500mm スラットの形状： ・凸凹ラウンド形 ・オパールラウンド形
	11.3 材料	1.2. オーバーヘッドドア セクション材料による区別： ・図示 ・下表による セクション材料による区別 開閉方式による種類 収納形式による区分 ガイドレールの材料 ・スチールタイプ ・パルス式 ・スチールD形 ・鋼製 ・7%ニッケルタイプ ・チェーン式 ・ローッド形 ・スチール製 ・フライングタイプ ・電動式 ・パイプ形 ・パイプ加形
	11.4 形状及び仕上げ	耐風圧性能： ・50 ・75 ・100 ・125 ガイドレールの材質： ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・スチール鋼板
	12.2 形式及び機構	1.3. ガラス ガラスの種類： ○建具表による ガラス留め材 建具の種類 種類・材質 ・7%ニッケル製 ・シリング材 ※ガラスカット ・パイプ材 (1種 ・2種) ○鋼製 ※シリング材 ・パイプ材 (1種 ・2種) ・スチール製 ※シリング材 ・パイプ材 (1種 ・2種) ・木製 ※シリング材 ・パイプ材 (木製用)
	12.3 材料	ガラス溝の大きさ： ※製造所仕様による ・図示 熱線反射ガラスの映像調整： ・行う ・行わない 表面形状： ○図示 ・プレーン ・梨地 ・ホム 寸法、厚み： ・図示 ・190x190x95 ・145x145x95 壁用金属枠： ・図示 ・7%ニッケル製 ・スチール製 ・スチール製 補強剤： ・図示 化粧目地の色： ・白 ・グレー ・黒 シリング材： ・ボリカドタイプ系 ・ケル系 ・シリコン系 金属製化粧カバー： ・図示 風圧力に対応した工法： 目地幅： ※標準仕様書5.13.5.2 (2) (a) ・図示 伸縮調整目地の位置： ※標準仕様書5.13.5.2 (2) (b) による ・図示
	13.2 材料	
	13.3 材料	
	13.4 工法	
	13.5 ガラスローラック組み	
	13.6 ガラス溝の寸法、形状等	

6章 内装改修工事	1. 共通事項 既存間仕切り壁撤去に伴う天井、壁及び床の改修範囲： ※壁厚程度 ・図示 天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い天井改修範囲： ※両側200mm程度 ・図示 天井の撤去に伴う取り合い壁の改修範囲： ※既存のまま ・図示 既存部分の撤去工法： ○適用する【○標準仕様書6.2 ○標準仕様書6.3 ○標準仕様書6.4】 ・図示 新設下地の工法： ○適用する【○標準仕様書6.5 ○標準仕様書6.6 ○標準仕様書6.7】 ・図示 仕上げの工法： ※該当項の有無により適用する ・図示	
	2. 既存床の撤去並びに下地補修 合成樹脂塗膜床の除去： ・機械的除去工法 ・目荒工法 改装後の床の清掃範囲： ・影響範囲全て ・図示	
	3. 既存壁の撤去並びに下地補修 コンクリート間仕切り壁等の撤去に伴う構造体の補修： ※行う ・既存のまま ○モルタル塗り (改修標準仕様書4.4.9)による ・図示	
	5. 木下地等 ○見え掛り面の表面仕上げの程度 (表6.5.1:機械加工)： ・下表による ・図示	
	5.1 一般事項	適用箇所 種類 ・開口部縁線・建具枠・笠木 ・A種・B種・C種 ・ブライドボックス・カーネーションボックス ・A種・B種・C種 ・飾り柱・格子・カンテラ天板・衝立 ・A種・B種・C種 ・棚板 ・A種・B種・C種 ・梯子 ・A種・B種・C種 ○見え掛り面の表面仕上げの程度 (表6.5.2:手加工)： ・下表による ・図示
	5.2 木材	適用箇所 種類 ・開口部縁線・建具枠・笠木 ・H-A種・H-B種・H-C種 ・ブライドボックス・カーネーションボックス ・H-A種・H-B種・H-C種 ・飾り柱・格子・カンテラ天板・衝立 ・H-A種・H-B種・H-C種 ・棚板 ・H-A種・H-B種・H-C種 ・梯子 ・H-A種・H-B種・H-C種
	5.3 他部位との取合い等	○一般事項 木材の含水率： ※A種・B種 材料のホルムアルデヒド放散料： ※F☆☆☆☆ ・図示 ○製材 ○JASによる下地用針葉樹製材： ・下表による (寸法は図示) ・図示
	5.4 工法	使用部位 樹種 区分等級 含水率 仕上げ 防蟻防蟻処理 備考 全般 桧 1級 SD15 杉グー なし 杉 ※2級 SD20 杉グー なし D15 プレート なし D20 プレート なし
	5.5 一般事項	○直交集成板 ○JASによる直交集成板 使用部位 曲げ強度 種別 接着性能 樹種区分 備考 Mx120-3-3 A種構成 使用環境A S1 Mx 60-9-9 B種構成 使用環境B S2 S120-3-3 使用環境C S3 S 30-9-9 S4

6章 内装改修工事	5.3 接合具等	○床張り用合板等 ○JASによる普通合板 使用部位 表板樹種名 厚さ (mm) 接着の程度 板面の品質 等級・処理・寸法等 777 ※5.5 ※1類 ※2等 777 9 2類 1等 12 ※C-D
	5.4 木れんが	○JASによる構造用合板 使用部位 表板樹種名 等級 接着の程度 板面の品質 備考 外壁・内壁耐力壁 針葉樹 1級 特類 A-B F☆☆☆☆/防虫処理材 各室床下地捨て張り 777 2級 1類 B-C 777 12 D-D
	5.5 防蟻・防蟻	○JASによる化粧バリ構造用合板 使用部位 品名 厚さ (mm) 表板樹種名 接着の程度 備考 9 1類 F☆☆☆☆/防虫処理材 12 1類 F☆☆☆☆/防虫未処理
	5.6~5.9 木材、工法	○JASによる天然木化粧合板 使用部位 品名 厚さ (mm) 単板樹種名 接着の程度 備考 12 1類 F☆☆☆☆/防虫処理材 15 2類 F☆☆☆☆/防虫未処理
	5.10 壁・天井	○JASによる特殊加工化粧合板 使用部位 品名 厚さ (mm) 表面性能(7) 接着の程度 備考 12 F・FW 1類 オパール/防虫処理材 15 W・SW 2類 プリット/防虫未処理
	5.11 パーティクルボード	○JASによる構造用パネル 使用部位 品名 厚さ (mm) 曲げ等級 備考 図示 1級 オパール/防虫処理材 25 -3級・4級 プリット/塗装/防虫未処理
	5.12 ミディアムデンシティファイバーボード(MDF)	○ミディアムデンシティファイバーボード(MDF) 使用部位 厚さ (mm) 表面状態区分 曲げの区分 接着の区分 難燃性区分 備考 -RN -RS -30 -25 U 難燃2 -DV -DD -DC -15 -5 M 難燃3 P
	5.13 造作化粧板の釘打ち工法	造作化粧板の釘打ち工法： ※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘頭埋め
	5.14 接着剤のMx120/777放散量	接着剤のMx120/777放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ 接着剤のMx777/777放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ○薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理の方法： 適用部位 性能区分 備考 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4
	5.15 加圧注入用木材のバインディング	加圧注入用木材のバインディング： ・適用する ・摘要しない 薬剤の塗布による防蟻・防蟻処理の方法： ※標準仕様書による ボンド原料接着剤への薬剤混入による防蟻・防蟻処理の方法： ○防虫処理 木材の防虫処理： 樹種： ※下表を標準とし変更する場合は、事前に監督員の承諾を得る事。 使用箇所 材種 ・RC造等の内部間仕切り 間仕切り軸組 ※杉 軸組及び床組 床組 ※杉又は松 ・窓、出入口、その他 吊元枠、水掛り 枠 ※松 の下枠及び敷居 ・床板張り 線甲板、上がり框 ※松 ・壁及び天井下地 ※杉又は松
5.16 軽量鉄骨天井下地	種類： ※表6.6.1による 屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔： ・≧900mm 屋外の野縁の間隔： ※表6.6.2による 既存埋込インサートの使用： ○使用する ・使用しない あと施工アンカーの引抜き試験： ○行わない ・行う 試験法： ・標準仕様書6.6.4(1) (9)による ・図示 屋外の引抜き試験の箇所： ・図示 ・屋内と同程度 切断された天井下地の補強方法： ・図示 屋外の軒天井、ピロティー天井の補強： ・図示 ・天井内配管類及びダクト等により、野縁受けを吊れない場合には、野縁受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。 ・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。	

設計番号	工事名	徳島市民病院 5階病棟改修工事	概R	03
24021	図名	改修工事特記仕様書(3)	-	意

徳島市病院局

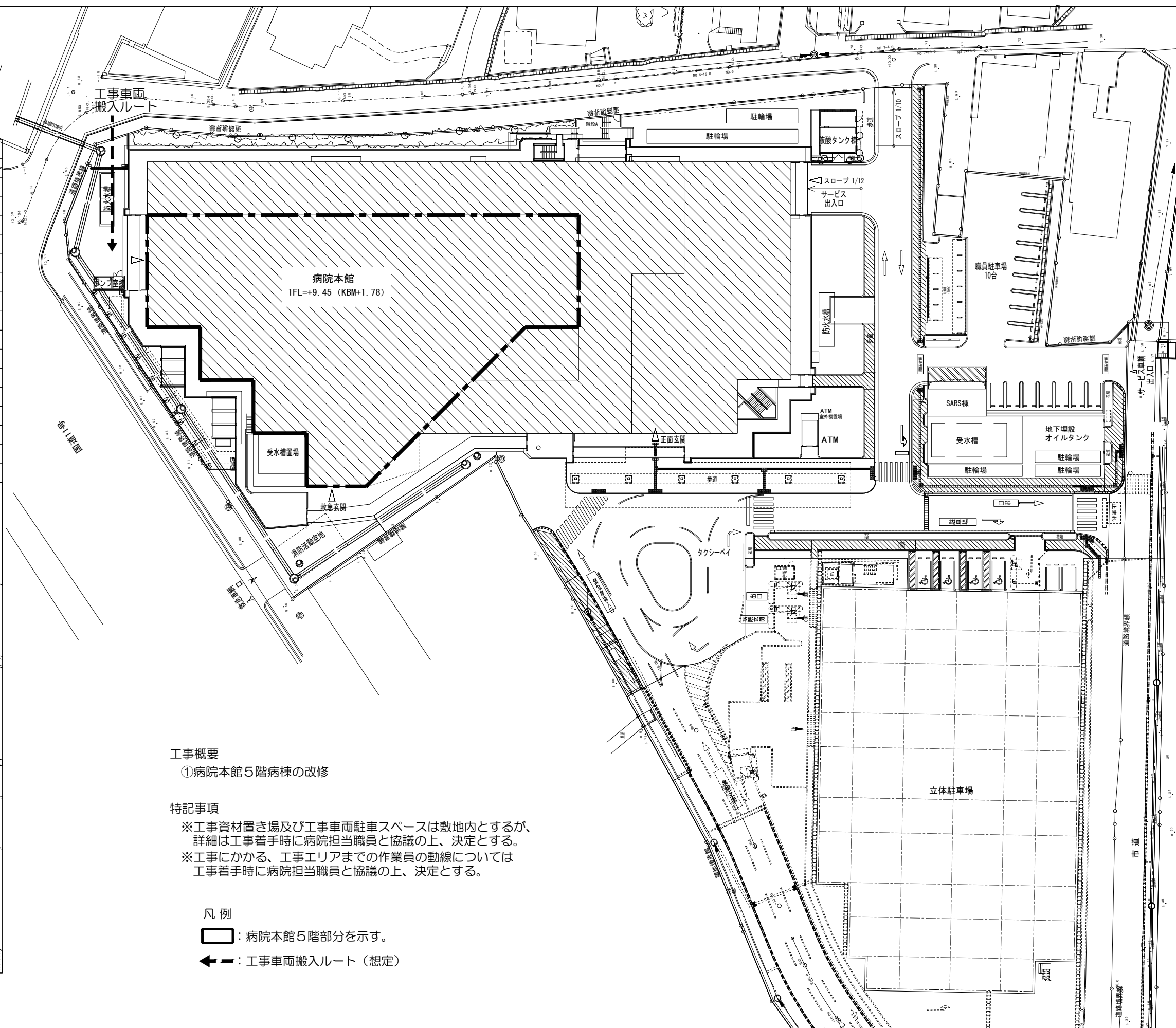
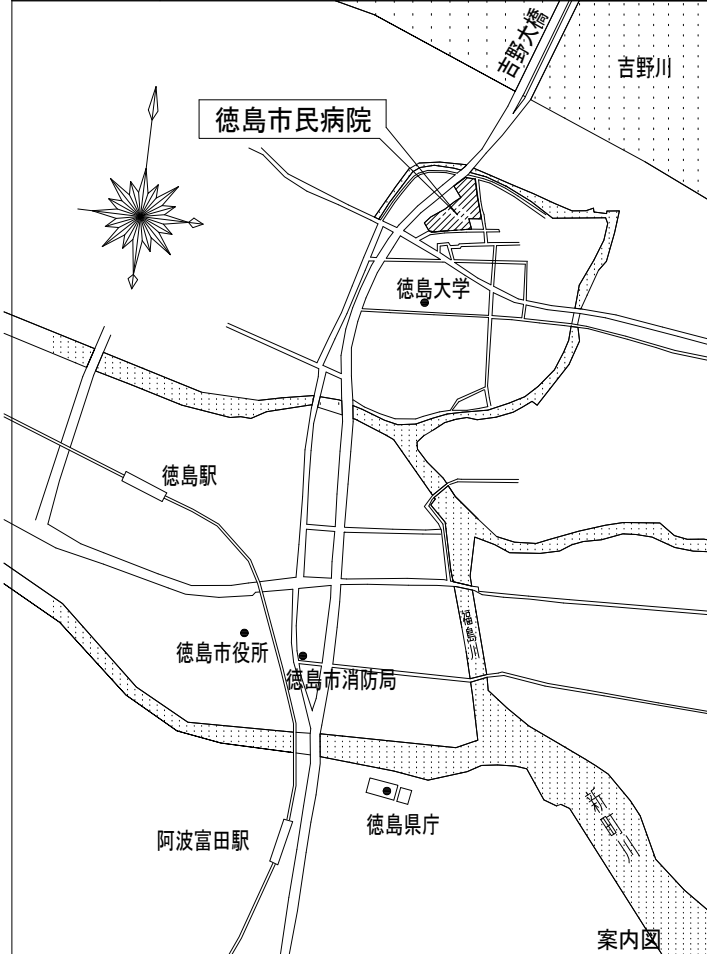
<p>6章 内装改修工事</p> <p>①③形式及び寸法</p> <p>①④工 法</p> <p>8.2 材 料</p> <p>8.2 材 料</p> <p>8.3 工 法</p> <p>9.2 材 料</p> <p>8.2 材 料</p> <p>8.3 工 法</p> <p>9.2 材 料</p> <p>10.2 材 料</p> <p>10.3 工 法</p>	<p>7. 軽量鉄骨壁下地</p> <p>種類： ・50形 ・65形 ⑨90形 ・100形 ・</p> <p>スタッドの高さが5mを超える場合： ・図示 ・</p> <p>開口部の補強： ※標準仕様書6.7.4(5) (7)～(9)による ・図示 ・</p> <p>8. ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り</p> <p>ビニル床シートの材料： ・図示 ・下表による ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>記号</th> <th>色柄</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・発泡砲層のないビニル床シート</td> <td>※FS ・NS</td> <td>※無地 ・マブル</td> <td>※2.0 ・2.5 ・</td> </tr> <tr> <td>・発泡層のあるビニル床シート (ケッションフロア)</td> <td>・DO</td> <td>・</td> <td>※2.8 ・3.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>ビニル床タイル、ゴム床タイルの材料： ・図示 ・下表による ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th></th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・コバシヨビニル床タイル</td> <td>半硬質(GT)</td> <td>※2.0 ・</td> </tr> <tr> <td>・コバシヨビニル床タイル</td> <td>軟質(GTS)</td> <td>※2.0 ・</td> </tr> <tr> <td>・ホジコバシニル床タイル(HT)</td> <td></td> <td>※2.0 ・</td> </tr> <tr> <td>・ゴム床タイル</td> <td>・無地 ・マブル</td> <td>・4.0 ・ ・4.0 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>接着剤の単位消費量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆☆ ・</p> <p>◎帯電防止床シート張り</p> <p>種類： ・</p> <p>性能： ・体積抵抗値(1.0x10⁵Ω) ・</p> <p>厚さ： ・2.0mm ・4.0mm ・4.5mm ・</p> <p>◎帯電防止床タイル張り</p> <p>種類： ・</p> <p>性能： ・体積抵抗値(1.0x10⁵Ω) ・</p> <p>寸法厚さ： ・300x300x2.0mm ・500x500x3.0mm ・図示</p> <p>◎視覚障害者用床タイル張り</p> <p>種類： ・合成ゴム貼付用 ・合成ゴム埋込用 ・合成ゴム表面CON ・設置器具 ・コンクリート</p> <p>厚さ： ・2mm ・15mm ・20mm ・30mm ・</p> <p>◎耐動荷重性床シート張り</p> <p>種類： ・</p> <p>厚さ： ・ mm ・</p> <p>◎防滑性床シート張り</p> <p>種類： ・</p> <p>厚さ： ・ mm ・</p> <p>◎防滑性床タイル張り</p> <p>種類： ・</p> <p>寸法厚さ： ・300x300x2.0mm ・500x500x3.0mm ・図示</p> <p>ビニル幅木の厚み： ※1.5mm以上 ・</p> <p>ビニル幅木の長さ： ※60mm ・100mm ・300mm ・</p> <p>下地の工法： ※標準仕様書6.8.3(1)による ・図示</p> <p>目地処理場合の工法： ※熱溶接工法 ・図示 ・</p> <p>9. カーペット敷き</p> <p>◎織じゅうたん</p> <p>種別： ・A種 ・B種 ・C種</p> <p>バイル形状： ・カットバイル ・ループバイル ・カット/ループ併用</p> <p>色柄： ※無地 ・柄物</p> <p>帯電性の適用： ・適用しない ・適用する(人体帯電圧： ※3kV以下 ・)</p> <p>◎タフテッドカーペット</p> <p>バイル形状： ・ループ ・カット ・</p> <p>バイル長： ・図示 ・ mm</p> <p>◎ニードルパンチカーペット</p> <p>厚さ： ・4mm ・7mm ・</p> <p>◎タイルカーペット</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>バイル形状</th> <th>種 類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>総厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ループバイル</td> <td>※第1種 ・第2種</td> <td>※500x500 ・</td> <td>※6.5 ・</td> </tr> <tr> <td>・カットバイル</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・カット/ループ併用</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎下敷き材</p> <p>下敷き材： ※反毛フェルト第2種2号(呼厚8mm) ・</p> <p>タフテッドカーペットの工法： ・グリップ工法 ・全面接着工法 ・</p> <p>織じゅうたんの接合方法： ※ヒートド工法 ・手縫い(づつり縫い)</p> <p>タイルカーペットの敷き方(平場)： ※市松敷き ・ (階段部分)： ※模様流し ・</p> <p>10. 合成樹脂塗床</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>仕上げ種類</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・弾性珪砂塗床材</td> <td>※平滑 ・防滑 ・つや消し</td> <td>F☆☆☆☆</td> </tr> <tr> <td>・珪砂樹脂塗床材</td> <td>・薄膜流し展べ ・厚膜流し展べ： ※平滑 ・防滑 ・樹脂モルタル： ・平滑 ・防滑</td> <td>F☆☆☆☆</td> </tr> </tbody> </table>	種 類	記号	色柄	厚さ(mm)	・発泡砲層のないビニル床シート	※FS ・NS	※無地 ・マブル	※2.0 ・2.5 ・	・発泡層のあるビニル床シート (ケッションフロア)	・DO	・	※2.8 ・3.5	種 類		厚さ(mm)	・コバシヨビニル床タイル	半硬質(GT)	※2.0 ・	・コバシヨビニル床タイル	軟質(GTS)	※2.0 ・	・ホジコバシニル床タイル(HT)		※2.0 ・	・ゴム床タイル	・無地 ・マブル	・4.0 ・ ・4.0 ・	バイル形状	種 類	寸法(mm)	総厚さ(mm)	・ループバイル	※第1種 ・第2種	※500x500 ・	※6.5 ・	・カットバイル				・カット/ループ併用				種 類	仕上げ種類	備 考	・弾性珪砂塗床材	※平滑 ・防滑 ・つや消し	F☆☆☆☆	・珪砂樹脂塗床材	・薄膜流し展べ ・厚膜流し展べ： ※平滑 ・防滑 ・樹脂モルタル： ・平滑 ・防滑	F☆☆☆☆	<p>6章 内装改修工事</p> <p>11.2 材 料</p> <p>11.3~11.5 ***工法</p> <p>11.6 現場塗装仕上げ</p> <p>12.2 材 料</p> <p>①② 材 料</p> <p>①③ 工 法</p> <p>13.2 材 料</p> <p>13.3 工 法</p> <p>①④ 材 料</p> <p>①④ 施 工</p> <p>15.3 材 料</p> <p>15.6 工 法</p>	<p>11.1. フローリング張り</p> <p>フローリング： ※F☆☆☆☆ ・図示</p> <p>接着剤： ※F☆☆☆☆ ・図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>材 種</th> <th>工 法</th> <th>形式寸法等(mm) LxWx t</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・フローリングボード1等</td> <td>※ナ ・ ・</td> <td>・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法</td> <td>・500(L)x75(W)x15(t)以上</td> </tr> <tr> <td>・フローリングボード1等</td> <td>※ナ ・ ・</td> <td>・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り)</td> <td>・303x303(L)x15(t)以上</td> </tr> <tr> <td>・複合フローリング</td> <td>※ナ ・ナ ・協譲</td> <td>・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法</td> <td>・A種 ・B種 ・C種 ・A種 ・B種 ・C種 ・A種 ・B種 ・C種</td> </tr> </tbody> </table> <p>仕上げ： ・ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルフィニッシュ塗り ・既製仕上げ</p> <p>12. 畳敷き</p> <p>種別： ・A種 ・B種 ・C種</p> <p>・D種(・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)</p> <p>13.3. せっこうボード、その他ボード及び合板張り</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格名称</th> <th>種 類</th> <th>記 号</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木質系セメント板</td> <td>・木毛セメント板 ・木片セメント板</td> <td>・HW ・NW ・HF ・NF</td> <td>・25・50 ・</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード製品</td> <td>◎せっこうボード ・シーリングせっこうボード ・強化せっこうボード ・せっこうワタボード ・化粧せっこうボード(トリアーチン) ・化粧せっこうボード</td> <td>GB-R GB-S GB-F GB-L GB-D</td> <td>◎9.5◎12.5 ・9.5・12.5 ・12.5・15.0 ※9.5・7 ・9.5・12.5 ・9.5・12.5</td> </tr> <tr> <td>繊維強化セメント板</td> <td>・ケイ酸カルシウム板(タイプ2)</td> <td>・0.8FK ・1.0FK</td> <td>・6・8・10 ・6・8・10</td> </tr> <tr> <td>ハイテクボード繊維板</td> <td>・</td> <td>・RS・VS ・DV・DO・DC</td> <td></td> </tr> <tr> <td>火山性ガラス質複層板(VSボード)</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎合板</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 種</th> <th>樹種、防虫・難燃・防煙処理等</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・難燃合板</td> <td>生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・ワシ ・ 不透明塗料塗りの場合 ・シナ【1級・2級】</td> <td>・4 ・5.5 ・6 ・</td> <td>・A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>・普通合板</td> <td>・ワシ ・シナ</td> <td>・1類 ・2類</td> <td>・A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>・捨張り用合板</td> <td>・南洋材 ・針葉樹</td> <td>・型特用 ・構造用</td> <td>・9 ・12 ・</td> </tr> <tr> <td>・有孔合板</td> <td>・シナ</td> <td>・1類 ・2類</td> <td>・4 ・6 ・A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>・天然木化粧合板</td> <td>化粧単板のそば包み ・行う ※行わない 化粧単板の厚さ ※0.3未満</td> <td>・4.2 ・</td> <td>・A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板表面仕上げの種類</td> <td>・マシ ・ホリスチル</td> <td>・4.0 ・3.0</td> <td>・A種 ※B種</td> </tr> </tbody> </table> <p>普通合板の防虫処理： ※行わない ・行う</p> <p>天然木化粧合板の防虫処理： ※行わない ・行う</p> <p>特殊加工化粧合板の防虫処理： ※行わない ・行う</p> <p>せっこうボードの目地処理： ・継目処理工法 ・目透し工法 ・突付け工法</p> <p>遮音シール材： ・ケル系シーリング材 ・ジョイントセメント</p> <p>14. 壁紙張り(ビニールクロス)</p> <p>防火性能の指定： ・下表による ◎図示 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品 質</th> <th>検定区分</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ホリソ系</td> <td>・1級 ・2級</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・織物系</td> <td>・1級 ・3級 ・4級</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・アラファ系</td> <td>・1級 ・2級</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビニル系</td> <td>・1級 ・2級</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>モルタル面及びプラスター面の下地調整： ・RA種 ※RB種 ・RC種</p> <p>コンクリート面の下地調整： ・RA種 ※RB種 ・RC種</p> <p>せっこうボード及びその他のボード面の下地調整： ・RA種 ※RB種 ・RC種</p> <p>15. モルタル塗り</p> <p>モルタル： ・現場調査材料 ・既調査材料</p> <p>既製目地： ・適用 ・不適用</p> <p>既製目地の形状寸法等： ・図示 ・</p> <p>床の目地： ・設ける ・設けない</p> <p>工法： ※押し目地 ・切り目地 ・</p>	種 類	材 種	工 法	形式寸法等(mm) LxWx t	・フローリングボード1等	※ナ ・ ・	・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	・500(L)x75(W)x15(t)以上	・フローリングボード1等	※ナ ・ ・	・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り)	・303x303(L)x15(t)以上	・複合フローリング	※ナ ・ナ ・協譲	・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	・A種 ・B種 ・C種 ・A種 ・B種 ・C種 ・A種 ・B種 ・C種	規格名称	種 類	記 号	厚さ(mm)	木質系セメント板	・木毛セメント板 ・木片セメント板	・HW ・NW ・HF ・NF	・25・50 ・	せっこうボード製品	◎せっこうボード ・シーリングせっこうボード ・強化せっこうボード ・せっこうワタボード ・化粧せっこうボード(トリアーチン) ・化粧せっこうボード	GB-R GB-S GB-F GB-L GB-D	◎9.5◎12.5 ・9.5・12.5 ・12.5・15.0 ※9.5・7 ・9.5・12.5 ・9.5・12.5	繊維強化セメント板	・ケイ酸カルシウム板(タイプ2)	・0.8FK ・1.0FK	・6・8・10 ・6・8・10	ハイテクボード繊維板	・	・RS・VS ・DV・DO・DC		火山性ガラス質複層板(VSボード)	・			材 種	樹種、防虫・難燃・防煙処理等	厚さ(mm)	工法	・難燃合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・ワシ ・ 不透明塗料塗りの場合 ・シナ【1級・2級】	・4 ・5.5 ・6 ・	・A種 ※B種	・普通合板	・ワシ ・シナ	・1類 ・2類	・A種 ※B種	・捨張り用合板	・南洋材 ・針葉樹	・型特用 ・構造用	・9 ・12 ・	・有孔合板	・シナ	・1類 ・2類	・4 ・6 ・A種 ※B種	・天然木化粧合板	化粧単板のそば包み ・行う ※行わない 化粧単板の厚さ ※0.3未満	・4.2 ・	・A種 ※B種	・特殊加工化粧合板表面仕上げの種類	・マシ ・ホリスチル	・4.0 ・3.0	・A種 ※B種	品 質	検定区分	施工箇所	・ホリソ系	・1級 ・2級		・織物系	・1級 ・3級 ・4級		・アラファ系	・1級 ・2級		・ビニル系	・1級 ・2級		<p>16.1 一般事項</p> <p>16.3 セメントモルタルによるタイル張り</p> <p>16.4 有機系接着剤によるタイル張り</p> <p>17.2 材 料</p> <p>7章 塗装改修工事</p> <p>1.3 材 料</p> <p>2.2~2.7 下地調整</p> <p>3.2 塗料種別</p> <p>3.3 錆止め塗料塗り</p> <p>4.2 塗料の種別</p> <p>4.3~4.5 塗料塗り</p> <p>5.2 塗料塗り</p> <p>7.2 塗料塗り</p>	<p>8.2~8.4 塗料塗り</p> <p>9.2~9.5 塗料塗り</p> <p>10.2 塗料塗り</p> <p>11.2 塗料塗り</p> <p>12.2 塗料塗り</p> <p>13.2 塗料塗り</p> <p>14.2 塗料塗り</p>	<p>8. 耐候性塗料塗り(DP)</p> <p>鉄鋼面の種別： ・A種 ・B種 ・C種</p> <p>亜鉛めっき鋼面の種別： ・A種 ・B種 ・C種</p> <p>亜鉛めっき鋼面の上塗り塗料の等級： ・1級 ・2級 ・3級</p> <p>コンクリート面の種別： ・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種</p> <p>押出成形モルタル板の種別： ・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種</p> <p>9. つや合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)</p> <p>コンクリート面及びモルタル面の種別： ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>プラスター面の種別： ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>せっこうボード、及びその他のボード面の種別： ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>塗替えの場合のしき止め： ・標準仕様書7.9.2(b)による ・図示 ・</p> <p>屋内木部の種別(新規)： ※A種 ・B種 ・C種</p> <p>屋内木部の種別(多孔質広葉樹)： ・A種 ・B種 ・C種</p> <p>屋内木部の種別(塗替え)： ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>屋内鉄鋼面の種別： ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>屋内亜鉛めっき鋼面の種別： ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>10. 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)</p> <p>種別： ・A種 ※B種 ・C種</p> <p>塗替えの場合のしき止め： ・標準仕様書7.13.2(b)による ・図示 ・</p> <p>11. 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り(EP-T)</p> <p>コンクリート面及びモルタル面の種別： ・A種 ※B種 ・C-1種 ・C-2種 ・C-3種</p> <p>プラスター面の種別： ・A種 ※B種 ・C-1種 ・C-2種 ・C-3種</p> <p>せっこうボード等面の種別： ・A種 ※B種 ・C-1種 ・C-2種 ・C-3種</p> <p>12. ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)</p> <p>種別： ・A種 ※B種</p> <p>13. オイルステイン塗り(OS)</p> <p>塗料の種別： ・図示 ・</p> <p>14. 木材保護塗料塗り(WP)</p> <p>種別： ・A種 ※B種</p>
	種 類	記号	色柄	厚さ(mm)																																																																																																																																									
	・発泡砲層のないビニル床シート	※FS ・NS	※無地 ・マブル	※2.0 ・2.5 ・																																																																																																																																									
	・発泡層のあるビニル床シート (ケッションフロア)	・DO	・	※2.8 ・3.5																																																																																																																																									
	種 類		厚さ(mm)																																																																																																																																										
	・コバシヨビニル床タイル	半硬質(GT)	※2.0 ・																																																																																																																																										
	・コバシヨビニル床タイル	軟質(GTS)	※2.0 ・																																																																																																																																										
	・ホジコバシニル床タイル(HT)		※2.0 ・																																																																																																																																										
	・ゴム床タイル	・無地 ・マブル	・4.0 ・ ・4.0 ・																																																																																																																																										
	バイル形状	種 類	寸法(mm)	総厚さ(mm)																																																																																																																																									
・ループバイル	※第1種 ・第2種	※500x500 ・	※6.5 ・																																																																																																																																										
・カットバイル																																																																																																																																													
・カット/ループ併用																																																																																																																																													
種 類	仕上げ種類	備 考																																																																																																																																											
・弾性珪砂塗床材	※平滑 ・防滑 ・つや消し	F☆☆☆☆																																																																																																																																											
・珪砂樹脂塗床材	・薄膜流し展べ ・厚膜流し展べ： ※平滑 ・防滑 ・樹脂モルタル： ・平滑 ・防滑	F☆☆☆☆																																																																																																																																											
種 類	材 種	工 法	形式寸法等(mm) LxWx t																																																																																																																																										
・フローリングボード1等	※ナ ・ ・	・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	・500(L)x75(W)x15(t)以上																																																																																																																																										
・フローリングボード1等	※ナ ・ ・	・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り)	・303x303(L)x15(t)以上																																																																																																																																										
・複合フローリング	※ナ ・ナ ・協譲	・釘留め工法(根太張り) ・釘留め工法(直張り) ・接着工法	・A種 ・B種 ・C種 ・A種 ・B種 ・C種 ・A種 ・B種 ・C種																																																																																																																																										
規格名称	種 類	記 号	厚さ(mm)																																																																																																																																										
木質系セメント板	・木毛セメント板 ・木片セメント板	・HW ・NW ・HF ・NF	・25・50 ・																																																																																																																																										
せっこうボード製品	◎せっこうボード ・シーリングせっこうボード ・強化せっこうボード ・せっこうワタボード ・化粧せっこうボード(トリアーチン) ・化粧せっこうボード	GB-R GB-S GB-F GB-L GB-D	◎9.5◎12.5 ・9.5・12.5 ・12.5・15.0 ※9.5・7 ・9.5・12.5 ・9.5・12.5																																																																																																																																										
繊維強化セメント板	・ケイ酸カルシウム板(タイプ2)	・0.8FK ・1.0FK	・6・8・10 ・6・8・10																																																																																																																																										
ハイテクボード繊維板	・	・RS・VS ・DV・DO・DC																																																																																																																																											
火山性ガラス質複層板(VSボード)	・																																																																																																																																												
材 種	樹種、防虫・難燃・防煙処理等	厚さ(mm)	工法																																																																																																																																										
・難燃合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ・ワシ ・ 不透明塗料塗りの場合 ・シナ【1級・2級】	・4 ・5.5 ・6 ・	・A種 ※B種																																																																																																																																										
・普通合板	・ワシ ・シナ	・1類 ・2類	・A種 ※B種																																																																																																																																										
・捨張り用合板	・南洋材 ・針葉樹	・型特用 ・構造用	・9 ・12 ・																																																																																																																																										
・有孔合板	・シナ	・1類 ・2類	・4 ・6 ・A種 ※B種																																																																																																																																										
・天然木化粧合板	化粧単板のそば包み ・行う ※行わない 化粧単板の厚さ ※0.3未満	・4.2 ・	・A種 ※B種																																																																																																																																										
・特殊加工化粧合板表面仕上げの種類	・マシ ・ホリスチル	・4.0 ・3.0	・A種 ※B種																																																																																																																																										
品 質	検定区分	施工箇所																																																																																																																																											
・ホリソ系	・1級 ・2級																																																																																																																																												
・織物系	・1級 ・3級 ・4級																																																																																																																																												
・アラファ系	・1級 ・2級																																																																																																																																												
・ビニル系	・1級 ・2級																																																																																																																																												
<p>設計番号 24021</p> <p>工事名 徳島市民病院 5階病棟改修工事</p> <p>図名 改修工事特記仕様書(4)</p> <p>縮尺 -</p> <p>04 意</p>																																																																																																																																													
<p>徳島市病院局</p>																																																																																																																																													

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
8章 耐震 改修 工事	1.4 コンクリートの品質	スランプ： ※18cm ・図示 ・ コンクリート部材の許容差及び測定方法： ・標準仕様書8.1.4(d)(1)による ・ 打放し仕上げの種別（合板せき板を用いる場合）	8章 耐震 改修 工事	2.9 高力ボルト	種類： ・トルク型高力ボルト2種(S10T) ・JISの高力ボルト2種(F10T) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種(F8T相当)	8章 耐震 改修 工事	12.2 穿孔	1.2. あと施工アンカー工事	8章 耐震 改修 工事	23.1 適用範囲	2.3. 柱補強工事
	1.5 鉄骨製作工場	製作工場のグレードは下記同等以上で大臣認定された工場とする： ・Sグレード ・Hグレード ・Mグレード ・Rグレード ・Jグレード 施工監理技術者： ・適用する ・適用しない		2.10 溶接材料	高力ボルトの径： ・図示 ・ 溶接棒等（標準仕様書表8.2.7）及びガス以外の溶接材料： ・図示 ・		12.5 施工確認試験	12.5 施工確認試験		23.5 溶接金網巻き工法	工法の種別： ・構造特記仕様書による ・溶接金網巻き工法 ・溶接閉鎖フープ巻き工法 ・鋼板巻き工法 ・帯板巻き付け工法
2.1 鉄筋	鉄筋の種類： ・SR295 ・SD295A ・SD295B ・SD345 ・SD390 ・図示 ・	2.2 溶接金網	2.11 柱底均しモルタル及び打放し	モルタルの種類： ・図示 ・無収縮モルタル ・ 無収縮モルタルの割合： ※標準仕様書8.2.10(b)(1)～(4)による ・図示 ・	13.10 仮組	23.6 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法	外部に面する打放し仕上げの増打厚さ： ・25mm ・20mm ・15mm ・ 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用： ・適用する ・適用しない 打込み工法： ・流込み工法 ・圧入工法 ・図示 ・	23.7 仕上げ	23.6 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法	柱脚の隙間： ・図示 ・設かない ・設ける 柱頭の隙間： ・図示 ・設かない ・設ける 補強工事後の仕上げ： ・図示 ・	
2.4 あと施工アンカー	◎金属系アンカー 引張耐力： ・図示 ・ せん断耐力： ・図示 ・ アンカー本体の径： ・図示 ・ アンカー本体の埋込深さ： ・図示 ・ アンカー本体のセット方式： ・図示 ・本体打込み式改良型 ・ 接合筋の径及び長さ： ・図示 ・ ◎接着系アンカー 引張耐力： ・図示 ・ せん断耐力： ・図示 ・ アンカーの種類： ・図示 ・カブ型 ・ アンカー筋の径： ・図示 ・ アンカー筋の埋込深さ： ・図示 ・ アンカー筋の種類： ・図示 ※異形棒鋼 ・ アンカー筋の新設室内への定着長さ： ・図示 ※標準仕様書8.2.4(c)(6)による あと施工アンカーの性能確認試験： ・行う ・行わない ・	2.5 コンクリートの材料及び調合	2.12 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等	引張強度、ヤング係数等： ・図示 ・ 引張りを受ける鋼板の試験： ・適用する ・適用しない ・図示 ・ 杭の材料： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 杭の継手、工法等： ・構造特記仕様書による ・図示 ・	14.2 摩擦面の性能及び処理	15. 溶接接合	1.5. 溶接接合	溶接技術者の技量付加試験： ・行わない ・行う 開先の形状： ・図示 ・ エンドタブの切除の有無： ・有り ・無し 【エンドタブの切除の適用箇所： ・図示 ・ スカラップの形状： ・図示 ・	25.2 施工	25.2 施工	2.5. 耐震スリット新設工事
2.6 構造体用鉄筋の材料及び調合	セメントの種類： ※普通ポルトランドセメント ※混合セメントA種 ・高炉セメント ・フライアッシュセメント フェロニッケルslag細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・B 鋼スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 電気炉酸化スラグ細骨材の使用： ・使用する ・使用しない 混和剤： ・AE剤 ・AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・ 混和材： ・フライアッシュ ・高炉スラグ微粉末 ・膨張剤 ・	2.7 型枠の材料	2.13 鋼材の材料試験等	2.14 基礎工事に用いる材料	15.3 技能資格	◎工場溶接の場合	◎工場溶接の場合	製作工場の社内検査： ・行わない ※行う（全数検査を行い試験結果報告書を提出） 第三者機関による検査： ※行う ・行わない A O Q L： ・2.5% ※4.0% 検査水準： ・第1水準 ・第2水準 ・第3水準 ・第4水準 ・第5水準 ※第6水準	26.7 支承材・減衰材	26.7 支承材・減衰材	2.6. 免震改修工事
2.8 鋼材	鋼材の材質： ・下表による ・図示 ・		3. 鉄筋の加工及び組立	3.4 継手及び定着	15.4 材料準備	◎工事現場溶接の場合	◎工事現場溶接の場合	第三者機関による検査： ※行う ・行わない A O Q L： ・2.5% ※4.0% 放射線透過試験： ・適用する ・適用しない	26.10 支承材又は減衰材の設置	26.10 支承材又は減衰材の設置	2.7. 制振改修工事
			4. 鉄筋の機械式継手及び溶接継手	3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	15.5 溶接施工	17.3 塗料の種類	17.3 塗料の種類	SR C造の鋼製スリーブ（鉄骨に溶接されたもの）の内面： ・図示 ・標準仕様書 表7.3.1【A種 ・B種 ・C種】 ・ 耐火被覆材の接着面： ・図示 ・標準仕様書 表7.3.1【A種 ・B種 ・C種】 ・	26.13 仕上げ	26.13 仕上げ	2.8. 基礎工事
			4.2 機械式継手	3.7 壁の配筋及び補強	17.7 溶接部の試験	18.2 種別及び性能	18.2 種別及び性能	耐火被覆材の種類及び性能： ※図示 ・	26.14 耐火被覆	26.14 耐火被覆	既存杭の撤去、方法等： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 既存杭の処理等： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 既存杭の補強： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 既存杭の試験： ・構造特記仕様書による ・図示 ・
			4.3 溶接継手	3.8 ガス圧接	18.2 種別及び性能	20.4 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	20.4 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	2.0. 溶融亜鉛めっき工法	26.15 免震材のジョイント等	26.15 免震材のジョイント等	2.9. 基礎工事
			7. コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め	4.2 機械式継手	20.4 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	21.2 既存部分の撤去等	21.2 既存部分の撤去等	2.1. 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	26.16 検査	26.16 検査	既存杭の撤去、方法等： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 既存杭の処理等： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 既存杭の補強： ・構造特記仕様書による ・図示 ・ 既存杭の試験： ・構造特記仕様書による ・図示 ・
			7.8 型枠工事	4.3 溶接継手	21.2 既存部分の撤去等	21.3 既存部分の処理	21.3 既存部分の処理	2.2. 鉄骨ブレースの設置工事			
			9. 軽量コンクリート	4.4 機械式継手	21.3 既存部分の処理	21.6 鉄筋の加工、組立	21.6 鉄筋の加工、組立	2.2. 鉄骨ブレースの設置工事			
			9.1 一般事項	4.4 機械式継手	21.6 鉄筋の加工、組立	21.8 コンクリートの打込み	21.8 コンクリートの打込み	2.2. 鉄骨ブレースの設置工事			
			10. 材料及び調合	4.4 機械式継手	21.8 コンクリートの打込み	21.9 既存との取合い	21.9 既存との取合い	2.2. 鉄骨ブレースの設置工事			
			11.1 一般事項	4.4 機械式継手	21.9 既存との取合い	21.10 仕上げ	21.10 仕上げ	2.2. 鉄骨ブレースの設置工事			
				4.4 機械式継手	21.10 仕上げ	22.7 既存との取合い	22.7 既存との取合い	2.2. 鉄骨ブレースの設置工事			
				4.4 機械式継手	22.7 既存との取合い	22.9 仕上げ	22.9 仕上げ	2.2. 鉄骨ブレースの設置工事			

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	備考																		
8章 耐震 改修 工事	28.3 土工	◎埋戻し及び盛土 種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・搬入まさ土（砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする） ◎建設発生土の処理 ・現場説明書による ・構外搬出適切処理 ※構内指定場所堆積 ・構内指定場所敷均し ・他現場に搬入（ ） ・ ・指定処分地（ ） ◎山留めの撤去 ・撤去 ・存置 ・ ◎試験杭 試験杭の位置、本数、寸法： ・図示 ・ ◎載荷試験 載荷試験： ・水平試験 ・鉛直試験 ・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重： ・図示 ・ 試験方法： ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等： ・図示 ・ ◎地盤の載荷試験 載荷試験： ・平板載荷試験 ・ 試験の位置、載荷荷重： ・図示 ・ 試験方法： ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等： ・図示 ・ ◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」4章【地業工事】による。	8章 耐震 改修 工事	公5.47' 鋼工法 リンズ 工法・オレフィン工法 公5.5 場所打鋼管コンクリート 杭工法、掘削杭工法 公6.3 砂利及び砂地業 公6.4 捨てコンクリート地業 公6.5 床下防湿層	支持地盤の位置、種類： ・図示 ・ 杭孔壁の超音波測定： ・行わない ・行う（ ） 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ◎砂利、砂、捨てコンクリート地業等は 「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」4章【地業工事】による。 砂利及び砂地業の厚さ： ・図示 ※60mm ・100mm ・120mm ・150mm ・ 捨てコンクリートの厚さ： ・図示 ※50mm ・ mm ・120mm ・150mm ・ 床下防湿層の適用： ・適用しない ・適用する ・図示 床下防湿層の範囲： ・図示 ・	9章 環境 配慮 改修 工事	5.4 断熱材後張り工法	種類 ・ビーズ法® リスフレフォーム ・押出法® リスフレフォーム ・硬質ウレタンフォーム ・フォーム 種別 ・ ・3種：土間コンクリート下 ・A種 ・ 厚さ(mm) ・25 ・25 ・50 ・ ・ 接着剤の単位面積放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・	9章 環境 配慮 改修 工事	6.2 材料	6. 屋上緑化改修工事 芝の種類： ・コライタム® ・ノシバ® ・ 地被類の樹種／芽立数／コンテナ径／コンテナ数： ・図示 ・ 縁材、舗装材、水抜き管、マルチング材等： ・図示 ・ 建設省告示第1458号に対応した工法： ・ 灌水装置の設置／種類： ・設置しない ・設置する【種類： ・図示 ・ 】 既存保護層等の撤去： ・撤去しない ・撤去する 新植芝、地被類の枯死保証期間： ・1年 ・半年 ・	参考 メー カー 等 リス ト	6.3 工法	7. 透水性アスファルト舗装改修工事 既存舗装の撤去： ・撤去しない ・撤去する【範囲等： ・図示 ・改修部分全面】 既存舗装の再利用： ・再利用しない ・再利用する【範囲等： ・図示 ・改修部分全面】 凍上抑制層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm 透水性舗装のフィルター層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： 車道部【 ・150mm ・ mm】 歩道部【 ・50mm ・ mm】 路床安定処理の適用： ・適用しない ・適用する 路床安定処理の方法： ・添加材料による処理 ・図示 ・ 処理内容：【厚さ： ・300mm ・ mm】 【目標CBR： ・5以上 ・ mm】 盛土の種類： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 フィルター層の材料： ・砂 ・図示 ・ 砂の品質： ・75μmふるい通過量10%以下 ・ 路床安定処理用添加材料： ・普通® トラッドセメント ・高炉セメントB種 ・フライッシュセメント ・生石灰【 ・特号 ・1号】 ・消石灰【 ・特号 ・1号】 ジオテキスタイルの適用： ・適用しない ・適用する； 路床土のCBR試験： ・行わない ・行う【 ・乱した土 ・乱さない土】 路床締固め度試験： ・行う ・行わない 車道部の路盤の厚さ： ・図示 ・150mm ・ 歩道部の路盤の厚さ： ・図示 ・100mm ・ 路盤の材料： ※砕石【 ※クラッシュ ・粒度調整砕石】 ※再生材【 ※クラッシュ ※クラッシュ鉄鋼スラグ ・粒度調整砕石】 舗装の厚さ(mm)： 車道部【 ・50mm ・ mm】 歩道部【 ・30mm ・ mm】 舗装の平坦性： ・図示 ※標準仕様書による ・ アスファルトの種類（車道部）： ・図示 ※® リー改質アスファルトⅠ型 ・® リー改質アスファルトⅡ型 ・ アスファルトの種類（歩道部）： ・図示 ※ストレートアスファルト アスファルトの抽出試験： ・行う ・行わない	6.4 枯補償	7.2 既存舗装の撤去 及び再利用	7.3 路床	7.4 路盤	7.5 舗装の構成 及び仕上り	7.9 試験	10.1 作業流し台	ポストフォームカウンター メーカー： アイカ工業 同等	指定 工事 ／ 業者 等 リス ト	項目	業者名・連絡先	備考	施工 支 給 品 リス ト	項目	摘要	備考
	28.4 地業工事	◎公4章 地業工事 公3.1 適用範囲 公3.2 材料 公3.3 打込み工法 公3.4 打込み工法 公3.4 セメント工法 公3.5 特定埋設杭工法 公4.1 適用範囲 公4.2 材料 公5.1 適用範囲 公5.3 材料その他		1.1 一般事項 閉じ込み処理： ・適用しない ・適用する【処理方法： ・図示 ・ 開い込み処理： ・適用しない ・適用する【処理方法： ・図示 ・ アスベスト含有建材撤去後の仕上げ： ・図示 ・ 分析によるアスベスト含有の調査： ・JIS A 1481-2 ・JIS A 1481-3 アスベスト粉塵濃度測定： ・行わない ・行う ・図示 ・ 1.3 アスベスト含有 吹付け材の除去 除去工法： ※標準仕様書9.1.3(b)(1)による ・図示 ・ 除去物の処理： ※密封処理 ・セメント固化 ・図示 ・ 2. 断熱アスファルト防水改修工事 施工部位 工法／種別 備考 ・PHR階屋上 ・P1B1／・BI-1 ・BI-2 断熱材： t= ・P2A1／・AI-1 ・AI-2 断熱材： t= ・POD1／・DI-1 ・DI-2 断熱材： t= ・T1B1／・BI-1 ・BI-2 断熱材： t= ・M3D1／・DI-1 ・DI-2 断熱材： t= ・M4D1／・DI-1 ・DI-2 断熱材： t= 3. 外断熱改修工事 断熱材の種類及び厚さ： ・図示 ・ 外装材の種類及び防火性能： ・図示 ・ 3.3 既存外壁の処置 既存外壁仕上げ材の撤去： ・図示 ・全面撤去 ・部分撤去 ・ 既存外壁下地面の清掃： ・図示 ・ 既存外壁下地欠損部の改修方法： ・図示 ・ 断熱材の施工方法： ※メーカー仕様による ・図示 ・ 外装材の施工： ・図示 ・ 4. ガラス改修工事 複層ガラスの種類・組合せ・厚さ： ・図示 ・ 複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性区分： ※U3-1 ・U3-2 5. 断熱・防露改修工事 種類 種別 厚さ(mm) ・ビーズ法® リスフレフォーム ・押出法® リスフレフォーム ・硬質ウレタンフォーム ・フォーム ・25 ・25 ・50 ・A種 ・ ・ 接着剤の単位面積放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 材料： ・吹付け硬質ウレタンフォーム ・ 種類： ・A種1 ・ 難燃材： ・1級 ・2級 ・3級 吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25 ・30 ・20	1.1 一般事項 閉じ込み処理： ・適用しない ・適用する【処理方法： ・図示 ・ 開い込み処理： ・適用しない ・適用する【処理方法： ・図示 ・ アスベスト含有建材撤去後の仕上げ： ・図示 ・ 分析によるアスベスト含有の調査： ・JIS A 1481-2 ・JIS A 1481-3 アスベスト粉塵濃度測定： ・行わない ・行う ・図示 ・ 1.3 アスベスト含有 吹付け材の除去 除去工法： ※標準仕様書9.1.3(b)(1)による ・図示 ・ 除去物の処理： ※密封処理 ・セメント固化 ・図示 ・ 2. 断熱アスファルト防水改修工事 施工部位 工法／種別 備考 ・PHR階屋上 ・P1B1／・BI-1 ・BI-2 断熱材： t= ・P2A1／・AI-1 ・AI-2 断熱材： t= ・POD1／・DI-1 ・DI-2 断熱材： t= ・T1B1／・BI-1 ・BI-2 断熱材： t= ・M3D1／・DI-1 ・DI-2 断熱材： t= ・M4D1／・DI-1 ・DI-2 断熱材： t= 3. 外断熱改修工事 断熱材の種類及び厚さ： ・図示 ・ 外装材の種類及び防火性能： ・図示 ・ 3.3 既存外壁の処置 既存外壁仕上げ材の撤去： ・図示 ・全面撤去 ・部分撤去 ・ 既存外壁下地面の清掃： ・図示 ・ 既存外壁下地欠損部の改修方法： ・図示 ・ 断熱材の施工方法： ※メーカー仕様による ・図示 ・ 外装材の施工： ・図示 ・ 4. ガラス改修工事 複層ガラスの種類・組合せ・厚さ： ・図示 ・ 複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性区分： ※U3-1 ・U3-2 5. 断熱・防露改修工事 種類 種別 厚さ(mm) ・ビーズ法® リスフレフォーム ・押出法® リスフレフォーム ・硬質ウレタンフォーム ・フォーム ・25 ・25 ・50 ・A種 ・ ・ 接着剤の単位面積放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 材料： ・吹付け硬質ウレタンフォーム ・ 種類： ・A種1 ・ 難燃材： ・1級 ・2級 ・3級 吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25 ・30 ・20		5.4 断熱材後張り工法	6.2 材料		6.3 工法	6.4 枯補償		7.2 既存舗装の撤去 及び再利用	7.3 路床	7.4 路盤	7.5 舗装の構成 及び仕上り	7.9 試験	10.1 作業流し台	項目	業者名・連絡先	備考	項目		摘要	備考					

建築概要

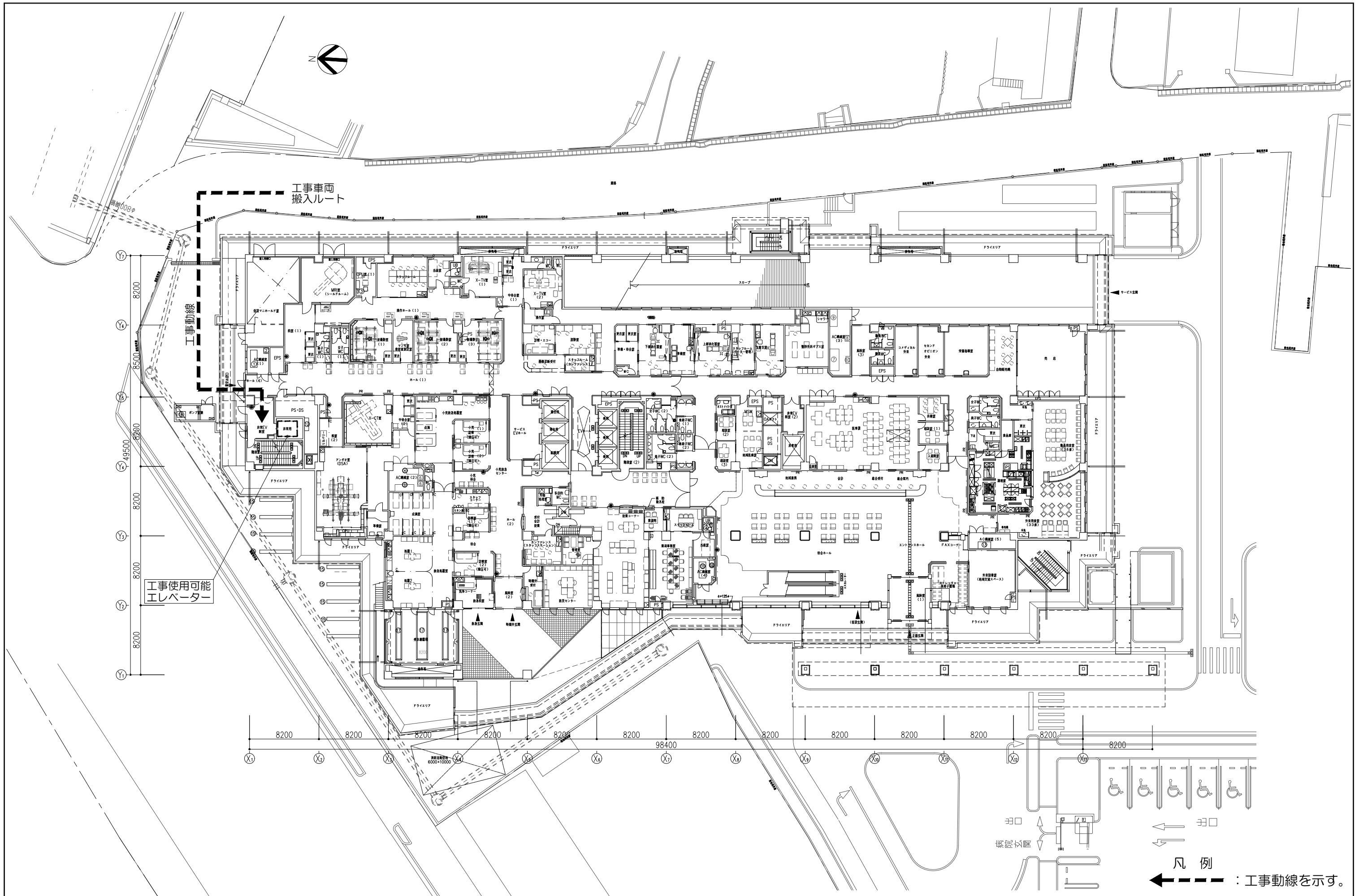
建築場所	徳島県徳島市北常三島町二丁目34番
用途地域	商業地域（東側道路対面は第1種住居地域）
防火地区	指定なし 法22条指定区域
建蔽率の限度	80%（≦ 12,000 m ² ）
容積率の限度	400%（≦ 60,000 m ² ）
日影規制	5m-5時間、10m-3時間（測定面：地盤面+4m）
構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下1階 地上12階 + 塔屋1階
敷地面積	15,539.25 m ²
延床面積	30,721.70 m ² （容積率対象面積 30,527.30 m ² ）
建築面積	4,740.24 m ²
道路	前面道路 国道11号 巾員 31m 東側計画道路 巾員 7~8m
その他	道路斜線 1.5/1（適用距離20m）
	駐車台数 205台（敷地内150台、敷地外75台）
	必要駐車台数（30,750/150=205台 内大型用205×0.3=62台 車椅子5台）
	駐輪台数 160台



工事概要
①病院本館5階病棟の改修

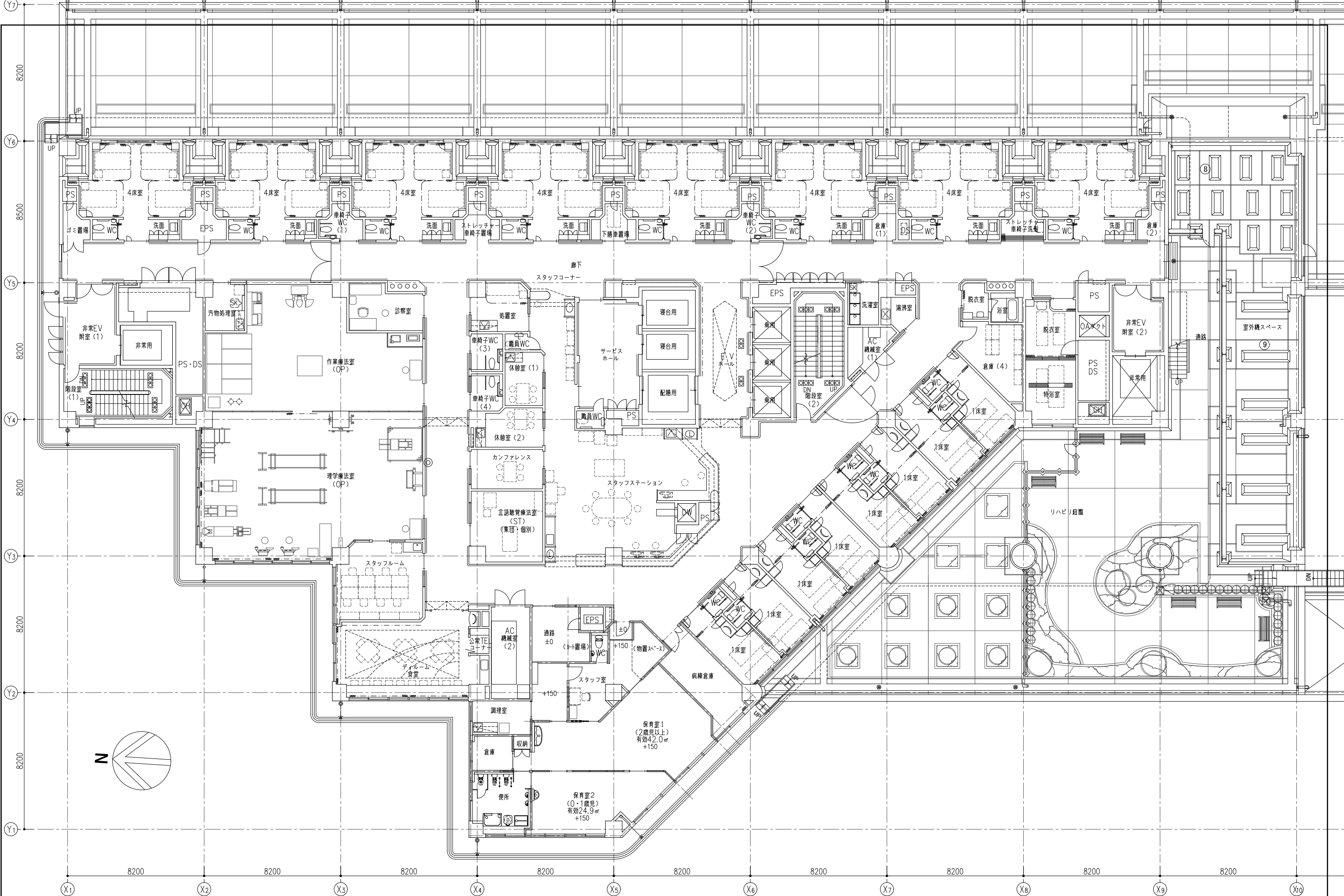
特記事項
※工事資材置き場及び工事車両駐車スペースは敷地内とするが、詳細は工事着手時に病院担当職員と協議の上、決定とする。
※工事にかかる、工事エリアまでの作業員の動線については工事着手時に病院担当職員と協議の上、決定とする。

- 凡例
- ◻：病院本館5階部分を示す。
 - ←-：工事車両搬入ルート（想定）



凡例
 : 工事動線を示す。

設計番号	24021	工事名	徳島市市民病院 5階病棟改修工事	縮尺	A3:1/400	08
図名			1階平面図		A1:1/200	意
徳島市病院局						



設計番号 24021	工事名 徳島市民病院 5階病棟改修工事	縮尺 A3:1/200 A1:1/100	09 意
図名 5階病床平面図(改修前)			
徳島市病院局			



特記事項

- EV、建物内出搬入ルート（廊下）は、病院と十分に協議し使用時には養生の上、使用すること。
- 工事範囲への搬入路は、1階指定場所とし、屋内廊下等使用時は床にビニール養生等対策を行うこと。
- 工事期間中、大掛りな撤去搬出及び資材搬入においては、5階既存廊下に監視員を適時適切に配置すること。
- 病院運営が行われているため、入院患者及び病院スタッフへの配慮を十分に行い、そのことを作業員へ伝達を行うこと。

- 工事資材等出搬入時、廊下を通行する際は、ごみ・塵埃等に十分配慮すること。
- 法令に基づく石綿（アスベスト）の使用の有無の調査（事前調査）を行うこと。
- 工事期間中は窓を開けるなど、工事範囲の塵埃に十分配慮すること。

工事概要

①4床室を個室に改修
 (建築)・建具(スチールパーテーション)新設設置
 (建築)・既存外壁建具ガラス1枚を強制排気ダクト接続するため(建築・設備)アルミパネルに取替及びベントキャップ新設
 (設備)・新設建具に干渉する消防設備の移設及び追加
 (設備)・新設建具に干渉する空調設備の撤去

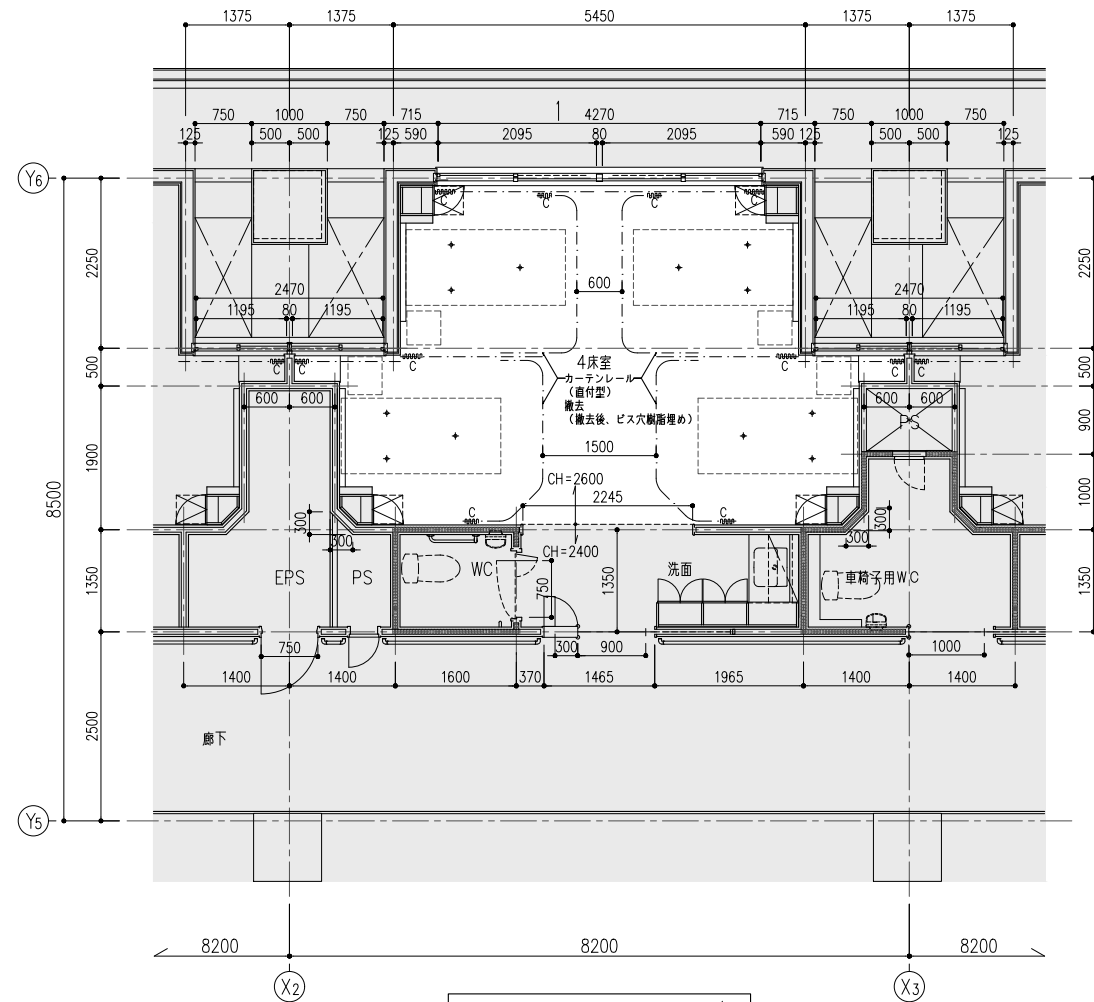
②前室を新設
 (建築)・建具新設設置
 (設備)・新設建具に干渉する消防設備の移設及び追加
 (設備)・廊下機械排煙区画変更による改修(天井張替え約30㎡)(範囲は機械図面による)

③建具を新設
 (建築)・建具新設設置

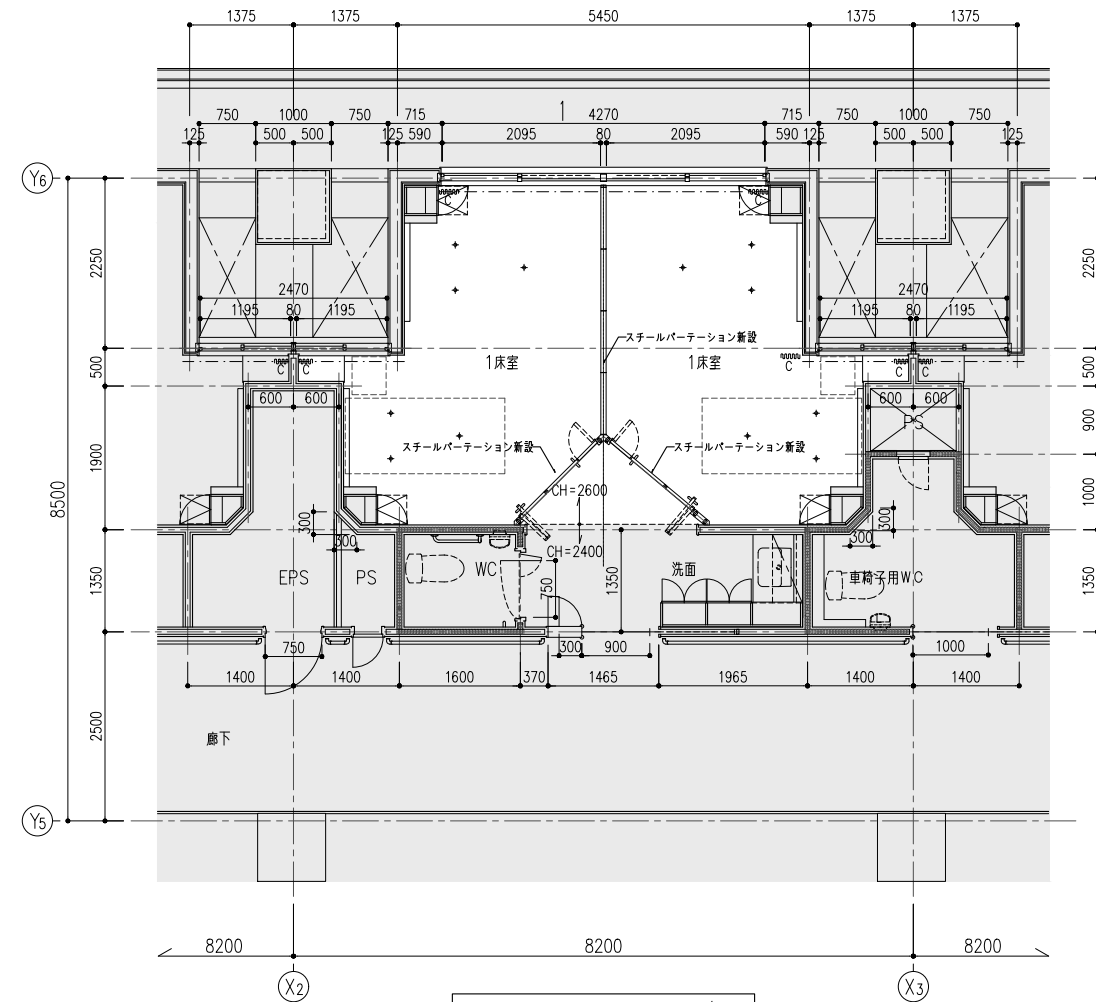
④4床室を汚物室に改修
 (建築)・既存外壁建具ガラス1枚をアルミパネルに取替
 (設備)・3種換気扇を新設設置

⑤4床室を透析室に改修
 (建築・設備)・既存外壁建具ガラス1枚を強制排気ダクト接続するためアルミパネルに取替及びベントキャップ新設
 (設備)・既存手洗の配管に透析用排水用接続口を設置

凡例
 [] : 改修工事範囲を示す。
 - - - : 仮設間仕切りを示す。

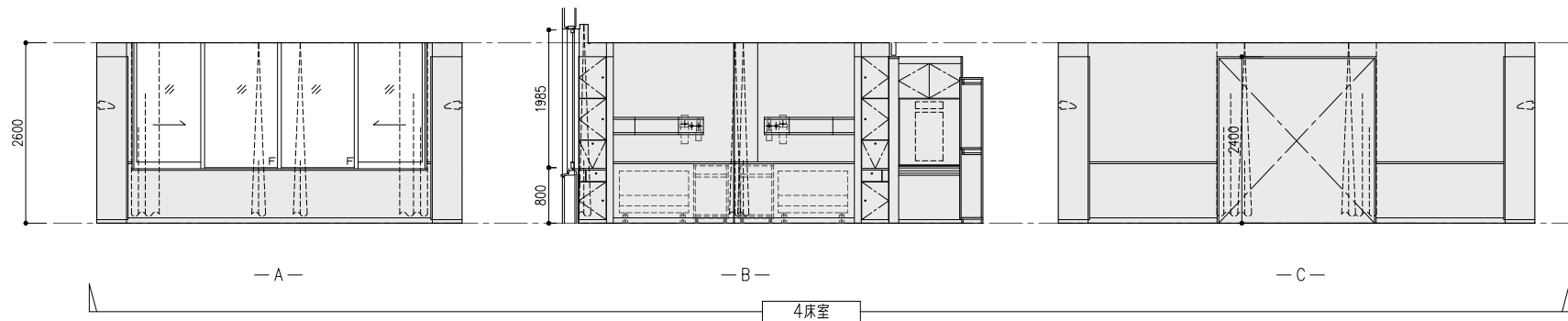


病床 平面詳細図(改修前) 撤去図 1/50



病床 平面詳細図(改修後) 1/50

■スチールパーティション設置に伴い、天井下地盤強を行うため、スチールパーティション設置部分の天井W200程度撤去新設とする
天井設置撤去に伴い、窓ぎ補修工事も本工事に含む。



4床室

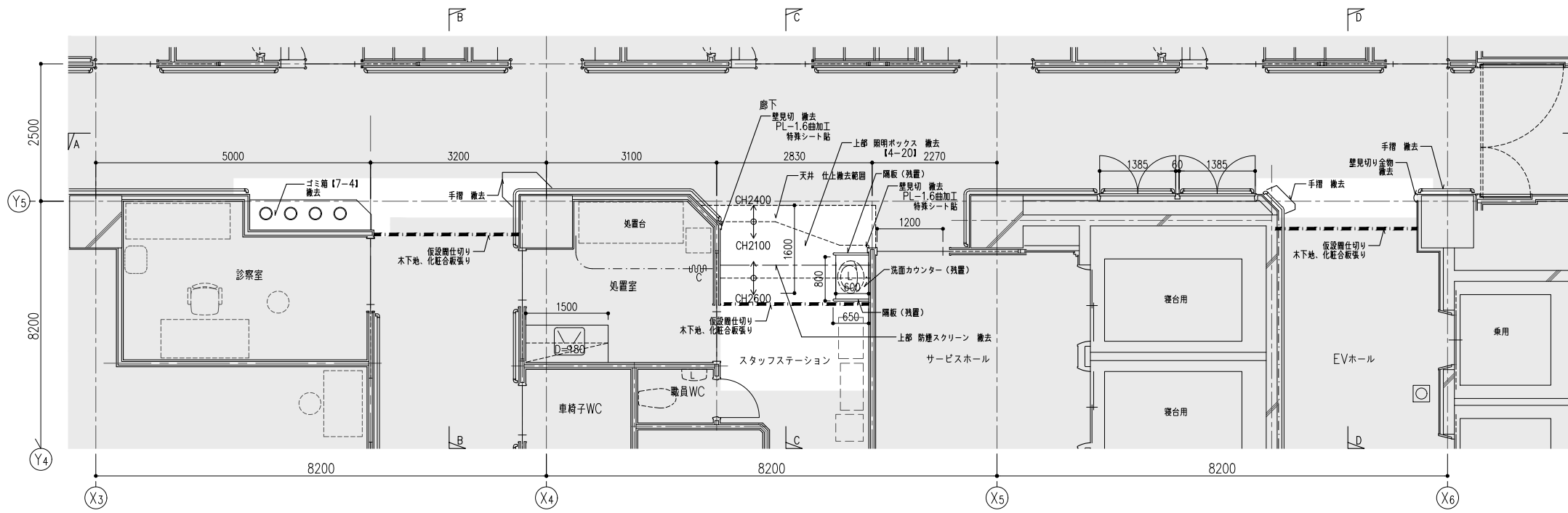
仕上表						
室名	防水	床	巾木	腰	壁	天井
4床室		リノリウム	硬質塩ビ	塩ビシート H=900	ビニルクロス	ビニルクロス
洗面					(石膏ボード12.5+9.5不燃 石膏ボード12.5G)	(石膏ボード9.5不燃)
4床室WC		塩ビシートt2.0	シート立ち上げ H=100		合成樹脂エマルジョンペイント	化粧石膏ボード9.5(不燃)
					(石膏ボード12.5+9.5不燃 石膏ボード12.5G)	塩ビ製

*4床室天井(入口上部)の空調機撤去等により、天井張りを2m/室を行う。
 *4床室天井(入口上部)に点検口450角(内外枠隠れタイプ)新設設置。
 *仕上げは参考とし、特記なき部分は既存のままとする。

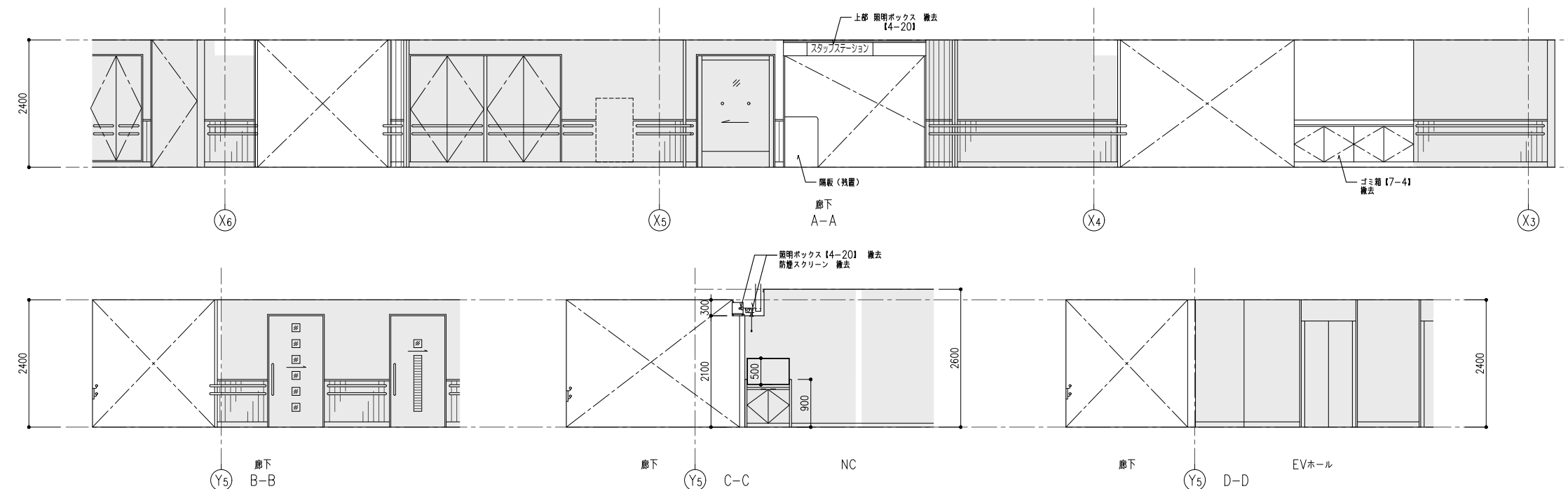
凡例
 : 改修範囲外を示す。

設計番号	工事名	徳島市民病院 5階病棟改修工事	縮尺	11
24021	図名	4床室改修図(改修前後)	A3:1/100 A1:1/50	意

徳島市病院局

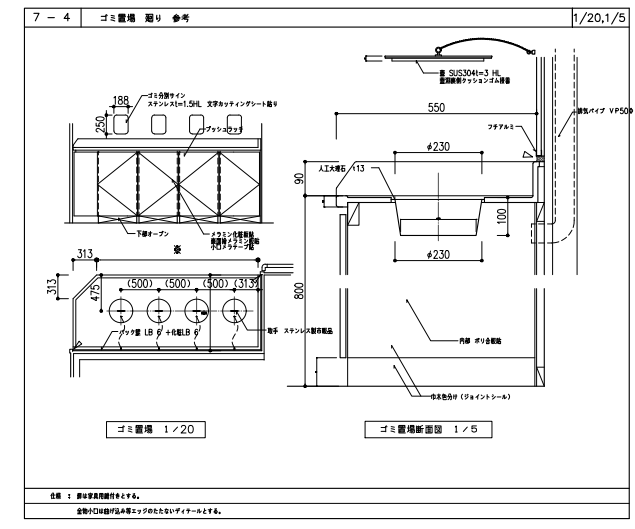


廊下廻り詳細図-1 (改修前) 1/50

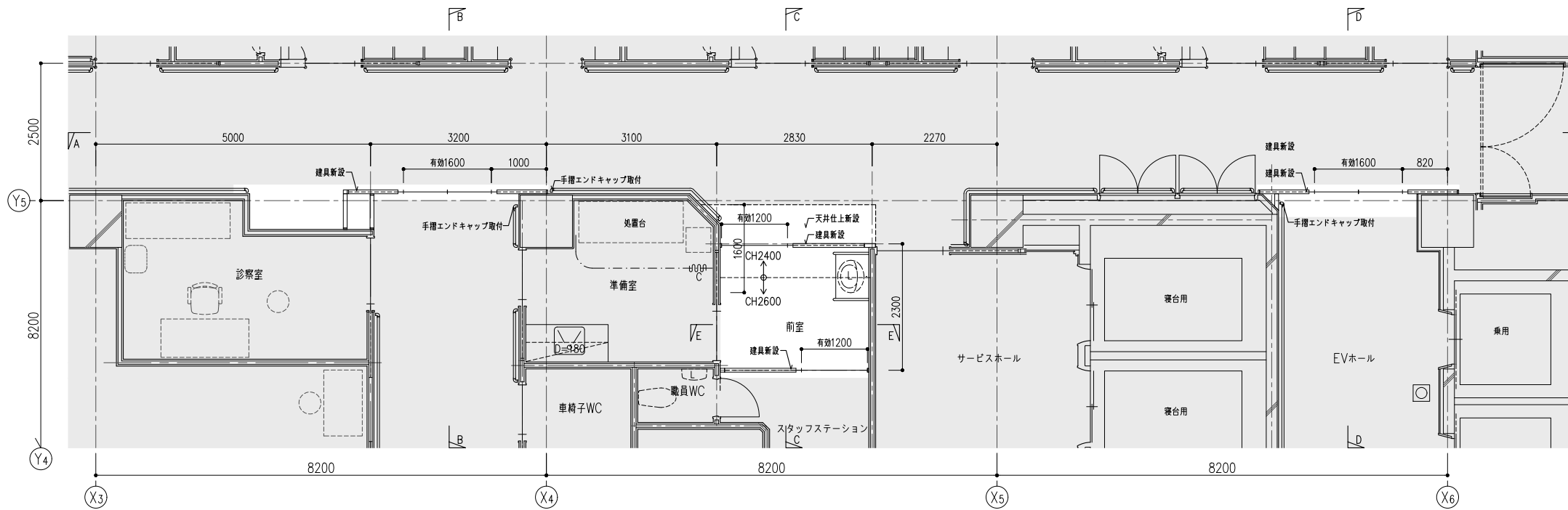


室名	防水	床	巾木	腰	壁	天井	天井高 天井廻り縁
スタッフステーション		塩ビシートt2.0	ビニール H=75		合成樹脂エマルジョンペイント (石こうボード12.5+9.5不燃 石こうボード12.5GL)	岩綿吸音板9 (直張)	2,600 78ミ
病棟廊下		塩ビシートt2.8	硬質塩ビ	塩ビシート H=900	クロスベンキ (石こうボード12.5+9.5不燃 石こうボード12.5GL)	岩綿吸音板9 (直張)	2,400 78ミ
EVホール		塩ビシートt2.8模縁貼	大理石 (EV面) ステンレス H=100		大理石 (EV面) 化粧ケイ酸カルシウム板	岩綿吸音板12 (石こうボード9.5不燃) 上り天井 特殊シート張り	2,400~2,700 78ミ

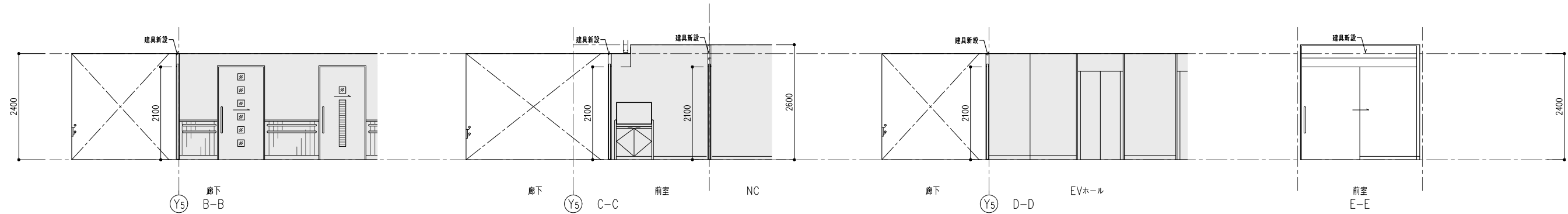
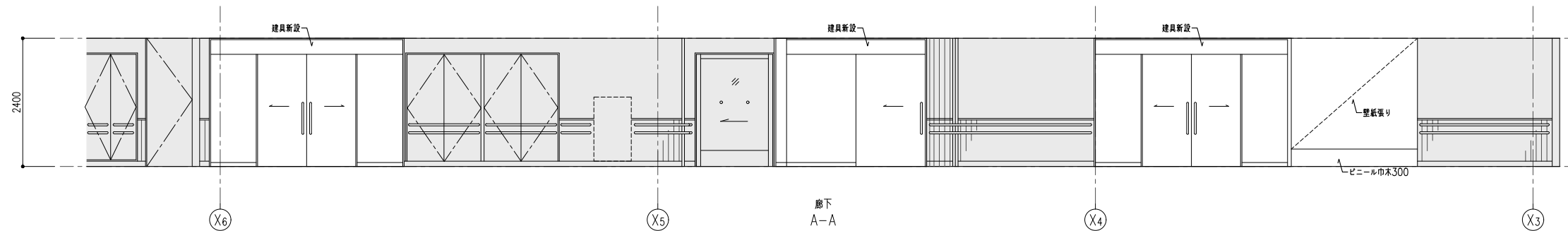
*特記なき部分は既存のままとする。



凡例
: 改修範囲外を示す。



廊下廻り詳細図-1 (改修後) 1/50



室名	防水	床	巾木	腰	壁	天井	天井高 天井廻り縁
スタッフステーション		塩ビシートt2.0	ビニール H=75		合成樹脂エマルジョンペイント (石こうボード12.5+9.5F種 石こうボード12.5QL)	岩綿吸音板9 (直張)	2,600 アルミ
前室		塩ビシートt2.8	硬質塩ビ	塩ビシート H=900	クロスベンキ	岩綿吸音板9 (直張)	2,400
病棟廊下		塩ビシートt2.8(換紙貼)	大理石 (EV面)	ステンレス H=100	大理石 (EV面)	岩綿吸音板12 (石こうボード9.5F種)	2,400~2,700 アルミ
EVホール		塩ビシートt2.8(換紙貼)	大理石 (EV面)	ステンレス H=100	化粧ケイ酸カルシウム板	上り天井 特殊シート張り	アルミ

※特記なき部分は既存のままとする。
 ※天井点検口450角(内外枠鋼線タイプ)5ヶ所新設置。
 ※既存壁で補修等する場合は、壁紙張りとする。

※新設前室範囲の天井は全て、設備改修に伴い、張替とする。
 ※病棟廊下の設備改修(換気ファン交換)に伴い、天井撤去張替とする。(約2㎡2箇所)

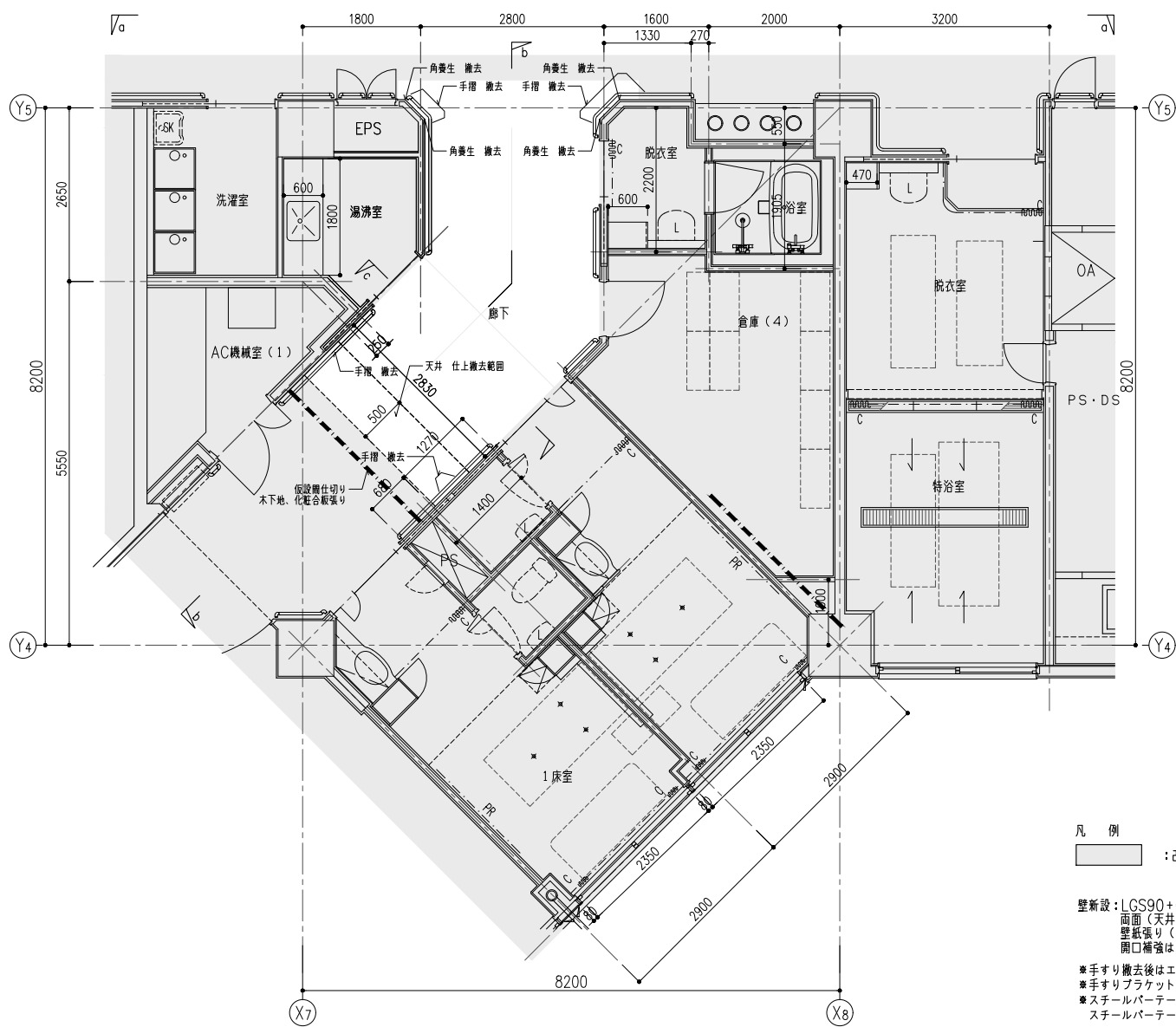
凡例

■ : 改修範囲外を示す。

壁新設: LGS65+GB12.5+12.5
 高面(天井まで)
 壁紙張り(ビニール巾木300)
 開口補強はスラブ下までとする。

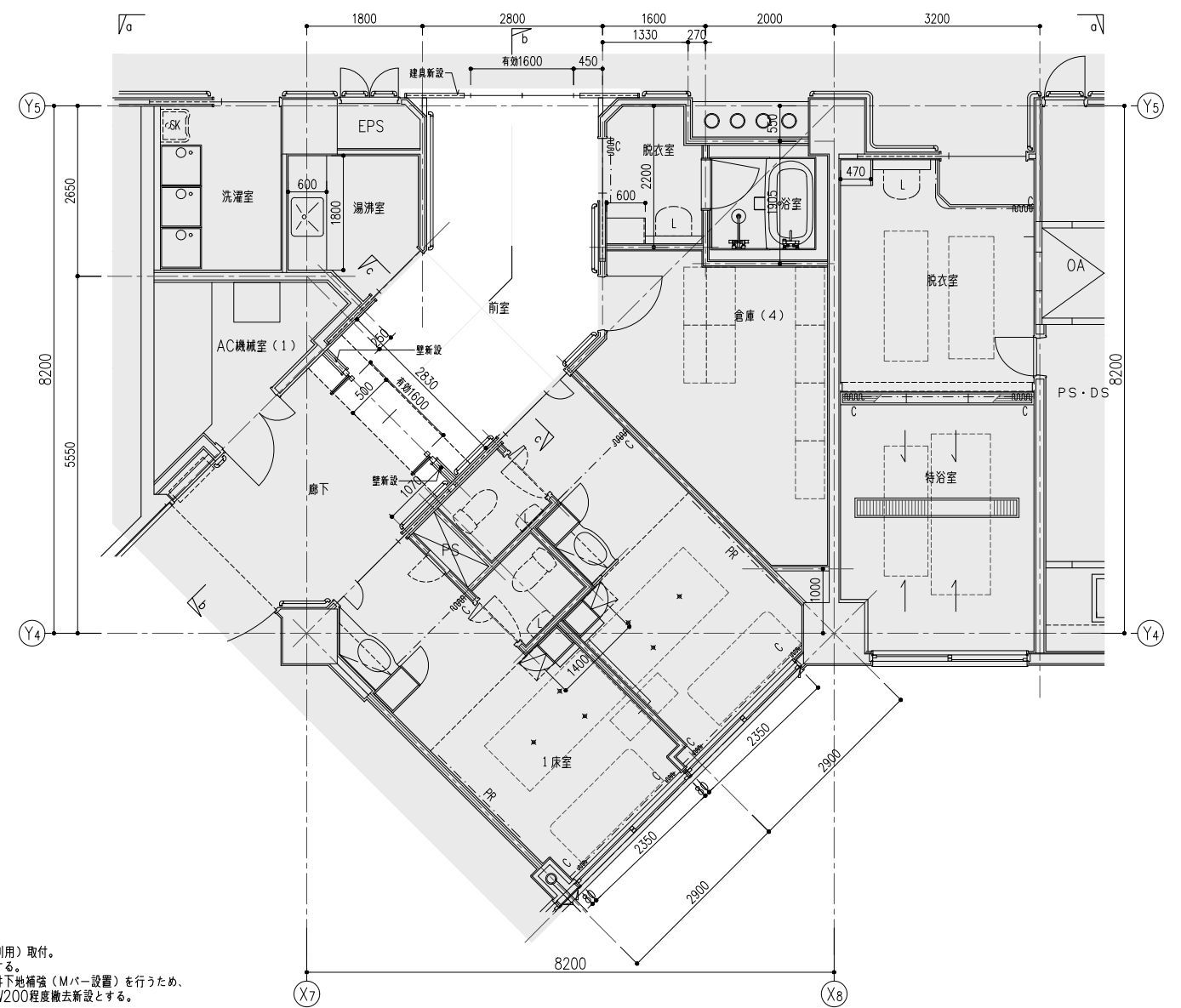
※手すり撤去後はエンドキャップ(既存再利用)取付。
 ※手すりブラケット撤去後は穴埋め補修とする。
 ※スチールパーテーション設置に伴い、天井下地補強(Mバー設置)を行うため、スチールパーテーション設置部分の天井W200程度撤去新設とする。

設計番号	工事名	図名	縮尺	頁
24021	徳島市民病院 5階病棟改修工事	廊下廻り詳細図-1 (改修後)	A3: 1/100 A1: 1/50	13 意

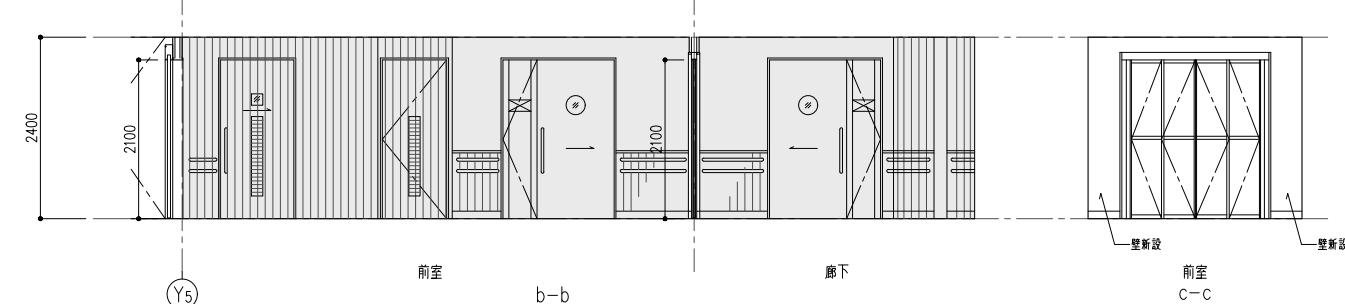
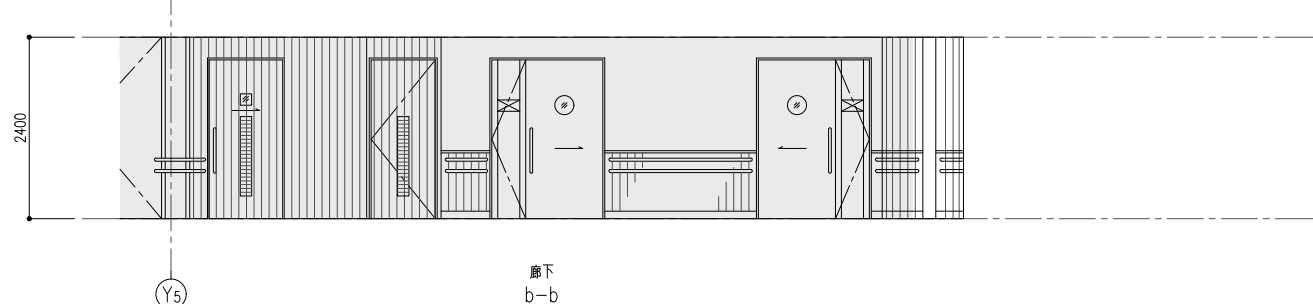
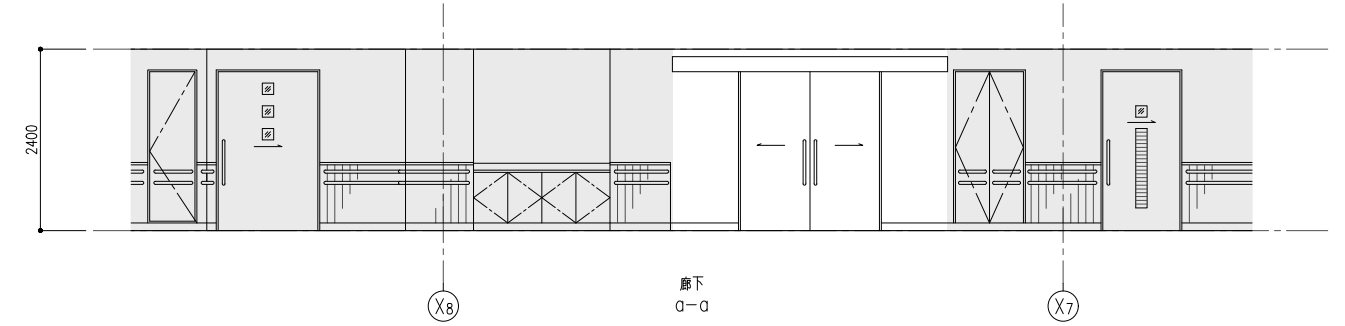
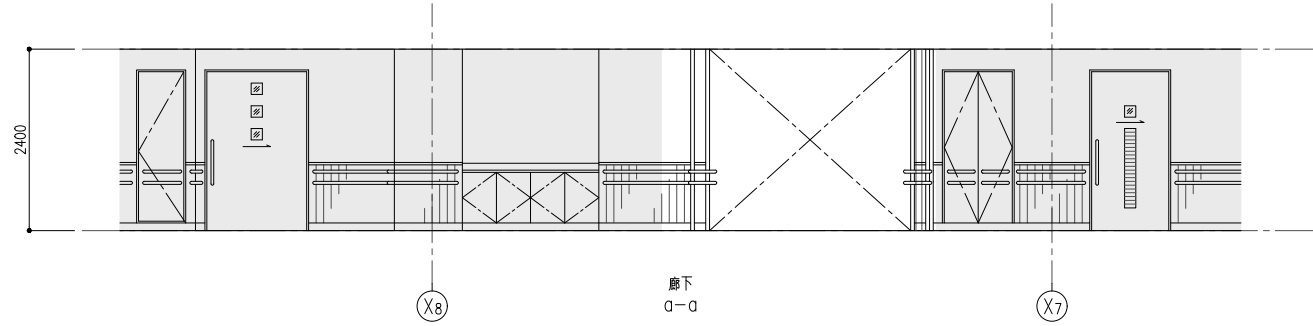


廊下廻り詳細図-2 (改修前) 1/50

凡例
 [Hatched Box] : 改修範囲外を示す。
 壁新設: LGS90+GB12.5+12.5
 両面 (天井まで)
 壁紙張り (ビニール巾木300)
 開口補強はスラブ下までとする。
 ※手すり撤去後はエンドキャップ (既存再利用) 取付。
 ※手すりブラケット撤去後は穴埋め補修とする。
 ※スチールパーテーション設置に伴い、天井下地補強 (Mバー設置) を行うため、スチールパーテーション設置部分の天井W200程度撤去新設とする。



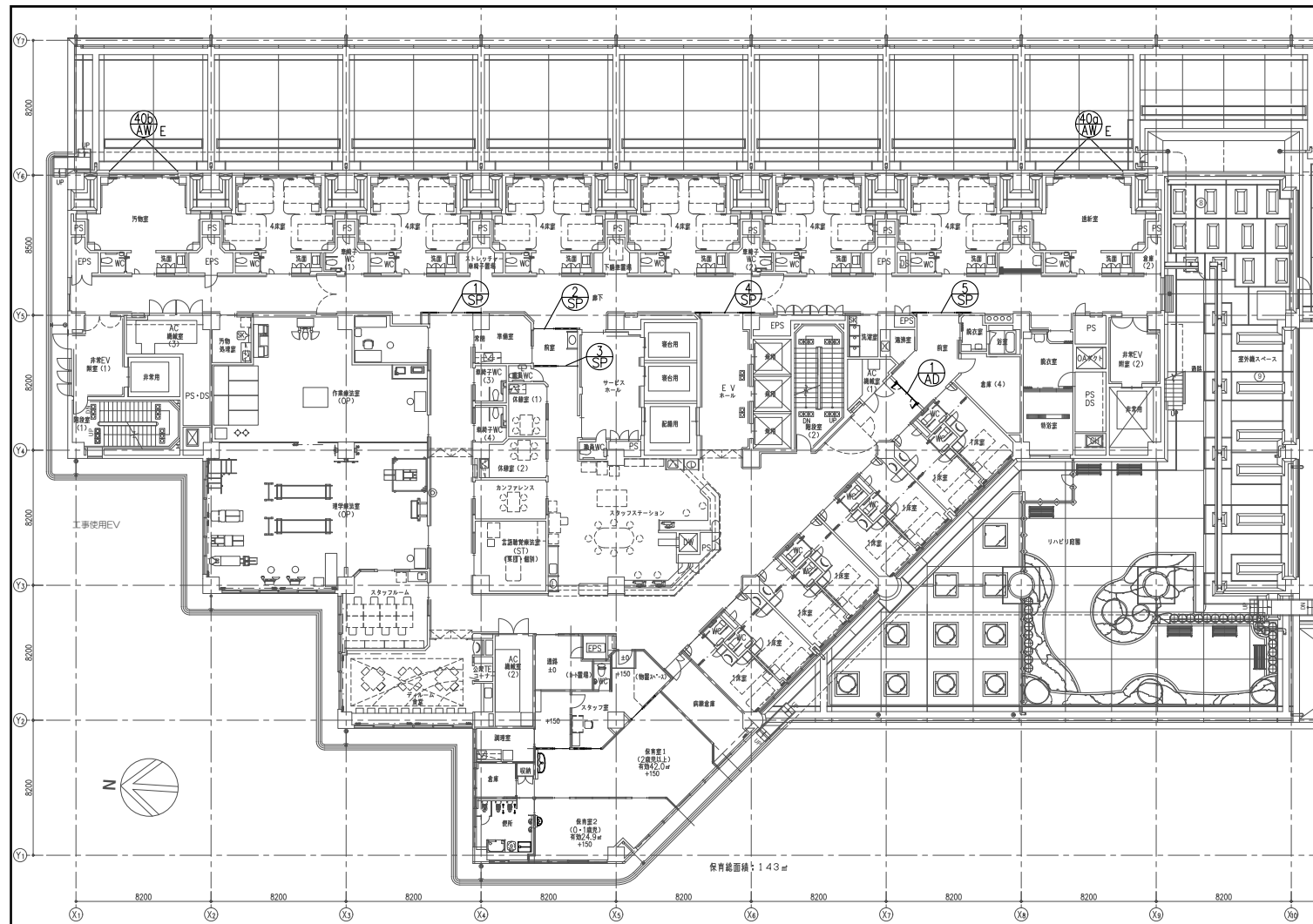
廊下廻り詳細図-2 (改修後) 1/50



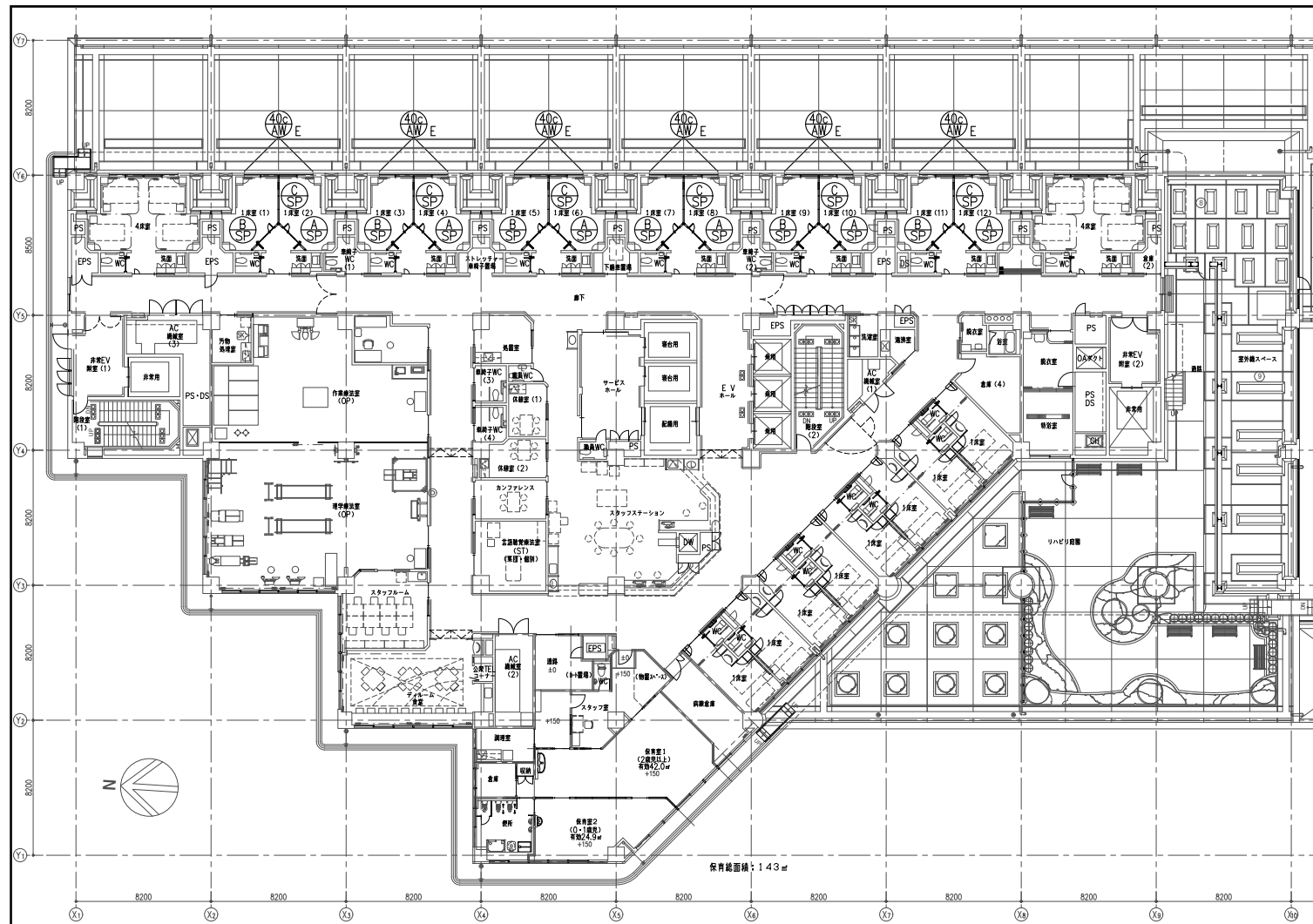
仕上表							
室名	防水	床	巾木	腰	壁	天井	天井高 天井廻り縁
病棟廊下		塩ビシートt2.8	硬質塩ビ	塩ビシート H=900	クロスベニキ	岩綿吸音板9 (直張)	2,400
前室					(5→)ホ-F12.5+9.5(厚 石→)ホ-F12.5GL)		アルミ

※特記なき部分は既存のままとする。
 ※天井点検口450角 (内外枠鋼線タイプ) 2ヶ所新設設置。
 ※既存壁で補修等する場合は、壁紙張りとする。

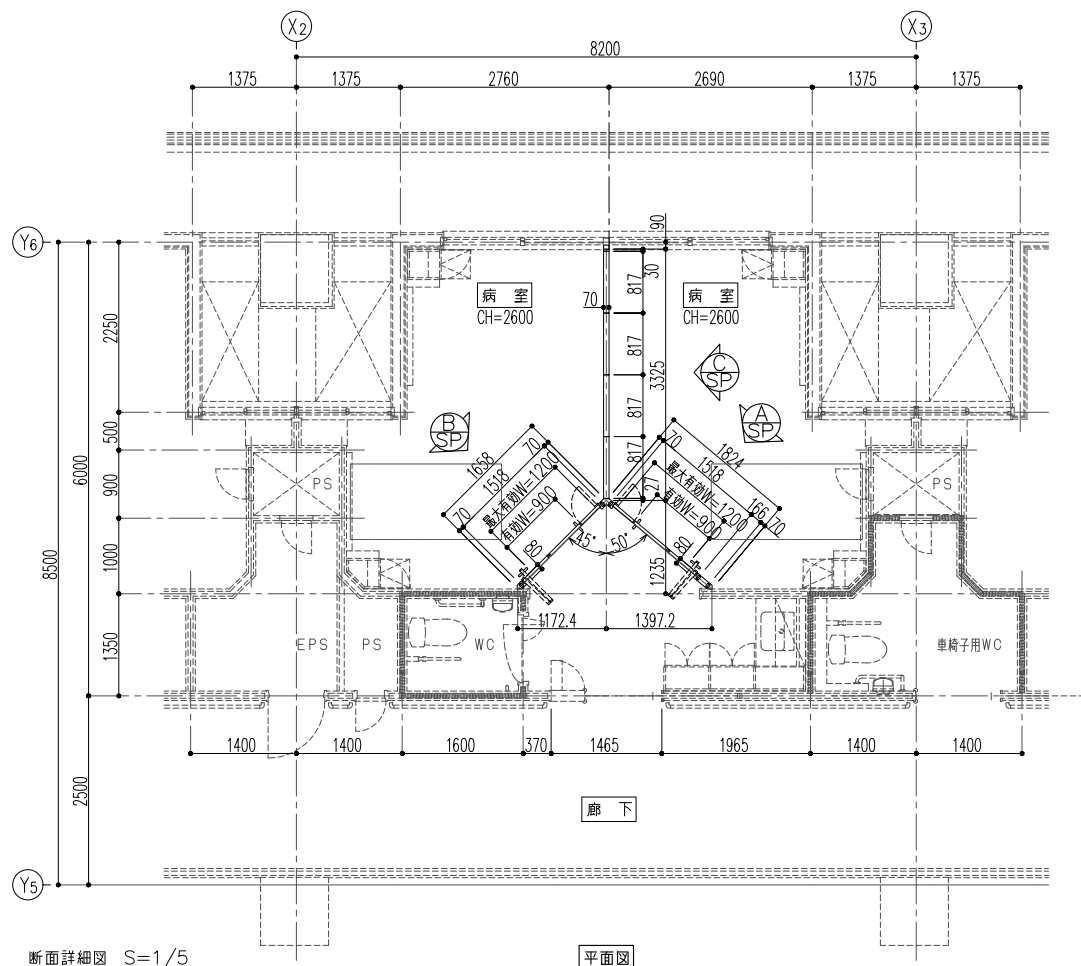
※新設前室範囲の天井は全て、設備改修に伴い、張替とする。



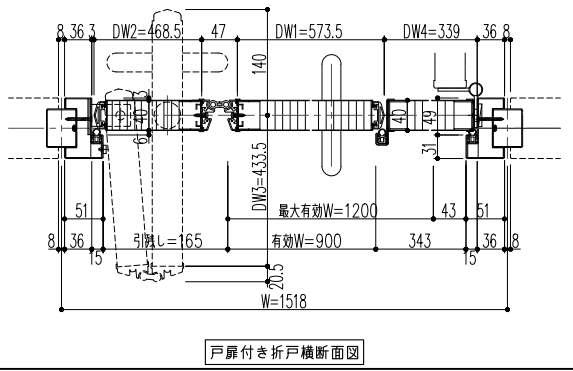
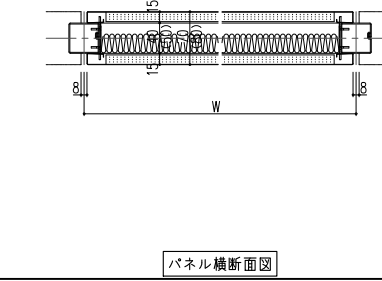
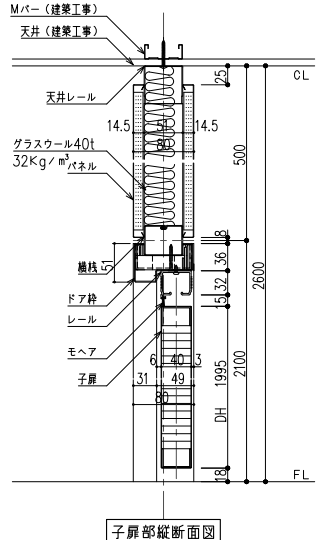
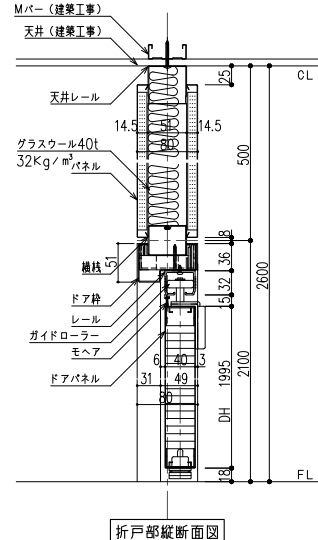
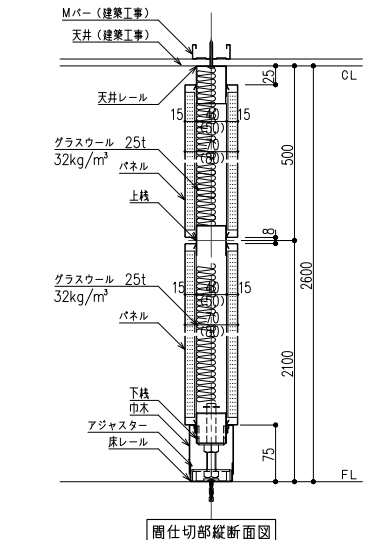
建具表(撤去図) 1/100		建具表(改修図) 1/100								
記号	AW-40a~c	記号	AW-40a	AW-40b	AD-1	SP-1	SP-2	SP-3	SP-4	SP-5
形式	外動引2連窓	形式	外動引2連窓	外動引2連窓	上吊り戸	スチールパーテーション(上吊り引き戸)	スチールパーテーション(上吊り引き戸)	スチールパーテーション(上吊り引き戸)	スチールパーテーション(上吊り引き戸)	スチールパーテーション(上吊り引き戸)
図										
5階	8(4病室)	5階	1(透新室)	1(汚物室)	1	1	1	1	1	1
合計	8	合計	1	1	1	1	1	1	1	1
仕上	電解着色	仕上	アルミパネル:ステンカラー(新素材)	アルミパネル:ステンカラー	ステンカラー	焼付塗装(メカ標準色)	焼付塗装(メカ標準色)	焼付塗装(メカ標準色)	焼付塗装(メカ標準色)	焼付塗装(メカ標準色)
ガラス	熱線吸収ガラス18	ガラス	ガラス	ガラス	網入型板ガラス16,8	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
金物	付属金物一式、電気錠	金物			見込150	引手:SUS HL L600	引手:SUS HL L600	引手:SUS HL L600	引手:SUS HL L600	引手:SUS HL L600
備考		備考	設備配管接続後、シーリング打ち	設備配管接続後、シーリング打ち	サイン:50角カッティングシート※(STAFF ONLY)	サイン:50角カッティングシート※(STAFF ONLY)	サイン:50角カッティングシート※(STAFF ONLY)	サイン:50角カッティングシート※(STAFF ONLY)	サイン:50角カッティングシート※(STAFF ONLY)	サイン:50角カッティングシート※(STAFF ONLY)



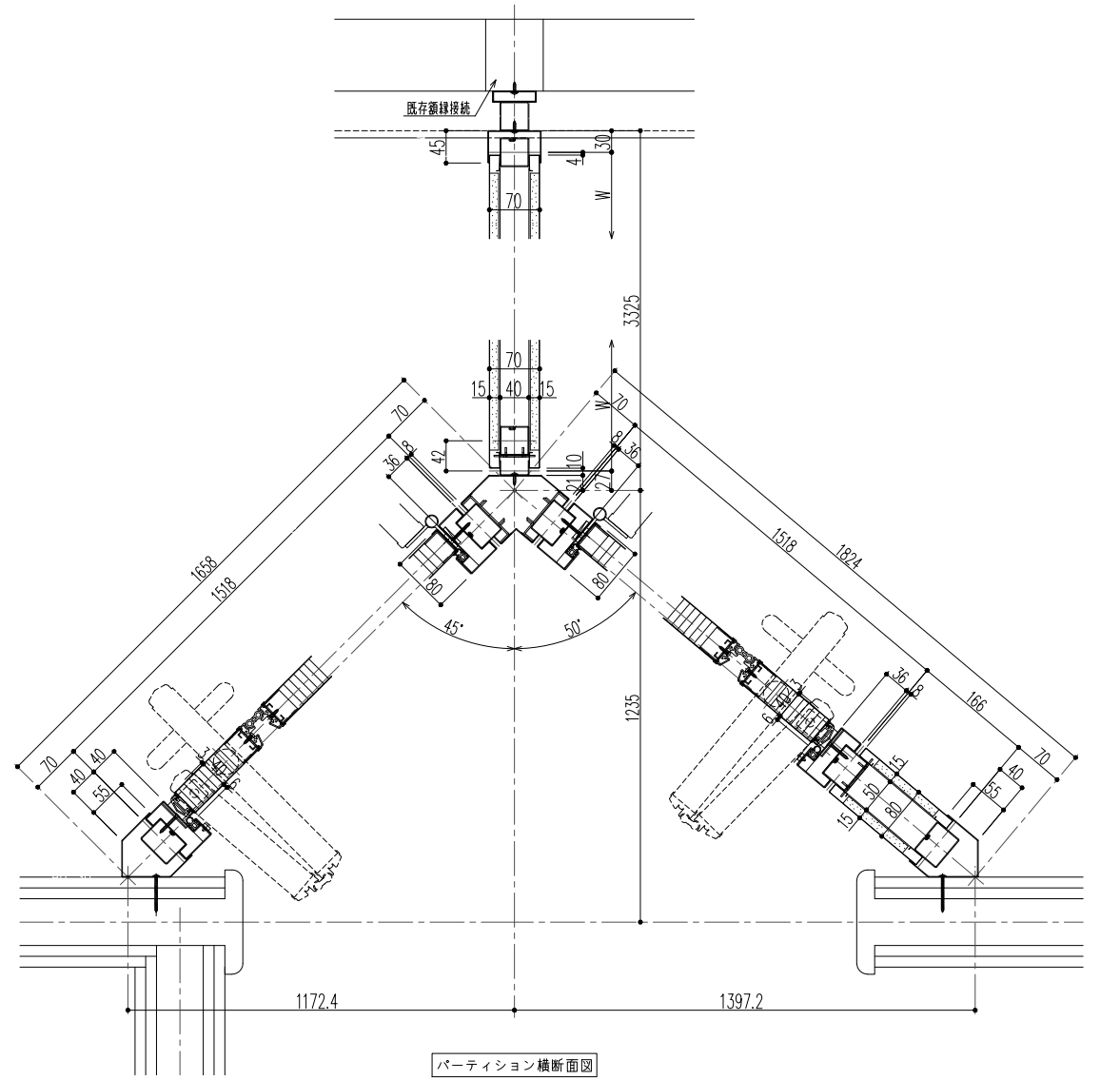
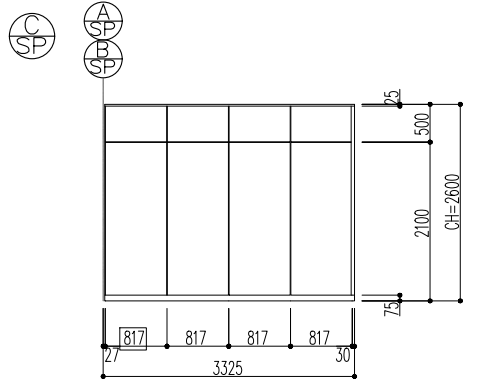
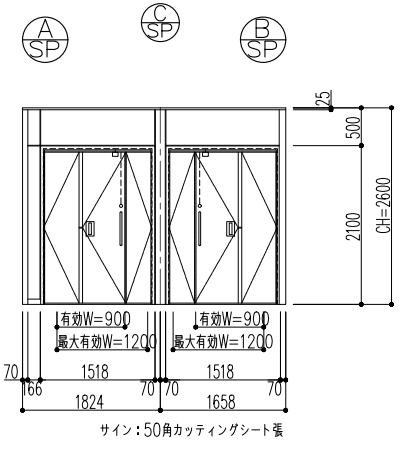
建具表 (撤去図) 1/100		建具表 (改修図) 1/100	
記号	AW-40c	記号	AW-40c
形式	外動片引2連窓	形式	外動片引2連窓
図			別図参照
5階	8 (4病室)	5階	6 (1床室)
合計	8	合計	6
仕上	電解着色	仕上	アルミパネル: ステンカラー
ガラス	熱線吸収ガラスt8	ガラス	ガラス
金物	付属金物一式、電気錠	金物	
備考		備考	設備配管接続後、シーリング打ち



断面詳細図 S=1/5



摺込み引手詳細



◇パーティション仕様表 (小松ウオール マイティ-70・80同等品)

項目	部材	材料(板厚mm)
骨材	天井レール	冷間圧延鋼板 1.0mm <指定色焼付塗装仕上>
	壁面レール	冷間圧延鋼板 0.8mm <指定色焼付塗装仕上>
	床レール	冷間圧延鋼板 0.8mm <指定色焼付塗装仕上>
	巾木	冷間圧延鋼板 0.8mm <指定色焼付塗装仕上>
	ポール・横柱	冷間圧延鋼板 1.2mm <指定色焼付塗装仕上>
	コーナーポール	冷間圧延鋼板 1.2mm <指定色焼付塗装仕上>
	上柱・下柱	冷間圧延鋼板 1.0mm <指定色焼付塗装仕上>
枠	ガラス枠	アルミ押出材材 <指定色焼付塗装仕上>
	オープン目地カバー	ポリ塩化ビニル <アイボリー色>
パネル	パネル表面材	亜鉛めっき鋼板 0.6mm <木目プリント鋼板>
	芯材	せっこうボード12.5mm

◇折戸仕様表 (小松ウオール LSFアー折り戸同等品)

項目	部材	材料(板厚mm)
枠	ドア枠	冷間圧延鋼板 1.2mm <指定色焼付塗装仕上>
	レール	アルミ押出材材 <指定色焼付塗装仕上>
扉	パネル表面材	亜鉛めっき鋼板 0.6mm <木目プリント鋼板>
	芯材	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル <ブラック色>
	折り戸目板・折り戸ヒンジ	アルミ押出材材 <指定色焼付塗装仕上>
	吊り金物	グレビティヒンジ・脱着ガイドローラー
	切窓・ガラリ	アルミ押出材材 <指定色焼付塗装仕上>
	切窓ビード	ポリ塩化ビニル 対称ガラス厚3~6mm<グレー色>
	ロック	シリンドラー・サムターン
	取手	木製引手 L=450
	摺込取手	両面引手: 亜鉛めっき鋼板<焼付塗装グレー色>

※寸法及びパネル割については参考とし、各設置室を現地確認測量的の上、製作のこと。

特記仕様書

I. 工事概要

1. 工事場所 徳島県徳島市北常三島町二丁目24番

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積(m ²)	消防法施行令別表第一の区分	施設の種類	備考
病院	SRC造	13階建(地下1階 塔屋12階)	30,721.70	6項イ	特定施設	3階
(注) 延べ面積は建築基準法による表記)						

3. 工事種目 (●印の付いたものが対象工事種目)

建物別及び屋外	工事種目					
●電灯設備	一式					
○動力設備	一式					
○電気自動車充電設備	一式					
○電熱設備	一式					
○音保護設備	一式					
○受変電設備	一式					
○電力貯蔵設備	一式					
○発電設備	一式					
●橋内情報通信網設備	一式					
●橋内交換設備	一式					
●情報表示設備	一式					
○映像・音響設備	一式					
●拡声設備	一式					
○誘導支援設備	一式					
○テレビ共同受信設備	一式					
○監視カメラ設備	一式					
○駐車場管制設備	一式					
○防犯・入退室管理設備	一式					
●火災報知設備	一式					
○中央監視制御設備	一式					
○橋内配電線路						一式
○橋内通信線路						一式
○テレビ電波障害防除設備						一式
○						
○						
○						
○						
○						

4. 指定部分 ● 無 ○ 有 (対象部分指定部分工期 年 月 日)

5. 改修内容
本工事は、病院本館5階病棟改修に伴う電気設備工事の一切を行う。

II. 工事仕様

1. 共通仕様

1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。

- 「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下「標準仕様書」という。)
- 「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下「改修標準仕様書」という。)(改修標準仕様書の中で標準仕様書は、令和4年版版(電気設備工事編)とする。)
- 「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下「標準図」という。)

2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、機械設備工事の特記仕様書は(/)図、建築工事の特記仕様書は(/)図による。

2. 特記仕様
項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。

項目	特記事項
○適用区分	(1) 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○風圧力 風速 (Vo= m/s) 地表面粗度区分 (○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ ○Ⅳ) ○積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表()
●環境への配慮	(1) 本工事に於いて、「国等による環境物品等の調達に関する法律(平成12年法律第100号)」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月閣議決定)」に定める特定調達品目「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。 (2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びステレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放出量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性を除く。)が追加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びステレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。

項目	特記事項
●機材の品質等	(3) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放出量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三种」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三种ホルムアルデヒド発散建筑材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三种ホルムアルデヒド発散建筑材料 ④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 (1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承認を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価されたことを示す外部機関が発行する書面を提出し、監督職員の承認を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等では定め許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の架橋があり、その信頼性が取れていること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

機材等	
○LED照明器具(一般屋内用に限る)	
○照明制御装置	
○可変速運転用インバータ装置	
○分電盤	
○制御盤	
○キュービクル式配電盤	
○高圧スイッチギヤ (GW形)	
○高圧スイッチギヤ (PW形)	
○高圧交流遮断器	
○高圧進相コンデンサ	
○高圧限流ヒューズ	
○高圧負荷開閉器	
○高圧変圧器(特定機器)	
○交流無停電電源装置	
○太陽光発電装置(パワーコンディショナ及び系統連系保護装置)	
○監視カメラ装置	
○中央監視制御(監視制御装置)	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	

機材等	
○LED照明器具(一般屋内用に限る)	
○照明制御装置	
○可変速運転用インバータ装置	
○分電盤	
○制御盤	
○キュービクル式配電盤	
○高圧スイッチギヤ (GW形)	
○高圧スイッチギヤ (PW形)	
○高圧交流遮断器	
○高圧進相コンデンサ	
○高圧限流ヒューズ	
○高圧負荷開閉器	
○高圧変圧器(特定機器)	
○交流無停電電源装置	
○太陽光発電装置(パワーコンディショナ及び系統連系保護装置)	
○監視カメラ装置	
○中央監視制御(監視制御装置)	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	

●電源周波数	○ 50Hz ● 60Hz
●電気工事士	最大電力が500 [kW] 以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行うものとする。
○工事用仮設備	すべて受注者の負担とする。 構内につくことが ○できる ○できない
●足場その他	●別契約の関係受注者が設置したものは無償で使用できる。 ○本工事で設置する。 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 ○内部足場(○種 ○種) ○外部足場(○種 ○種)
○建設発生土の処理	○埋め戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の敷きならしとする。 ○場外搬出適切処理 ○現場説明書による。
●耐震施工	(1) 設備機器の固定は、施設の種類並びに機器の種類、重要度及び設置階に応じて、次の設計用水平地震力及び設計用鉛直地震力に対し、移動、転倒、破損等が生じないようにする。 ①設計用水平地震力 機器の重量[kN]に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合は、設計用標準水平震度は、次による。

機器種別	機 器 種 別	特定の施設		一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
中間階	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1階	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6

●配管本数、管路等	<p>・上層階とは2~6階建の場合は最上層、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。</p> <p>・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの</p> <p>・水槽類には燃料小出タンクを含む。</p> <p>・重要機器は次のものを示す。 ○配電盤 ○発電装置(防災電源用) ○直流電源装置 ○交流無停電電源装置 ○交換装置 ○自動火災報知受信機 ○中央監視装置 ○通信総合盤 ○</p> <p>②設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。</p> <p>(2) 横引き配管等の耐震支持は、施設の種類に応じたものとする。</p> <p>分電盤、制御盤及び端子盤等の2次側以降の配管配線経路、配線太さ、配線本数及び管径等は、図面と相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督職員の承認を受ける。</p>
-----------	--

項目	特記事項
●金属製電線管の仕上げ	露出配管の仕上げは次による。 屋外 ○厚鋼電線管は、溶融亜鉛めっき仕上げ付着量300g/m ² 以上のものとする。 ○塗装あり(場所:) 屋内 ●塗装なし ○塗装あり(場所:)
●非常用照明装置の照度測定箇所数	測定数 3箇所以上 測定し監督職員に報告する。
○電流値等の計測	下記の電流値等を計測し、報告書を監督職員に提出する。 計測箇所(○ 図示による)) 計測項目(○ 電流値(記録間隔1分毎 ○ 照度)) 計測回数(通常使用状態の電流値:改修前手前 5日間、改修後 5日間)) 照度測定箇所数(改修前及び改修後の照度測定 箇所以上)) 備 考 (1) 計測機器及び計測装置等の詳細は監督職員との協議による。 (2) 報告書には、測定装置(もしくはソフトウェア)の換算機能により算出された電力(瞬時値)及び電力量(積算値30分単位)も記録すること。 (3) 照度測定は作業面照度(床上0.8m)とし、測定方法はJIS C 7612による。
○盤類等の色彩計画	事務室等に貼る○A盤、分電盤、端子盤の鋼板製キャビネット等及び意匠に配慮する必要のある機器の色彩計画を監督職員に提出するものとする。
●プレートの材質	フラッシュプレート ●金属製(ステンレス、新金属を含む) ○樹脂製()
○天井仕上区分	() 書きの室名は直天井の室を示し、それ以外は二重天井の室を示す。
○インバータ装置の規約効率	三相可変速運転インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力[kW]	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	
規約効率[%]	定格電圧 200[V]	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5
	定格電圧 400[V]	87.0	90.5	93.5	94.0	94.5	94.5	95.0	95.0	95.0	96.0	96.5	96.5

電動機出力[kW]	37	45	55	75	
規約効率[%]	定格電圧 200[V]	95.5	95.5	95.5	95.5
	定格電圧 400[V]	96.5	96.5	96.5	96.5

【備考】(1) 規約効率は、JEM-TR 245 「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
(2) 0.4kWの規約効率は、JIS C 4212 「高効率低圧三相かご形誘導電動機」のIP4K、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。
(3) 0.75kWの規約効率は、JIS C 4213 「低圧三相かご形誘導電動機-低圧トランナ-モータ」のIP4K、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

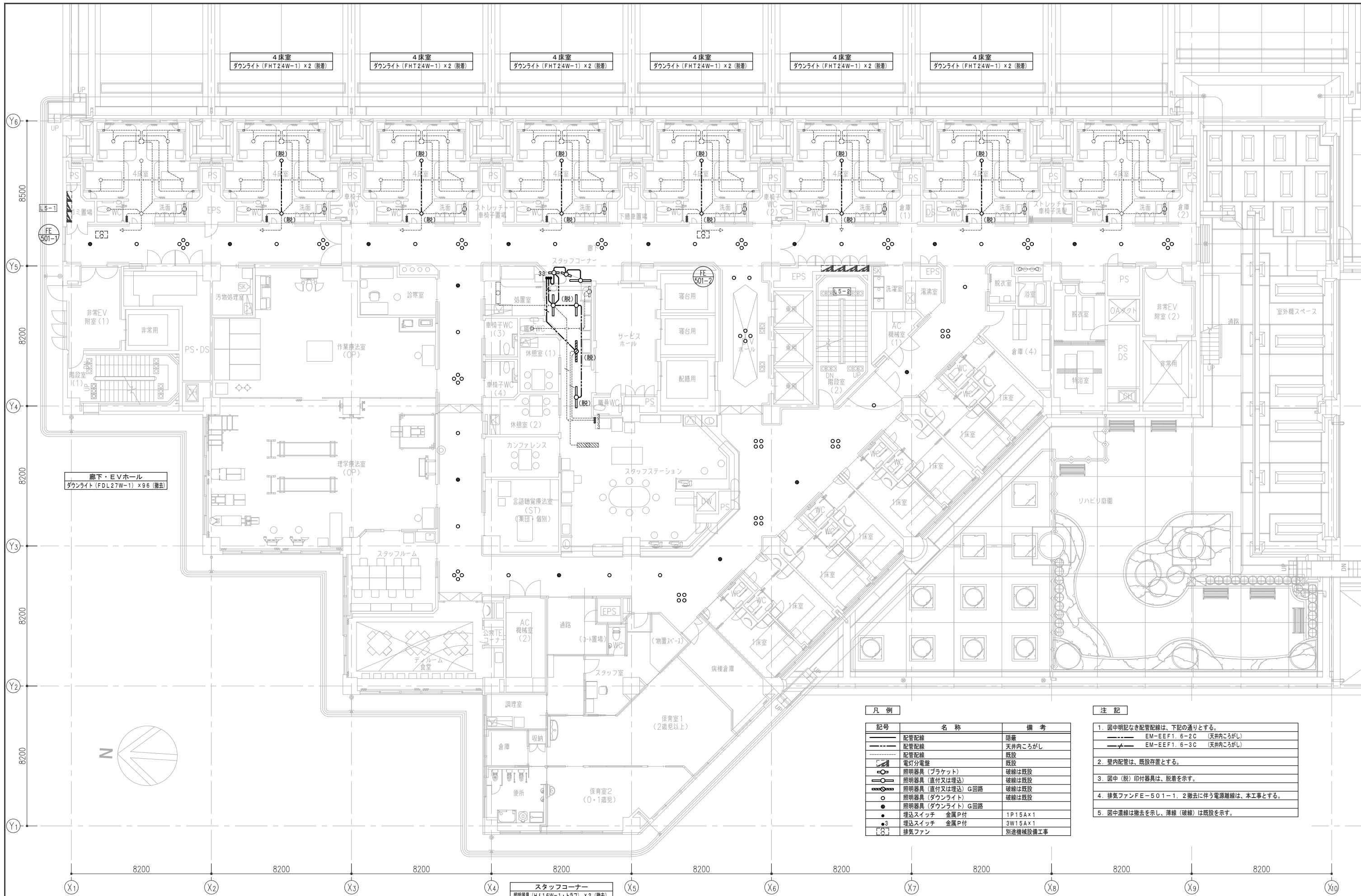
●機器取付高さ	壁付、壁掛機の機器等の取付高さは、図面に記載がない場合は、表-1「機器標準取付高さ」による。
○接地極	図面に記載がない場合は、表-2「接地極一覧表」による。
○他工事又は他工種との取り合い	図面に記載がない場合は、工事区分表による。ただし、これにより難い場合は監督職員と協議する。
●施工調査	事前調査(●本工事 ○別途)) 調査項目(○ 既存資料調査 ○ 別途)) 調査範囲(○ 図示 ○)) 調査方法(○ 図示 ○)) ●はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に●走査式埋設物調査 ○X線埋設物調査を行い、監督職員に報告を行うこと。
●既存躯体への穿孔	穿孔機械を使用し既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる附属装置等を用いて施工する。
○ケーブルの種類	EM-高圧架橋ポリエチレンケーブルは、JCS 4395 「6600V 架橋ポリエチレンケーブル(3層押出型)」によるものとする。

●ケーブル	ケーブルと設備配管、ダクトと接触しないように布設すること。 ケーブルハンガーは、設備の機器、配管等の吊りボルトに設置しないこと。
●配管	壁内の配線はPF管にて保護すること(CD管の使用は不可)。 空配管には呼び線を入線のこと。
●表示	壁内の幹線ケーブル及び通信ケーブルにはエフを取り付け、行先、配線種類の表示を行うこと。 壁内には竣工年月、施工者名の表示を行うこと。
●軽微な変更	設計図面に明記なくとも機能上・構造上当然必要と認められる軽微なものは、監督職員の指示に従い、本工事請負金の内で施工すること。
●現場の納まり	本設計図書は工事の概要を示すものであるから、詳細・位置等については監督職員と打合せの上、その指示に従い施工のこと。
●提出書類	提出書類は下記のとおりとする。 ただし、工事に係る法的に必要な書類及び施工、監督職員の指示によるものについても提出のこと。 工事工程表 機器・材料製造者一覧表 施工計画書・施工要領書 納入仕様書 施工図 現場打合記録 試験・検査報告書 申請・届出書類一覧表 自主検査記録 竣工図 工事写真(区画図通報は全数) 完成図 取り扱い説明書 保証書

表-1 機器標準取付高さ					
名称	測点	取付高 [mm]	名称	測点	取付高 [mm]
積算計器	地上~窓中心	1,800~2,200	壁掛形親時計	床上~中心	1,500
引込開閉器(低圧)	地上~中心	1,800~2,200	子時計	"	(天井高)×0.9
分電盤	床上~中心	1,500	壁掛形スピーカ	"	(天井高)×0.9
			壁付アッテネータ	"	1,300
スイッチ	床上~中心	1,300			
"(多機能トイ)	"	1,100	情報表示盤	床上~中心	(天井高)×0.9
コンセント(一般)	"	300	壁付発信機	"	1,300
"(和室)	"	150	ベル、ブザー、チャイム	"	2,300
"(台上)	台上~中心	150~200	壁付押しボタン(一般)	"	1,300
"(車椅子用)	床上~中心	900			
ブラケット(一般)	"	2,100~2,300			
"(踊場)	"	2,000~2,500			
"(鏡上)	鏡上端~中心	150			
			外部受付用インターホン(子機)	「標準図」による。	
			壁付インターホン(上記以外)	床上~中心	1,300
			壁付呼出ボタン(多機能トイ)	"	900(400)
壁掛形制御盤	床上~中心	1,500			
開閉器箱	"	1,500	機器収容箱(室内)	天井下~上端	200
制御用スイッチ	"	(上端1,900以下)	テレビ端子(一般)	床上~中心	300
			"(和室)	"	150
端子室(室内)	床上~下端	300			
集合保安装置	天井下~上端	200	受信機・副受信機	床上~操作部	800~1,500
壁付電話機(一般)	床上~中心	1,300	機器収容箱	"	800~1,500
			発信機	床上~中心	800~1,500
			警報ベル	"	(天井高)×0.9
			表示灯	"	(天井高)×0.8
			液化石油ガス検知器	床上~上端	300

(備考) (天井高)×0.9及び(天井高)×0.8は天井高が2,500~3,000mmの場合に適用する。
(注) 天井高3,000mm以上の場合及び上記取付高さでは機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。
呼出ボタン(多機能トイ)の取付高さ(400)は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

表-2 接地極一覧表					
接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極の規格・数量		
○ 共用接地	E _{A・D}	10Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ 共用接地	E _{A・C・D}	10Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ A種	E _A	10Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ B種	E _B	Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ C種	E _C	10Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ D種	E _D	100Ω以下	EB(D=10, L=1,000 又は W=30, L=900)×1		
○ D種	E _D	Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ 高圧避雷器用	E _{LH}	10Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ 交換装置用	E _t	10Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ 通信用(10Ω)	E _{A,t}	10Ω以下	EB(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200)×3連	一組	
○ 通信用(100Ω)	E _{D,t}	100Ω以下	EB(D=10, L=1,000 又は W=30, L=900)×1		
○ 電話引込口の保安器	E _{L,t}	100Ω以下	EB(D=10, L=1,000 又は W=30, L=900)×1		
○ 測定用	E _o		EB(D=10, L=1,000 又は W=30, L=900)×1		



廊下・EVホール
ダウンライト (FDL27W-1) x 96 (撤去)

4床室
ダウンライト (FHT24W-1) x 2 (脱着)

4床室
ダウンライト (FHT24W-1) x 2 (脱着)

4床室
ダウンライト (FHT24W-1) x 2 (脱着)

4床室
ダウンライト (FHT24W-1) x 2 (脱着)

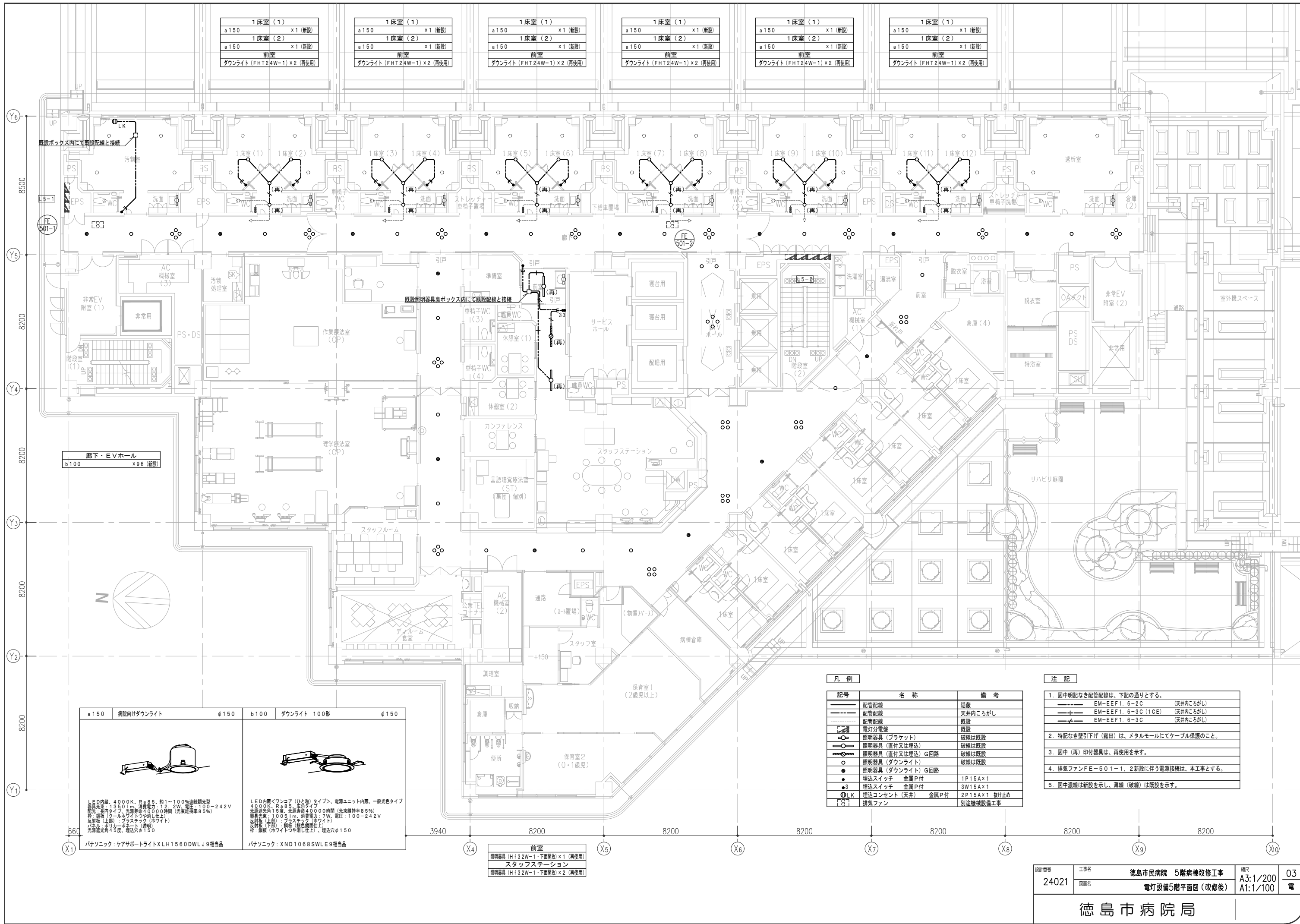
4床室
ダウンライト (FHT24W-1) x 2 (脱着)

4床室
ダウンライト (FHT24W-1) x 2 (脱着)

スタッフコーナー
照明器具 (HF16W-1・トラフ) x 2 (撤去)
照明器具 (HF32W-1・トラフ) x 1 (撤去)
照明器具 (HF32W-1・下面照灯) x 1 (撤去)
照明器具 (HF32W-1・下面照灯) x 3 (脱着)

凡例	記号	名称	備考
—	—	配管配線	撤去
---	---	配管配線	天井内こがし
---	---	配管配線	既設
⊕	⊕	電灯分電盤	既設
□	□	照明器具 (ブラケット)	破線は既設
○	○	照明器具 (直付又は埋込)	破線は既設
○	○	照明器具 (直付又は埋込) G回路	破線は既設
○	○	照明器具 (ダウンライト) G回路	破線は既設
●	●	埋込スイッチ 金属P付	1P15Ax1
●	●	埋込スイッチ 金属P付	3W15Ax1
⊕	⊕	排気ファン	別途機械設備工事

- 注記
1. 図中明記なき配管配線は、下記の通りとする。
 --- EM-EEF1.6-2C (天井内こがし)
 --- EM-EEF1.6-3C (天井内こがし)
 2. 壁内配管は、既設存置とする。
 3. 図中 (脱) 印付器具は、脱着を示す。
 4. 排気ファンFE-501-1, 2撤去に伴う電源線は、本工事とする。
 5. 図中濃線は撤去を示し、薄線 (破線) は既設を示す。



1床室 (1)
a150 x1 (新設)
1床室 (2)
a150 x1 (新設)
前室
ダウンライト (FHT24W-1) x2 (再使用)

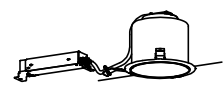
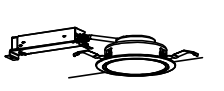
1床室 (1)
a150 x1 (新設)
1床室 (2)
a150 x1 (新設)
前室
ダウンライト (FHT24W-1) x2 (再使用)

1床室 (1)
a150 x1 (新設)
1床室 (2)
a150 x1 (新設)
前室
ダウンライト (FHT24W-1) x2 (再使用)

1床室 (1)
a150 x1 (新設)
1床室 (2)
a150 x1 (新設)
前室
ダウンライト (FHT24W-1) x2 (再使用)

1床室 (1)
a150 x1 (新設)
1床室 (2)
a150 x1 (新設)
前室
ダウンライト (FHT24W-1) x2 (再使用)

1床室 (1)
a150 x1 (新設)
1床室 (2)
a150 x1 (新設)
前室
ダウンライト (FHT24W-1) x2 (再使用)

a150	病院向けダウンライト	φ150	b100	ダウンライト 100形	φ150
					
<p>LED内蔵、4000K、Ra85、約1~100%連続調光型 器具光束: 1350lm、消費電力: 12.2W、電圧: 100~242V 配光: 長円タイプ、光束角15度、光束寿命40000時間 (光束維持率85%) 材質: 鋼板 (ホワイトつや消し仕上) / プラスチック (ホワイト)</p>		<p>LED内蔵くワコフ (H1射) タイプ、電源ユニット内蔵、一般色タイプ 4000K、Ra85、広角タイプ 光束光束15度、光束寿命40000時間 (光束維持率85%) 器具光束: 1005lm、消費電力: 7W、電圧: 100~242V 配光: 長円タイプ、光束角15度、光束寿命40000時間 (光束維持率85%) 材質: 鋼板 (ホワイトつや消し仕上) / プラスチック (ホワイト)</p>			
パナソニック: ケアサポートライトXLH1560DWLJ9相当品		パナソニック: XND1068SWLE9相当品			

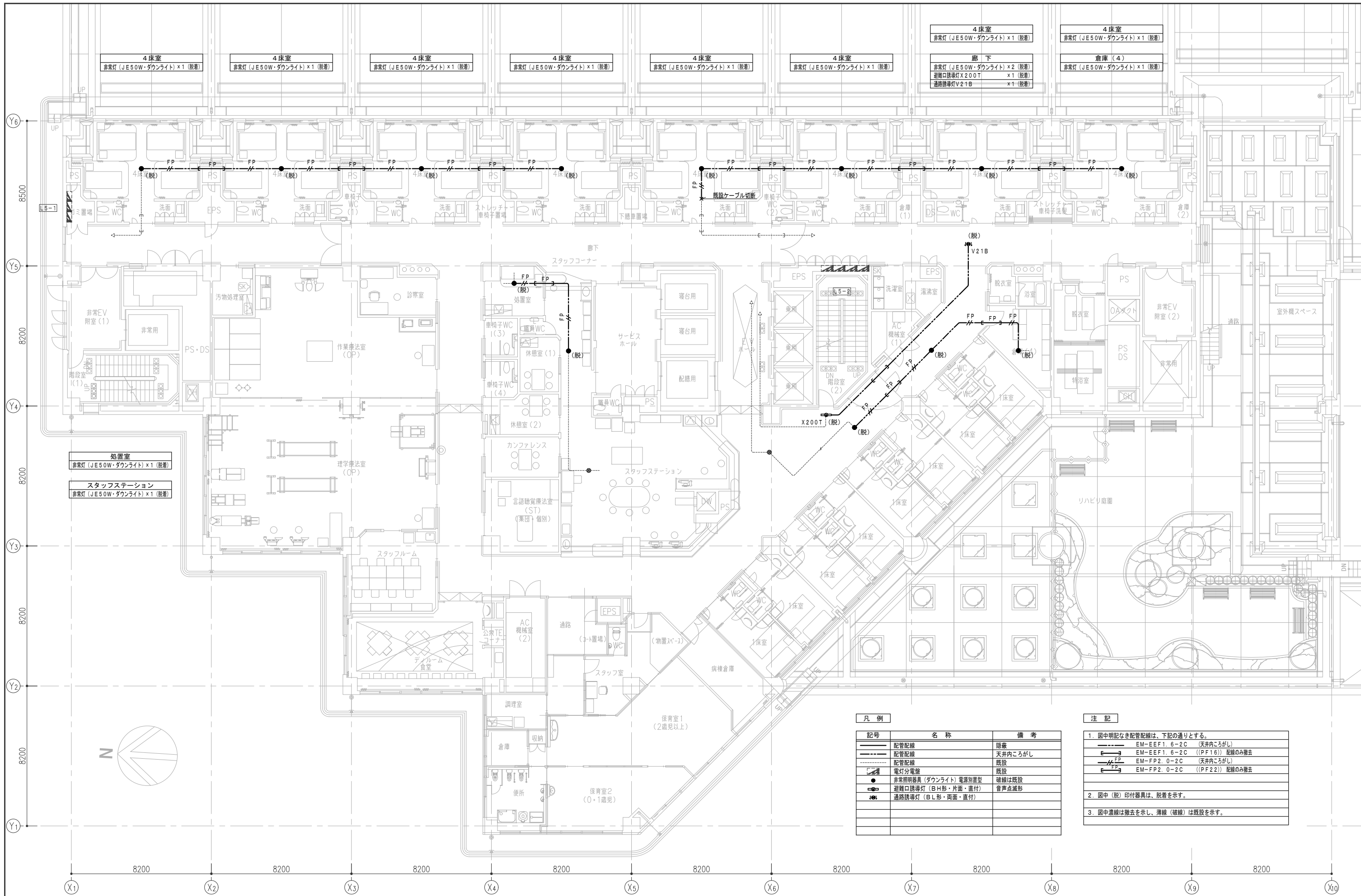
記号	名称	備考
—	配管配線	隠蔽
---	配管配線	天井内こぼし
---	配管配線	既設
○	電灯分電盤	既設
○	照明器具 (ブラケット)	破線は既設
○	照明器具 (直付又は埋込)	破線は既設
○	照明器具 (直付又は埋込) G回路	破線は既設
○	照明器具 (ダウンライト)	破線は既設
○	照明器具 (ダウンライト) G回路	
○	埋込スイッチ 金属P付	1P15A×1
○	埋込スイッチ 金属P付	3W15A×1
○	埋込コンセント (天井)	2P15A×1 抜け止め
○	LK	排気ファン
○	排気ファン	別途機械設備工事

注記
1. 図中明記なき配管配線は、下記の通りとする。 EM-EFF1.6-2C (天井内こぼし) EM-EFF1.6-3C (1CE) (天井内こぼし) EM-EFF1.6-3C (天井内こぼし)
2. 特記なき壁引下げ (露出) は、メタルモールにてケーブル保護のこと。
3. 図中 (再) 印付器具は、再使用を示す。
4. 排気ファンFE-501-1, 2新設に伴う電源接続は、本工事とする。
5. 図中濃線は新設を示し、薄線 (破線) は既設を示す。

前室
照明器具 (H132W-1・下照型) x1 (再使用)
スタッフステーション
照明器具 (H132W-1・下照型) x2 (再使用)

設計番号	工事名	徳島市民病院 5階病棟改修工事	縮尺	03
24021	図名	電灯設備5階平面図 (改修後)	A3: 1/200	電
			A1: 1/100	

徳島市民病院局

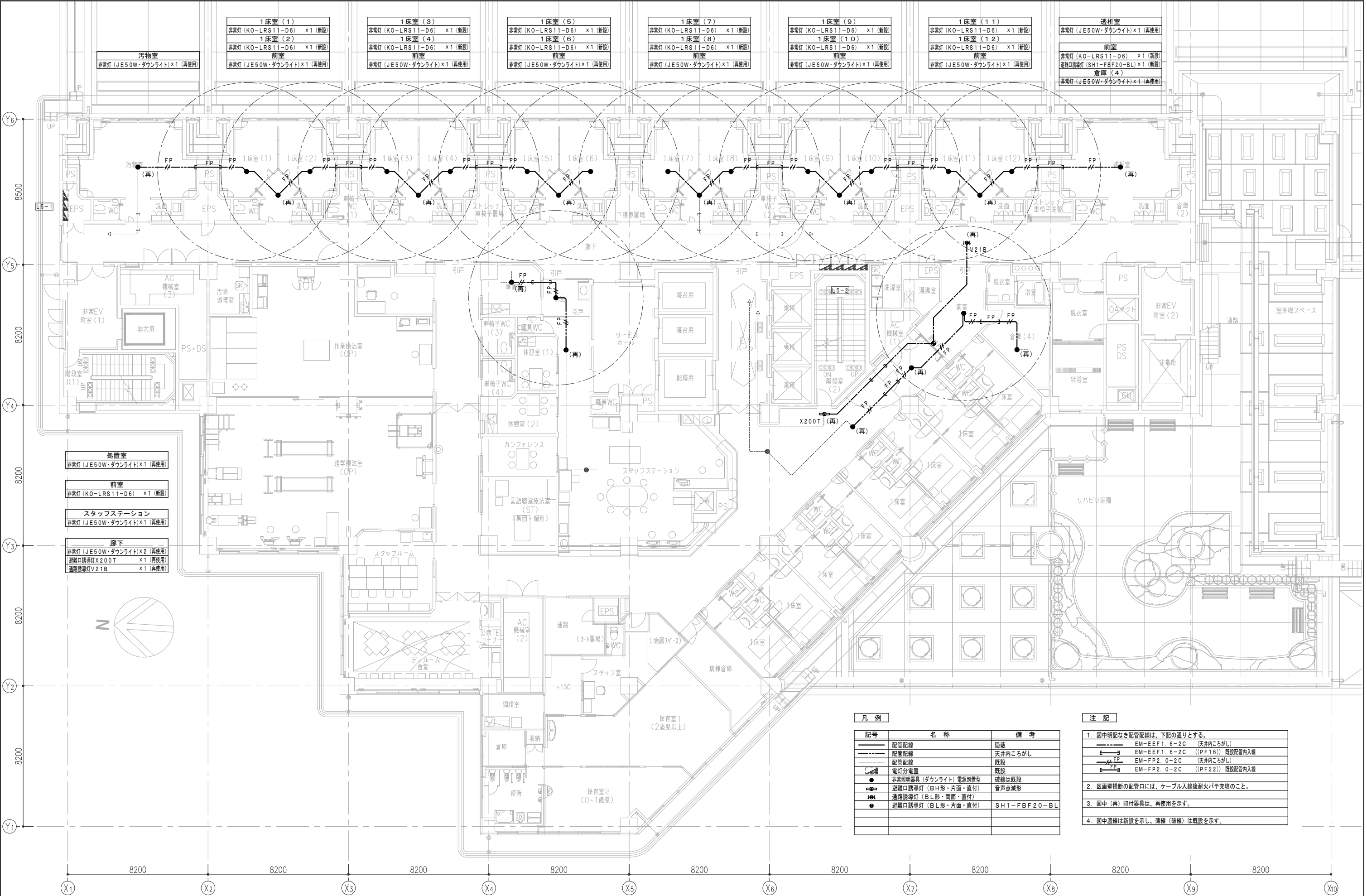


処置室
非常灯 (JE50W・ダウンライト) x1 (脱着)

スタッステーション
非常灯 (JE50W・ダウンライト) x1 (脱着)

記号	名称	備考
---	配管配線	暗蔵
---	配管配線	天井内こがし
---	配管配線	既設
---	配管配線	既設
●	非常照明器具 (ダウンライト) 電源別置型	破線は既設
○	避難口誘導灯 (B H形・片面・直付)	音声点滅形
●	通路誘導灯 (B L形・両面・直付)	

- 注記
1. 図中明記なき配管配線は、下記の通りとする。
 EM-EEF1. 6-2C (天井内こがし)
 EM-EEF1. 6-2C ((PF16)) 配線のみ撤去
 EM-FP2. 0-2C (天井内こがし)
 EM-FP2. 0-2C ((PF22)) 配線のみ撤去
 2. 図中 (脱) 印付器具は、脱着を示す。
 3. 図中濃線は撤去を示し、薄線 (破線) は既設を示す。



1床室 (1)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
1床室 (2)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
前室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)

1床室 (3)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
1床室 (4)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
前室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)

1床室 (5)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
1床室 (6)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
前室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)

1床室 (7)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
1床室 (8)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
前室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)

1床室 (9)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
1床室 (10)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
前室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)

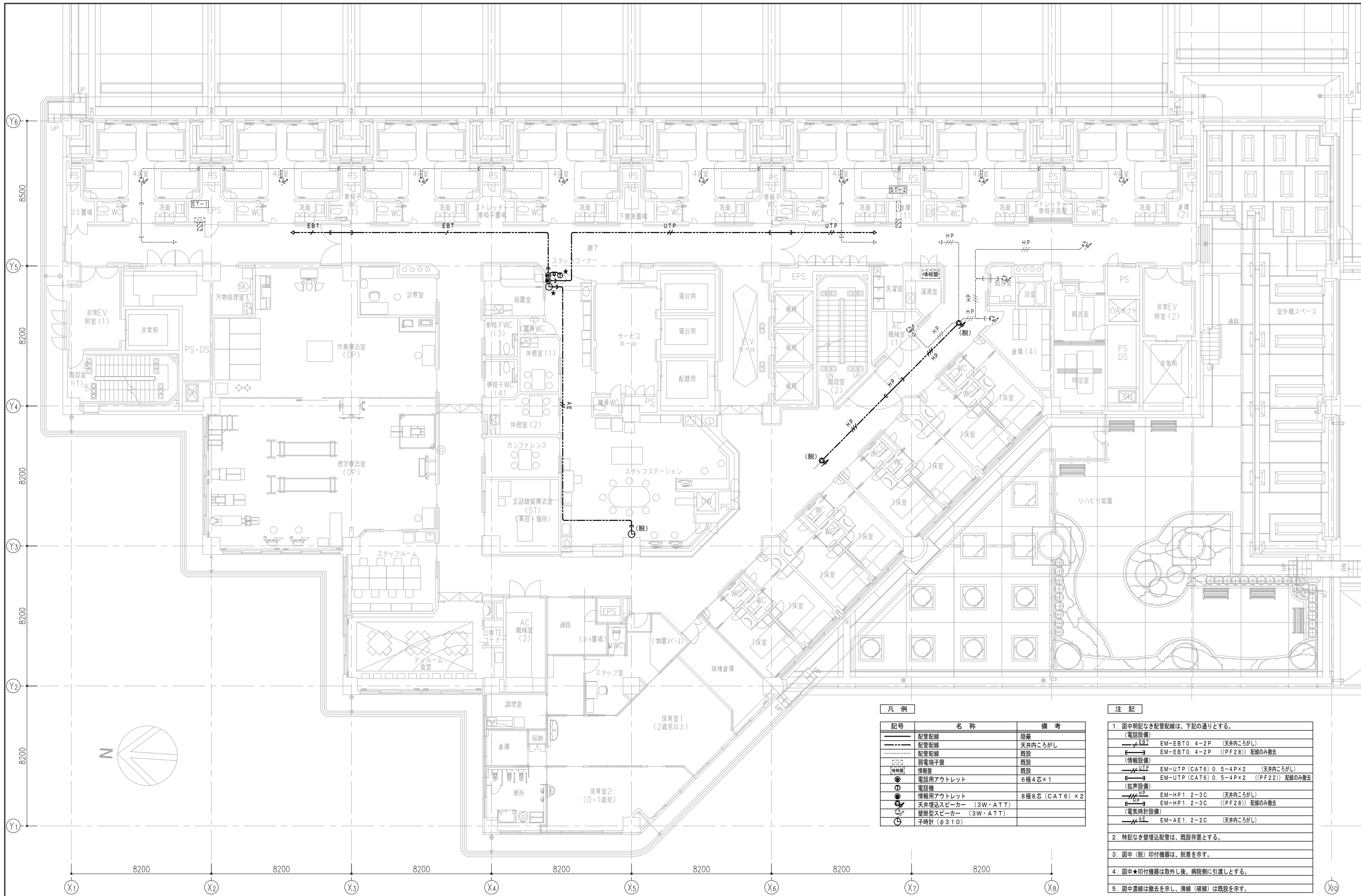
1床室 (11)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
1床室 (12)
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
前室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)

透折室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)
前室
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
避難口誘導灯 (SH1-FBF20-BL) x1 (新設)
倉庫 (4)
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)

処置室
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)
前室
非常灯 (KO-LRS11-D6) x1 (新設)
スタッフステーション
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x1 (再使用)
廊下
非常灯 (JE50W・ダウンライト)x2 (再使用)
避難口誘導灯 X200T x1 (再使用)
避難口誘導灯 V21B x1 (再使用)

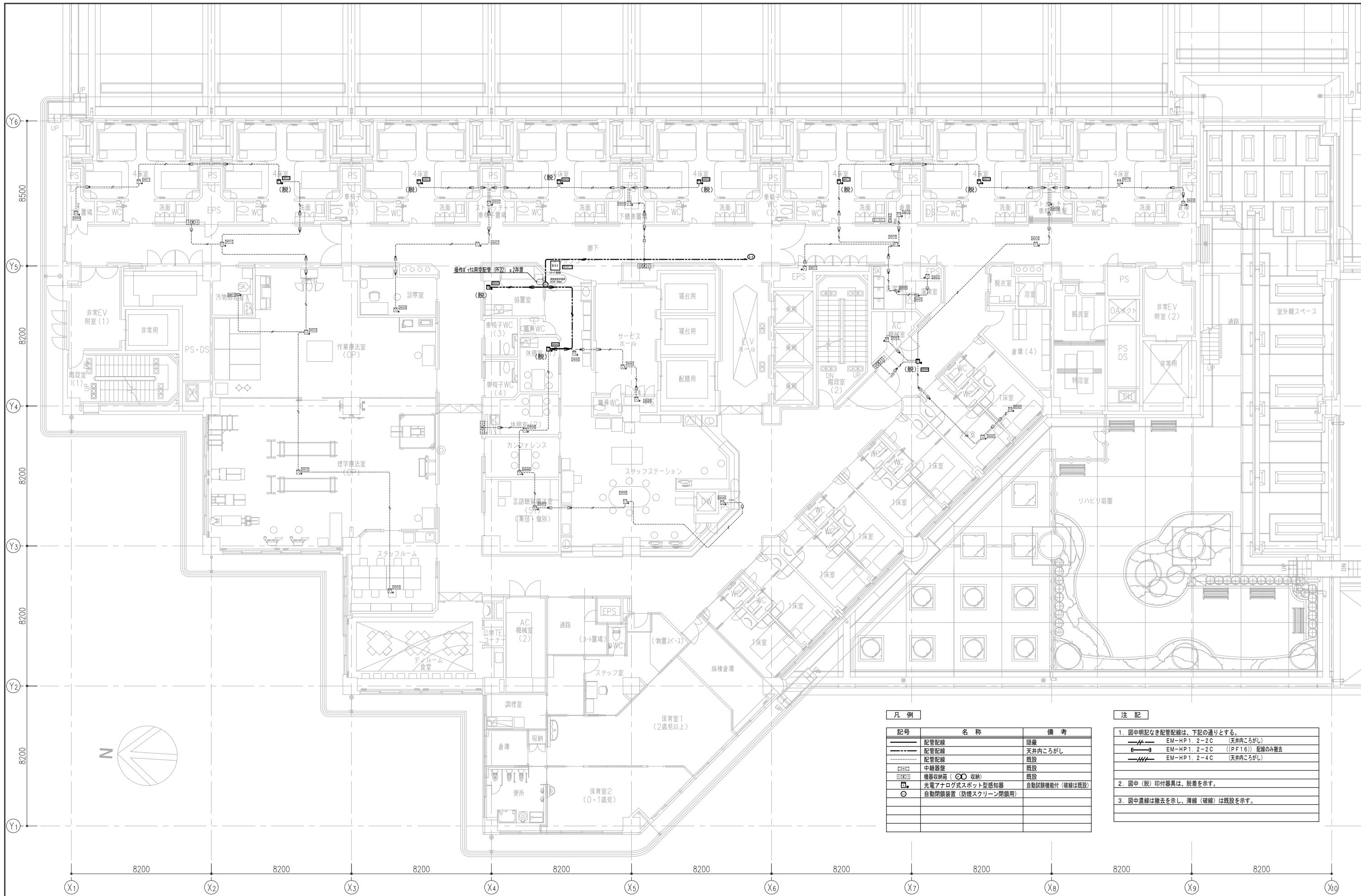
記号	名称	備考
---	配管配線	隠蔽
---	配管配線	天井内こがし
E	配管配線	EM-EFF1.6-2C ((PF16)) 既設配管内入線
FP	配管配線	EM-FP2.0-2C (天井内こがし)
FP	配管配線	EM-FP2.0-2C ((PF22)) 既設配管内入線
●	電灯分電盤	
●	非常照明器具 (ダウンライト) 電源別型	破線は既設
●	避難口誘導灯 (BH形・片面・直付)	音声点滅形
●	通路誘導灯 (BL形・両面・直付)	
●	避難口誘導灯 (BL形・片面・直付)	SH1-FBF20-BL

- 注記
1. 図中明記なき配管配線は、下記の通りとする。
 --- EM-EFF1.6-2C (天井内こがし)
 E EM-EFF1.6-2C ((PF16)) 既設配管内入線
 FP EM-FP2.0-2C (天井内こがし)
 FP EM-FP2.0-2C ((PF22)) 既設配管内入線
 2. 区画壁横断の配管口には、ケーブル入線後耐火パテ充填のこと。
 3. 図中 (再) 印付器具は、再使用を示す。
 4. 図中濃線は新設を示し、薄線 (破線) は既設を示す。



記号	名称	備考
—	配管配線	隠蔽
—	配管配線	天井内こがし
—	配管配線	既設
—	弱電端子盤	既設
—	情報盤	既設
●	電話用アウトレット	6種4芯×1
●	情報用アウトレット	8種8芯(CAT6)×2
●	天井埋込スピーカー (3W・ATT)	
●	壁掛型スピーカー (3W・ATT)	
○	子母計 (φ310)	

- 注記**
1. 図中明記なき配管配線は、下記の通りとする。
 (電話設備)
 EM-EBT0. 4-2P (天井内こがし)
 EM-EBT0. 4-2P ((PF28)) 配線のみ撤去
 (情報設備)
 EM-UTP (CAT6) 0. 5-4P×2 (天井内こがし)
 EM-UTP (CAT6) 0. 5-4P×2 ((PF22)) 配線のみ撤去
 (拡声設備)
 EM-HP1. 2-3C (天井内こがし)
 EM-HP1. 2-3C ((PF28)) 配線のみ撤去
 (電気時計設備)
 EM-AE1. 2-2C (天井内こがし)
 2. 特記なき壁埋込配管は、既設位置とする。
 3. 図中(脱)印付機器は、脱着を示す。
 4. 図中★印付機器は取外し後、病院側に引渡しとする。
 5. 図中濃線は撤去を示し、薄線(破線)は既設を示す。

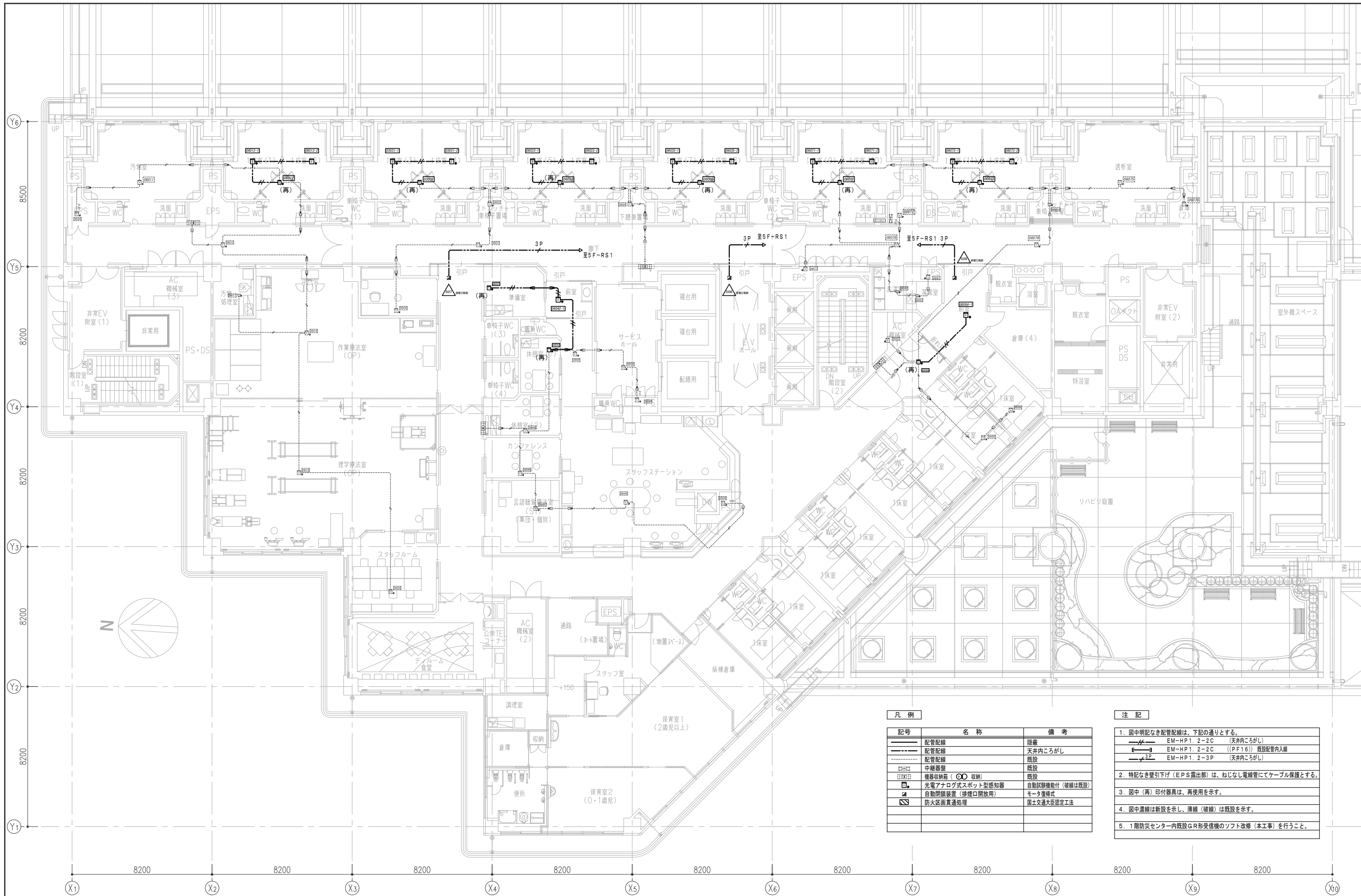


凡例

記号	名称	備考
—	配管配線	隠蔽
---	配管配線	天井内こがし
---	配管配線	既設
---	配管配線	EM-HP1. 2-2C ((PF16)) 配線のみ撤去
---	配管配線	EM-HP1. 2-4C (天井内こがし)
CS&C	中継器盤	既設
CS&C	機器収納箱 (〇〇 収納)	既設
■	光電アナログ式スポット型感知器	自動試験機能付 (破線は既設)
○	自動閉鎖装置 (防煙スクリーン閉鎖用)	

注記

1. 図中明記なき配管配線は、下記の通りとする。
 〃 EM-HP1. 2-2C (天井内こがし)
 〃 EM-HP1. 2-2C ((PF16)) 配線のみ撤去
 〃 EM-HP1. 2-4C (天井内こがし)
2. 図中(脱)印付器具は、脱着を示す。
3. 図中濃線は撤去を示し、薄線(破線)は既設を示す。



凡例

記号	名称	備考
—	配管配線	隠蔽
—	配管配線	天井内こころし
—	配管配線	既設
—	中継器盤	既設
—	機器収納箱 (○ 収納)	既設
—	光電アナログ式スポット型感知器	自動試験機付 (破線は既設)
—	自動閉鎖装置 (排煙口開放)	モータ復帰式
—	防火区画貫通処理	国土交通大臣認定工法

注記

1. 図中明記なき配管配線は、下記の通りとする。
 EM-HP1. 2-2C (天井内こころし)
 EM-HP1. 2-2C ((PF16)) 既設配管内入線
 EM-HP1. 2-3P (天井内こころし)
2. 特記なき壁引下げ (EPS露出部) は、ねじなし電線管にてケーブル保護とする。
3. 図中 (再) 印付器具は、再使用を示す。
4. 図中濃線は新設を示し、薄線 (破線) は既設を示す。
5. 1階防災センター内既設GR形受信機のソフト改修 (本工事) を行うこと。

仕様書

1. 工 事 概 要

1. 工事場所 徳島市北常三島町二丁目34番地

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令による階数	施設の種類	備考
病院	SRC造	地上12階地下1階	30,194.50	第6項(イ)	特定の施設	改修

3. 工事種目 (●印を付けたものを適用する)

建物別及び屋外	工事種別	
工 事 種 目	病院	
● 空気調和設備	改設一式	
● 換気設備	改設一式	
● 排煙設備	改設一式	
○ 自動制御設備		
○ 衛生器具設備		
● 給水設備	改設一式	
● 排水設備	改設一式	
○ 給湯設備		
● 消火設備	改設一式	
○ 厨房設備		
○ ガス設備		
○ 雨水利用設備		
○ 排水処理設備		
○ 撤去工事		

4. 指定部分 ●無 ○有 対象部分 ()

指定部分工期: 令和 年 月 日

5. 設備概要 (●印の付いたものを適用する) ※改修工事の場合は既存概要を示す。

方式及び種別	設 備 概 要	
空調方式	● 空気調和 ○単一ダクト方式 ○全空気方式	○ ファンコイルユニット・ダクト併用方式 ○
主要熱源機器	○	
自動制御方式	○ 電気式 ○電子式 ○デジタル式	
給水方式	○ 高置タンク方式 ●ポンプ直送方式 ○水道直結方式 ○水道直結増圧方式	
排水方式	建物内の汚水と雑排水 (○合流式 ●分流式) ポンプ排水 ●あり (●汚物 ●雑排水 ○湧水) ○なし 建物外放流先 (1) 汚水 ●直放流下水管 (2) 雑排水 ●直放流下水管 (3) 排水槽 ○あり (計画容量: 汚水槽 ㎡、雑排水槽 ㎡) ○なし	
消火設備の種類	○ 屋内消火栓設備 ●スプリンクラー設備 ○ 泡消火設備 ○連結放水方式 ●連結送水管 ○ 不活性ガス消火設備 (○) ○	
ガスの種類	● 都市ガス (種別 13A、高位発熱量45.0MJ/m ³ (N)、低位発熱量40.6MJ/m ³ (N) 供給圧力 Pa、供給事業者名)	

6. 改修内容: 改修工事の場合に記載する。

2. 工 事 仕 様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁審判部制定の下記標準仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。

- 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)(以下「標準仕様書」という。)
- 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
- 公共建築設備工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)(以下「標準仕様書」という。)

(2) 電気設備工事及び建築工事に含まれる、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの特記仕様書を活用する。なお、電気設備工事の工事仕様は、(/) 図、建築工事の工事仕様は、(/) 図による。

2. 特記仕様

章、項目、特記事項共に●印の付いたものを適用し、○印のものは適用しない。

章	項 目	特 記 事 項
● 一般共通事項	○適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○風圧力 風速 (V ₀ = m/s) 地表面粗度区分 () ○積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表 ()
● 環境への配慮	○環境への配慮	(1) 本工事において、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成12年法律第100号)に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月閣議決定)」による特定調達品目の判断基準等を満たす環境物品等を選択するよう努める。ただし、公共工事分野の特定調達品目の機材を使用する場合は、判断の基準を満たすものとする。 (2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集材材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含む)しない難揮発性の可塑性を除く)が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。 (3) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (4) 別表-1に機材等名が記載された製造業者等は次の1) から6) すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承認を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するものについては、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。
● 材料・機材の品質等	● 既存躯体への穿孔	穿孔機材を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる附属装置等を用いて施工する。 図面に特記なき場合は、工事区分表による。 壁内の配線はP管にて保護すること(○D管の使用は不可)。 壁内には竣工年月、施工者名の表示を行うこと。 PS内の配管には用途、流れ方向の表示を行うこと。 屋外に設置の機器には竣工年月、系統表示をカッティングシートにて行うこと。 バルブにはバルブレを取り付け、用途及び開閉表示を行うこと。 設計図書に明記なくとも機能上・構造上当然必要と認められる軽微なものは、監督職員の指示に従い、本工事請負金の内で施工すること。 本設計図書は工事の概要を示すものであるから、詳細・位置等については監督職員と打合せの上、その指示に従い施工すること。 提出書類は下記のとおりとする。 ただし、工事に係る法的に必要な書類及び施工、監督職員の指示によるものについても提出のこと。 工事工程表、機器・材料製造者一覧表、施工計画書・施工要領書、納入仕様書 施工図、現場打合記録、試験・検査報告書、申請・届出書類一覧表、自主検査記録 竣工図、工事写真(区画貫通部は全数)、完成図、取り扱い説明書、保証書

○ 工事用仮設物
○ 足場その他

○ 建設発生土の処理

○ 埋め戻し土・塵土
○ 運転操作説明板

● 機材の承諾書
● 総合試運転調整

● 電動機

● 電源周波数
● 容量等の表示

● 耐震施工

構内につくることが ○できる ○できない
○別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。
(○建築工事 ○電気設備工事 で設置する。)
○本工事で設置する。
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
○内部足場等 (○ 種 ○ 種)
○外部足場等 (○ 種 ○ 種)

○埋戻し後の建設発生土は、監督職員と協議し、構内の決定した場所に敷きならしとする。
○構外搬出適切処理 ○現場説明書による。
○根切り土の中の良質土 ○山砂の類
系統図、機器等の取扱い方及び重要な定期点検項目を記載したアクリル樹脂製の板を機械室に設ける。説明板の大きさは約 ㎡とする。
機械設備工事機材承諾図様式集(令和4年版)によるほか、監督職員との協議による。
●本工事 ○別途
調整項目(測定箇所等は監督職員の指示による。)
●風量調整 ○水量調整 ○室内外空気の温湿度の測定 ○室内空気及びじんあいの測定
○騒音の測定 ○飲料水の水质の測定 ○雑排水の水质の測定
換気扇、圧力階及び標準仕様書に記載なく特記のないもの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としてよい。
○50Hz ●60Hz
(1) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。
(2) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された数値以下とする。
設備機器の固定は施設の分類に応じたものとする。

● 耐震施工
(1) 設計用水平地震力
設計用水平地震力は、機器の質量[kN](水槽類は満水時の液体重量を含む設備機総重量)に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

	機器種別	● 特定の施設		○ 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階・屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

・上層階とは2~6階建の場合は最上層、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。
・水槽類にはオイルタンクを含む。
・重要機器は次のものを示す。
(名称:)、記号:) (名称:)、記号:)
(名称:)、記号:) (名称:)、記号:)
(名称:)、記号:) (名称:)、記号:)

(2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とする。
(1) ステンレス鋼管の接合は、下記による。
○呼び径φ0.5以下(SA3322を満足した継手)
●溶接部の非破壊検査 ○不要 ○満足
(抜取率 ○標準仕様書(機械設備工事編)による ○ %)

(1) 各種配管の試験は、新設配管に適用する。
(2) 新設配管は、既設配管との接続前に試験を行う。
図示の位置に取り付ける。
(1) 地中埋設機 ○要(図示の箇所) ○不要
(2) 埋設表示用テープ ○要(排水管を除く) ○不要
○屋外露出部の(○機器類 ○配管類)には(○凍結防止ヒーター ○防凍保温)を行う。
なお、配管類には弁類を含むものとする。
(対象機器類: ○ ○ ○)
(対象配管類: ○給水配管 ○給水配管 ○膨張管 ○ドレン管 ○)
凍結防止ヒーター: 自己サーモ式とし、防凍保温を施す。
防凍保温: 標準仕様書第2編3.1.4及び3.1.5による。
ただし、保温厚さは配管の呼び径25以上は50mm以上、呼び径32以上は40mm以上とする。

○共同溝、トレンチの保温は(標準仕様書第2編の施工箇所)を適用する。
○多層箇所は下記による。(天井内共多層箇所とする。)
(対象室名: ○ ○ ○)
○屋外露出部の(○実験室 ○)の保温外装は(○アルミガラスクロス)とする。
露出機材の塗装及び仕上げは下記による。
○屋外: ○ドレン管 (○指定色塗装 ○)
○冷却水管 (○指定色塗装 ○)
○金属電線管 (○溶融亜鉛メッキ仕上げ(付着量300g/m²) (○指定色塗装 ○)
○屋内: ○ダクト (○指定色塗装 ○)
○排水管・通気管 (○指定色塗装 ○)

電線及びEMケーブルは標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。
() 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
(○構内 ○)の吊り金物・支持金物類はステンレス鋼製(SUS 304)とする。
事前調査 ●本工事 ○別途
調査内容
調査項目 ●既存資料調査
調査範囲 ○図示 ○
調査方法 ○図示 ○

○はつり及び穿孔作業を行う場合、事前に○造作式埋設物調査 ○X線埋設物調査を行い報告すること。
○石綿含有分析調査 (○本工事 ○別途工事)

穿孔機材を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる附属装置等を用いて施工する。
図面に特記なき場合は、工事区分表による。
壁内の配線はP管にて保護すること(○D管の使用は不可)。
壁内には竣工年月、施工者名の表示を行うこと。
PS内の配管には用途、流れ方向の表示を行うこと。
屋外に設置の機器には竣工年月、系統表示をカッティングシートにて行うこと。
バルブにはバルブレを取り付け、用途及び開閉表示を行うこと。
設計図書に明記なくとも機能上・構造上当然必要と認められる軽微なものは、監督職員の指示に従い、本工事請負金の内で施工すること。
本設計図書は工事の概要を示すものであるから、詳細・位置等については監督職員と打合せの上、その指示に従い施工すること。
提出書類は下記のとおりとする。
ただし、工事に係る法的に必要な書類及び施工、監督職員の指示によるものについても提出のこと。
工事工程表、機器・材料製造者一覧表、施工計画書・施工要領書、納入仕様書
施工図、現場打合記録、試験・検査報告書、申請・届出書類一覧表、自主検査記録
竣工図、工事写真(区画貫通部は全数)、完成図、取り扱い説明書、保証書

● 空気調和設備

○ 設計温湿度

		外 気		屋 内 (調 整 目 標)					
		温度(DB)	湿度(RH)	一般系統		温度(DB)		湿度(RH)	
				温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)		
夏期	9時	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
	12時	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
	14時	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
冬期	16時	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
		℃	%	℃	%	℃	%	℃	%

伸縮継手、排出口及びびいじん量測定口の位置は図示による。
鋼板厚(○3.2mm ○4.5mm)
●低圧ダクト (●コーナーボルト工法(長さの長さが1,500mm以下の部分) ●アングルフランジ工法)とする。
●スパイラルダクト (●低圧 ○)
○高圧1ダクト(適用範囲は図示による。)とする。
○ステンレスダクト及び強化ビニルダクトの適用範囲及び仕様は図示による。
図示した位置に取り付ける。
(1) 内貼りを施すチャンプナーの表示方法は外法を示す。
(2) 空気調和機に取り付けるサプライチャンプナー、レタンチャンプナー及びダクト系で消音内貼りしたチャンプナーには点検口を設ける。なお、大きさは図示による。
(3) 外壁に面するガラリに直接取り付けられるチャンプナー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
(1) 防煙ダンパー 復帰方式(○遠隔復帰式 ○)
(2) ビストンダンパー 復帰方式(○遠隔復帰式 ○)
(1) 蒸気管 給気管 ○配管用炭素鋼管(黒)
○圧力配管用炭素鋼管(黒)(Sch40)
○圧力配管用ステンレス鋼管(黒)(Sch80)
(2) 油管 ○配管用炭素鋼管(黒) ○
(3) 冷温水管 ○配管用炭素鋼管(白) ○
(4) 冷却水管 ○配管用炭素鋼管(白) ○
(5) 高温水管 ○配管用ステンレス鋼管 ○
(6) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管
○配管用炭素鋼管(白) ○
○断熱材被覆鋼管 ○
(8) ドレン管 ○配管用炭素鋼管(白) ○
JIS又はJV (○5K ○10K (図示部分))
○65以上の冷温水・冷却水用弁装置の仕切弁はバタフライ弁とする。
○鋼管用伸縮継手の種類は図示による。
○ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
図示の位置に取り付ける。
図示の位置に取り付ける。なお、瞬間流量計(○図定形 ○着脱形)とする。
新設壁には(○遠隔警報 ○)の端子を設ける。なおフロッツスイッチ部と制御盤間の配線配線は製造者の標準仕様とする。
標準仕様書第2編3.1.4によるほか、次による。
○選りダクト(RAダクト)の保温範囲は(○図示による ○)
○外気ダクト(OAダクト)の保温範囲は(○図示による ○)
○底気通り管の保温不要(屋内露出は除く。)
○膨張管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4.4の温水管の項による。
○建物内のエア抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4.4の温水管の項による。(エア抜き弁以降の配管は除く)
○暗渠内(ピット内を含む)の空調用ドレン管は保温(○有 ○無)とする。
○冷媒管の保温外装は次による。
○図示による。
○屋内露出箇所(○保温化粧ケース(材質:))
○屋外露出箇所(○ステンレス鋼板 ○)

● 換気設備

● ダクト ●低圧ダクト (●コーナーボルト工法(長さの長さが1,500mm以下の部分) ●アングルフランジ工法)とする。
○高圧1ダクト(適用範囲は図示による。)とする。
○ステンレスダクト及び強化ビニルダクトの適用範囲及び仕様は図示による。
○厨房系統の長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書より1番手厚いものを使用する。
図示した位置に取り付ける。
空気調和設備の当該項目による。
○浴室(シャワー室、脱衣室を含む。)系統 ○厨房系統 ○
空気調和設備の当該項目による。
次のダクトは保温を行う。
○全熱交換ユニットの外気ダクトの保温要(保温範囲、仕様は図示による)
○全熱交換ユニットの排気ダクトの保温要(保温範囲、仕様は図示による)
○厨房 ○湯沸室 の隠ぺいダクト(仕様はh・(f)・D)とし、範囲は図示による。

● 排煙設備

● ダクト ●亜鉛鉄板 ○普通鋼板(○厚1.6mm ○)
○図示による。
● 排煙口手動開放装置 (開放及び復帰方式)
● 排煙風量測定 ●電気式(遠隔操作 ●要 ○不要) ○ワイヤー式
建築設備定期検査業務基準書(2016年版)((一財)日本建築設備・昇降機センター)の排煙風量の検査方法に準じる。

○ 自動制御設備

○ 中央監視制御装置 ○有り(○新設 ○既設) ○無し
別図による。
電線及びEMケーブルは、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。
屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。
天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。

○ 衛生器具設備

○ 自動洗浄装置及びその組み込み小機器
○ 標記板 ○要(材質:) (○大便器 ○小便器 ○)
○ 自動水栓の電源供給方式
○ 衛生器具ユニット
○ 衛生器具付属水栓
○ 大便器洗浄弁
○図示による。
水抜きを使用する場合は、水栓は固定こま式とする。
○電気開閉式 ○手動式

● 配管材料

(1) 一般配管 ●塩化ビニル鋼管(VA)(上水) ○塩化ビニル鋼管(VB)(雑用水)
○ステンレス鋼管(SUS 304) ○
(2) 地中埋設配管 ○塩化ビニル鋼管(VD) ○
○ステンレス鋼管(SUS 316)
(3) 水道直結配管 ○引き込みは水道事業者の指定により、量水器以降の地中埋設配管は()とし、他の部分は(1)による。
○観メーター(買取り) ○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式(○電気式 ○)
○子メーター(買取り) ○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式(○電気式 ○)
○水道事業者指定品(○買取り) ○買取り(材質:) ○標準図MC形
JIS又はJV ○水道直結部分(○10K ○)
○その他の部分(○5K ○)
○逆止弁の衝撃吸収式はライニング不要とする。
○ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
○台所流し用の水栓は泡沫式とする。
○水抜きを使用する場合、水栓は固定こま式とする。
(○ただし、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする)
管の上端より原則として、一般敷地は(cm) 構内道路は(cm)以上とする。
○合成樹脂製 ○アルミニウム合金製 ○人造石とぎ出し製(○ステンレス鋼製)
○標準図(建築物導入部の変位吸収配管要領)の○(a) ○(b) ○(c)による。
○ポリエチレン配管の施工要領は図示による。
○要(○別途工事 ○本工事) ○不要

● 排水設備

● 配管材料 (1) 屋 内 汚水管 ○排水用塩化ビニル鋼管 ○
雑排水管 ○排水用塩化ビニル鋼管 ●塩化ビニル管
○配管用炭素鋼管(白)(厨房高温排水系統)
通気管 ○配管用炭素鋼管(白) ○
ポンプアップ排水管 ○排水用ノントールエポキシ塗装鋼管 ○
(2) 屋 外 第一排まで ○排水用塩化ビニル鋼管 ○
○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三层管(RF-VP)
樹間 ○排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管(REP-VU)
洗面器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。
台所流し等の床上部分の配管は、ビニル管(RF-VP)でもよい。
大便器、小便器、洗面器及び掃除用流しとの接続管は、ビニル管(RF-VP)とする。
図示の位置に取り付ける。
○要(○別途工事 ○本工事) ○不要

○ 給湯設備

○ 配管材料 ○ステンレス鋼管(SUS 304) ○
○弁類 JIS又はJV (○5K ○10K (図示部分))
○ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
湯沸器の給排気筋(二重管)の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5のh・(イ)・Dとする。

● 消火設備

● 配管材料 (1) スプリンクラー 一般 ●配管用炭素鋼管(白) ○
○配管用炭素鋼管(黒) ○
(2) 連結送水管 一般 ○圧力配管用炭素鋼管(白)(Sch40)
地中 ○圧力配管用炭素鋼管(白)(Sch40)
○広範囲型2号消火栓 ○易操作性1号消火栓 ○1号消火栓 ○2号消火栓
○10K
○屋外露出部分 ○あり (○e2・(n)・VII ○) ○なし
○不活性ガス消火設備 別図による。
○泡消火設備 別図による。

○ 厨房設備

○ システム ○ドライシステム ○
○ 機器の機能等 図示による。

○ ガス設備

○ 配管材料 ○都市ガス ガス事業者の供給規定による。
○液化石油ガス (1) 一般配管 ○
(2) 地中配管 ○
○ 充てん容器 別途(○50kg ○) × 本
標準図(液化石油ガス容器取り配管要領)による 本組。
標準図(液化石油ガス容器転倒防止施工要領)の○(a) ○(b)による。
○メーター ○観メーター(買取り) ○実測式 ○バルス式(バルス発信機は 買取り)
○子メーター(買取り) ○実測式 ○バルス式
○本工事(図示による) ○別途工事
外部警報端子(○無 ○有)
○要 ○不要
○要 ○不要
○要 ○別途工事 ○本工事) ○不要

○ 雨水利用設備

○ システム構成その他 別図による。
○ 配管材質 (1) 一般配管 ○
(2) 集水管 ○
JIS又はJV (○5K ○)

○ 仕様等

○ 設備方式 別図による。
○排水再利用 ○浄化槽 ○厨房除害

○ 撤去内容

○ 発生材の処理 ○図示による
○現場説明書による。

別表-1

機材等名	

設計番号 24021 工事名 徳島市民病院 5階病棟改修工事 概A3:1/- 概A1:1/- 01 機

徳島市病院局

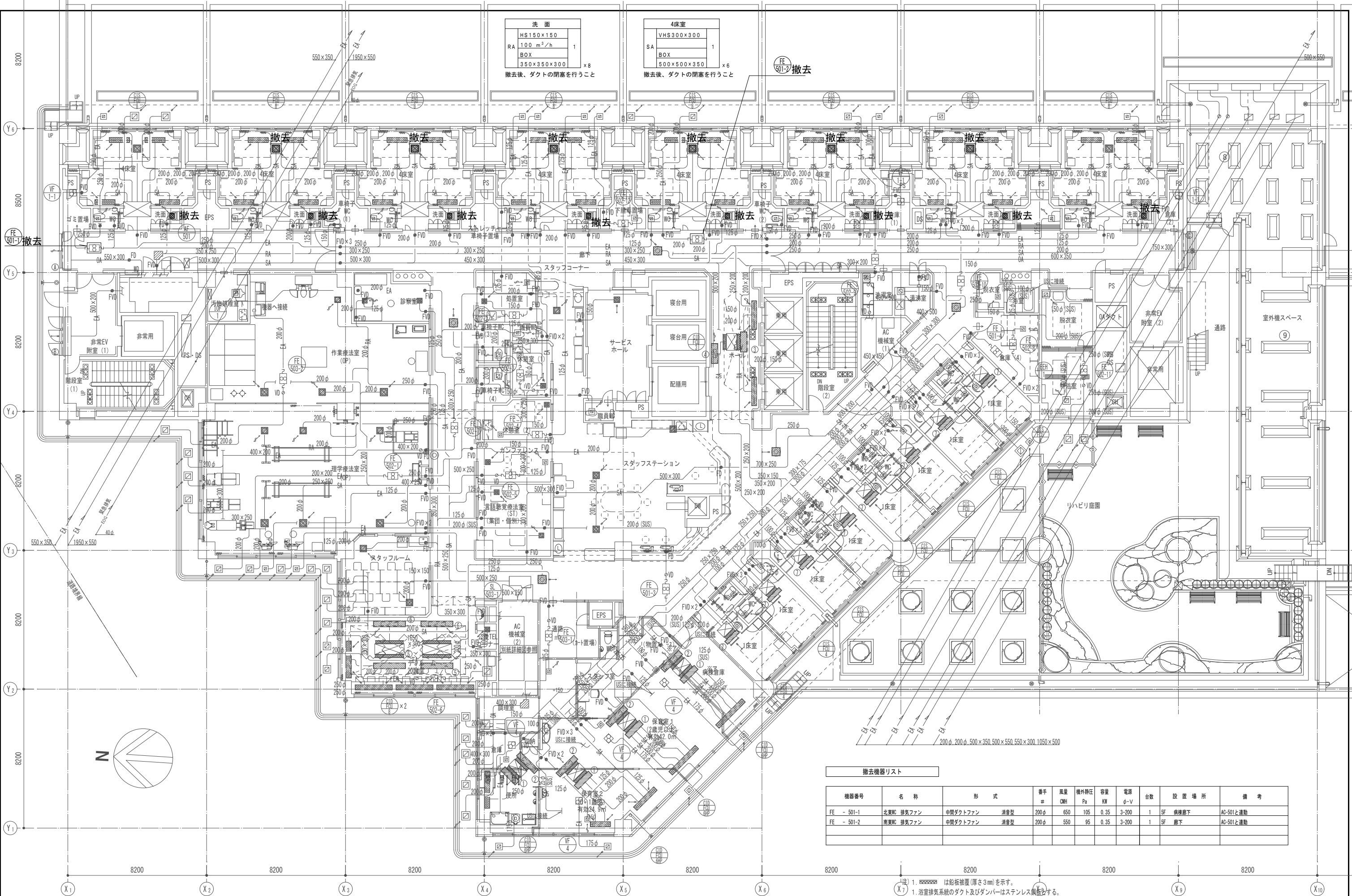
洗面
HS150×150
RA 100 m ³ /h
BOX 350×350×300
×8

撤去後、ダクトの閉塞を行うこと

4床室
VHS300×300
SA
BOX 500×500×350
×6

撤去後、ダクトの閉塞を行うこと

FE 501-2 撤去

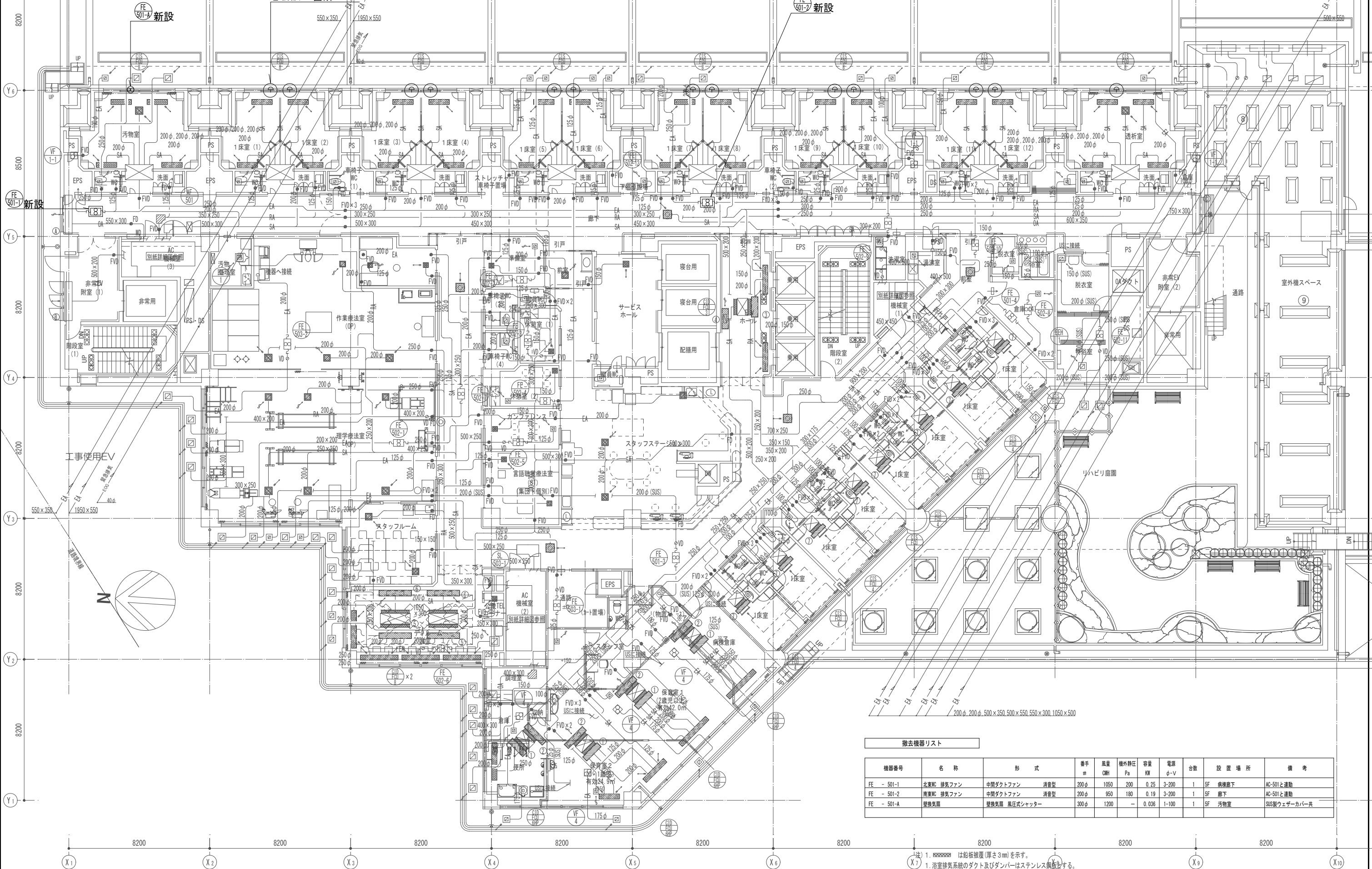


撤去機器リスト

機器番号	名称	形式	番号	風量	機外静圧	容量	電源	台数	設置場所	備考	
FE - 501-1	北東IC 排気ファン	中間ダクトファン	消音型	200φ	650	105	0.35	3-200	1	SF 機体下	AC-501と連動
FE - 501-2	南東IC 排気ファン	中間ダクトファン	消音型	200φ	550	95	0.35	3-200	1	SF 廊下	AC-501と連動

注 1. は鉛板被覆(厚さ3mm)を示す。
 X7 1. 浴室排気系統のダクト及びダンパーはステンレス製とする。

アルミパネル(建築工事)に
SUS製深型フード200φ(防虫網付)
を新設13箇所



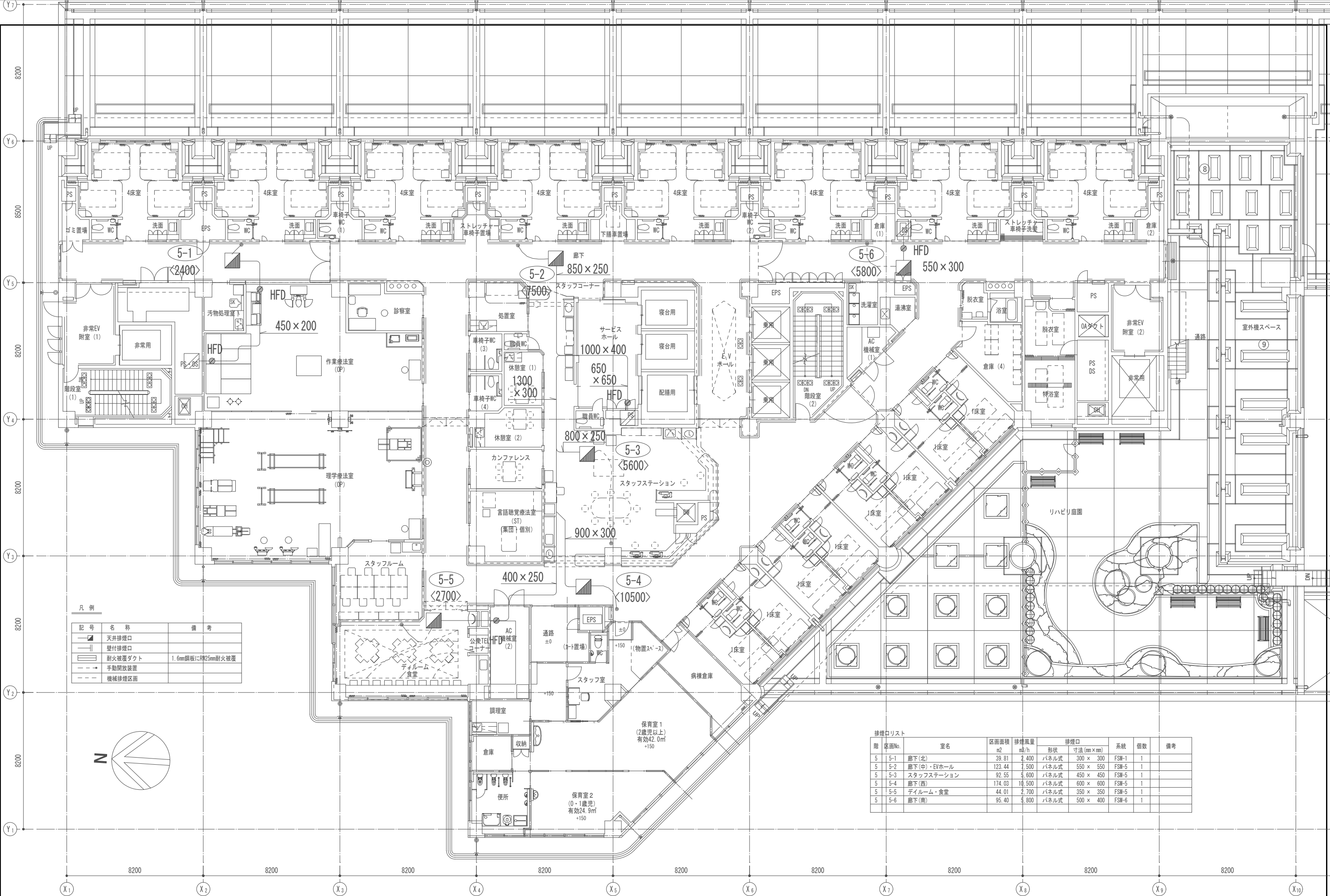
撤去機器リスト

機器番号	名称	形式	番手 #	風量 CMH	機外静圧 Pa	容量 KW	電源 φ-V	台数	設置場所	備考
FE - 501-1	北風配 排気ファン	中間ダクトファン 消音型	200φ	1050	200	0.25	3-200	1	5F 病棟廊下	AC-501と連動
FE - 501-2	南風配 排気ファン	中間ダクトファン 消音型	200φ	950	180	0.19	3-200	1	5F 廊下	AC-501と連動
FE - 501-A	壁換気扇	壁換気扇 風圧式シャッター	300φ	1200	-	0.036	1-100	1	5F 汚物室	SUS製ウェザーカバー共

注 1. 破線は鉛板設置(厚さ3mm)を示す。
1. 浴室排気系統のダクト及びダンパーはステンレス製とする。

設計番号 24021	工事名 徳島市民病院 5階病棟改修工事	縮尺 A3:1/200 A1:1/100	機 03
図面名 5階平面図(改修後)			

徳島市病院局

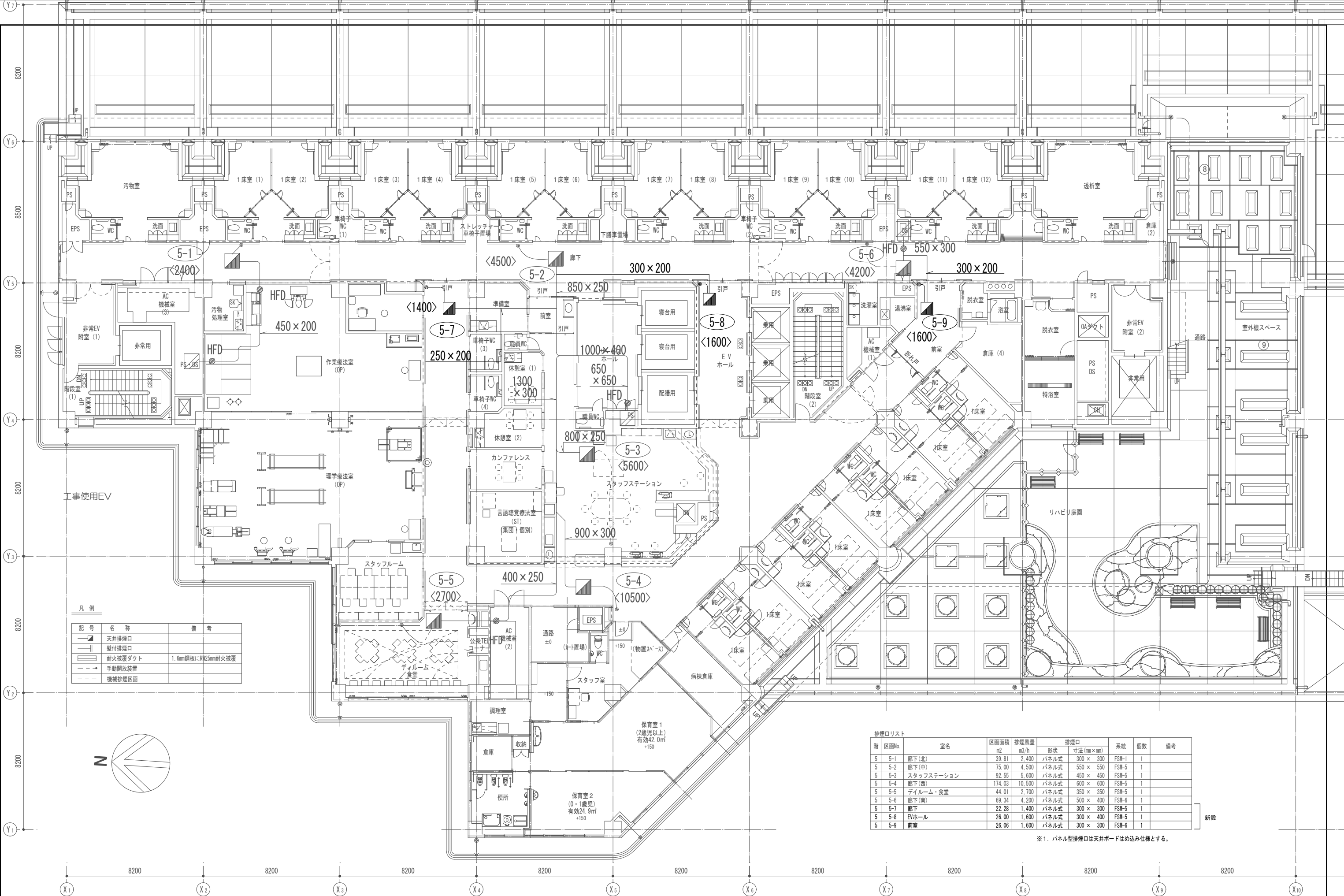


凡例

記号	名称	備考
■	天井排煙口	
□	壁付排煙口	
—	耐火被覆ダクト	1.6mm鋼板(耐火25mm耐火被覆)
→	手動開放装置	
---	機械排煙区画	

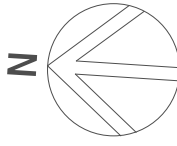
排煙ロースト

階	区画No.	室名	区画面積 m ²	排煙風量 m ³ /h	排煙口		系統	個数	備考
					形状	寸法(mm×mm)			
5	5-1	廊下(北)	39.81	2,400	パネル式	300×300	FSM-1	1	
5	5-2	廊下(中)・EVホール	123.44	7,500	パネル式	550×550	FSM-5	1	
5	5-3	スタッフステーション	92.55	5,600	パネル式	450×450	FSM-5	1	
5	5-4	廊下(西)	174.03	10,500	パネル式	600×600	FSM-5	1	
5	5-5	ディールーム・食堂	44.01	2,700	パネル式	350×350	FSM-5	1	
5	5-6	廊下(南)	95.40	5,800	パネル式	500×400	FSM-6	1	



凡例

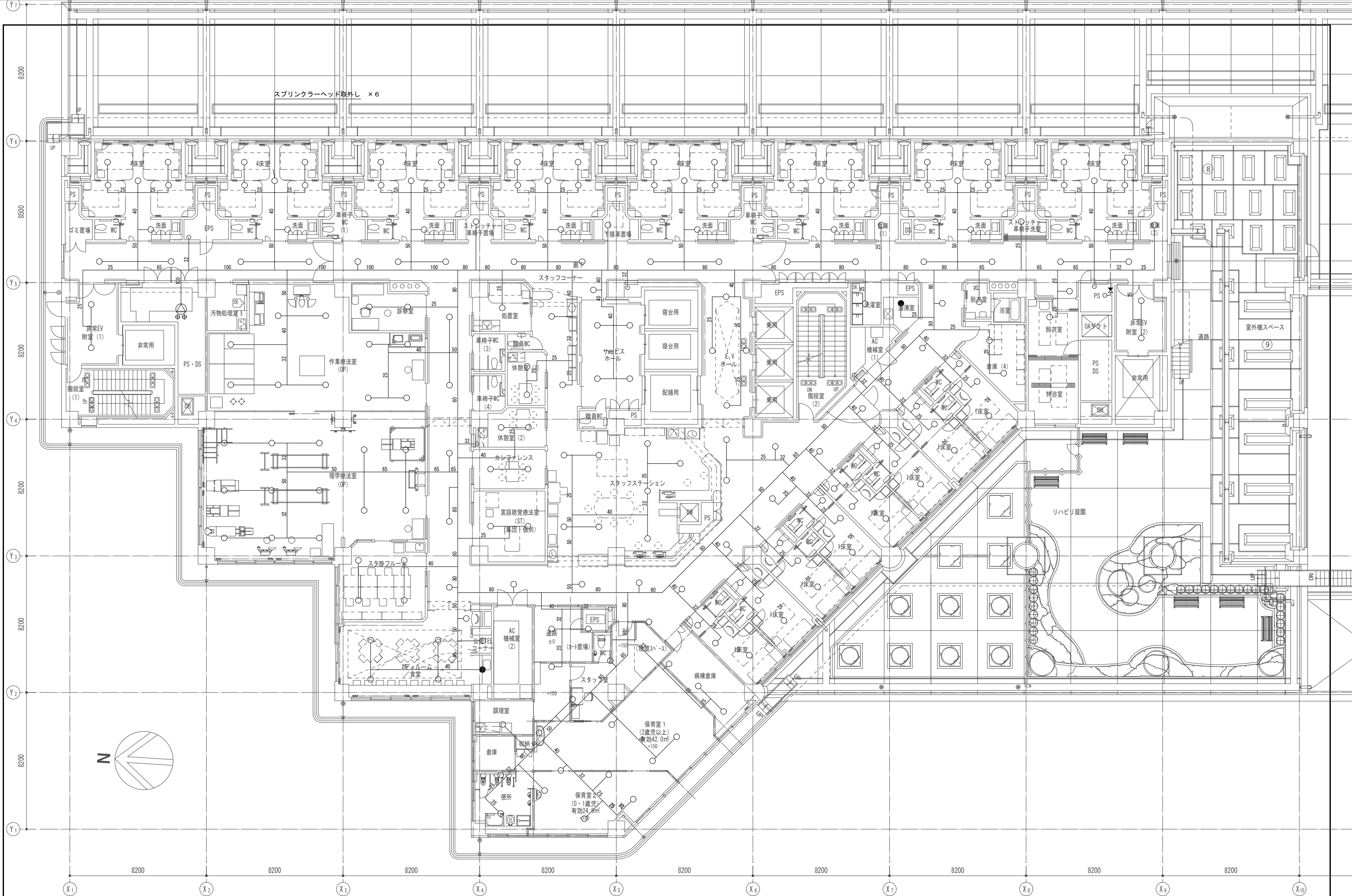
記号	名称	備考
■	天井排煙口	
□	壁付排煙口	
—	耐火被覆ダクト	1.6mm鋼板にFR25mm耐火被覆
→	手動開放装置	
---	機械排煙区画	



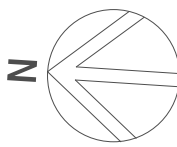
排煙ロジスト

階	区画No.	室名	区画面積 m ²	排煙風量 m ³ /h	排煙口		系統	個数	備考
					形状	寸法(mm×mm)			
5	5-1	廊下(北)	39.81	2,400	パネル式	300×300	FSM-1	1	
5	5-2	廊下(中)	75.00	4,500	パネル式	550×550	FSM-5	1	
5	5-3	スタッフステーション	92.55	5,600	パネル式	450×450	FSM-5	1	
5	5-4	廊下(西)	174.03	10,500	パネル式	600×600	FSM-5	1	
5	5-5	ディールーム・食堂	44.01	2,700	パネル式	350×350	FSM-5	1	
5	5-6	廊下(南)	69.34	4,200	パネル式	500×400	FSM-6	1	
5	5-7	廊下	22.28	1,400	パネル式	300×300	FSM-5	1	
5	5-8	E.V.ホール	26.00	1,600	パネル式	300×400	FSM-5	1	
5	5-9	前室	26.06	1,600	パネル式	300×300	FSM-6	1	新設

※1. パネル型排煙口は天井ボードはめ込み仕様とする。

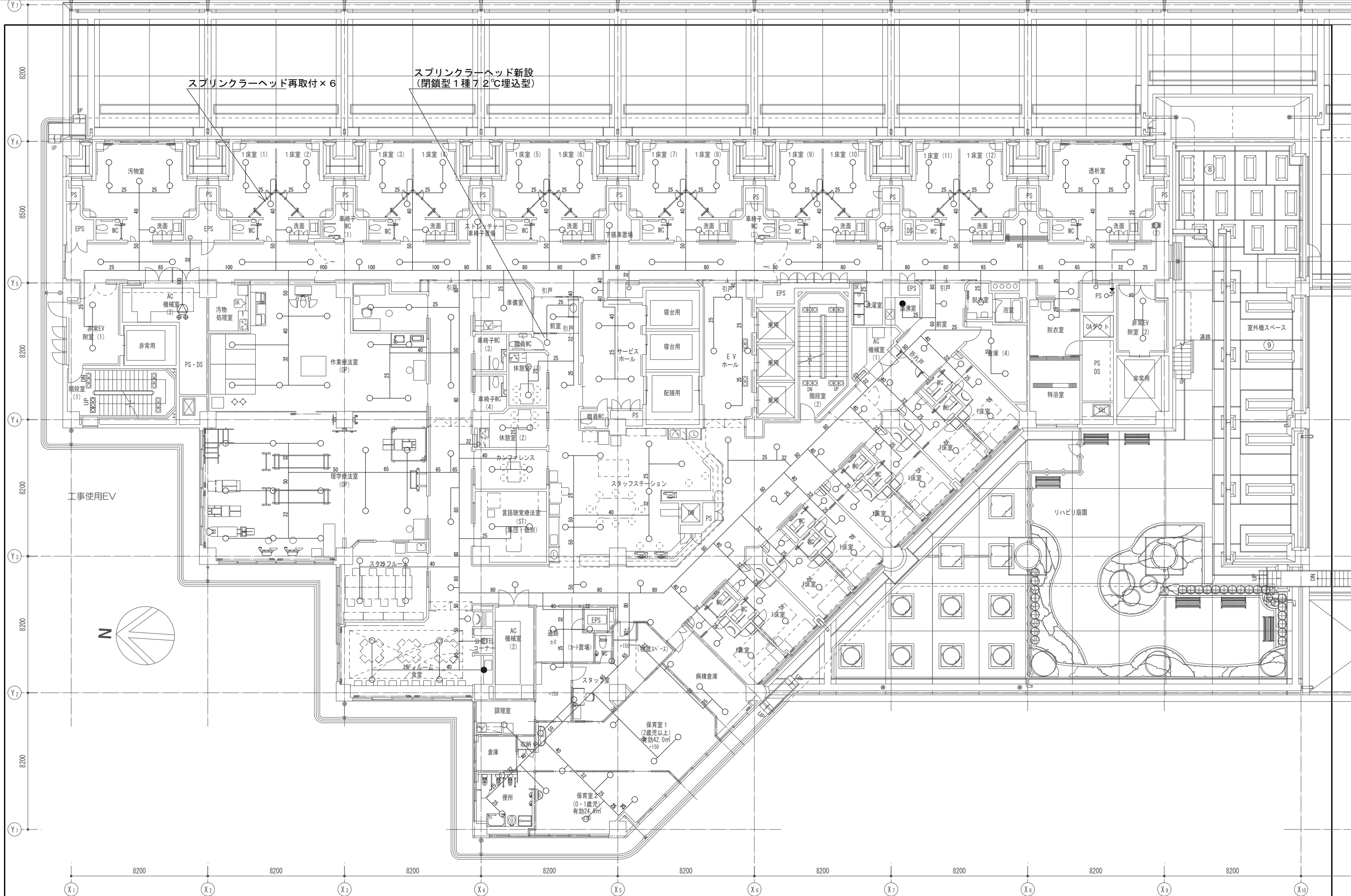


スプリンクラーヘッド取外し × 6



設計番号 24021	工事名 徳島市民病院 5階病棟改修工事	縮尺 A3:1/200	06
	図面名 消火設備 5階平面図(改修前)	A1:1/100	機

徳島市病院局

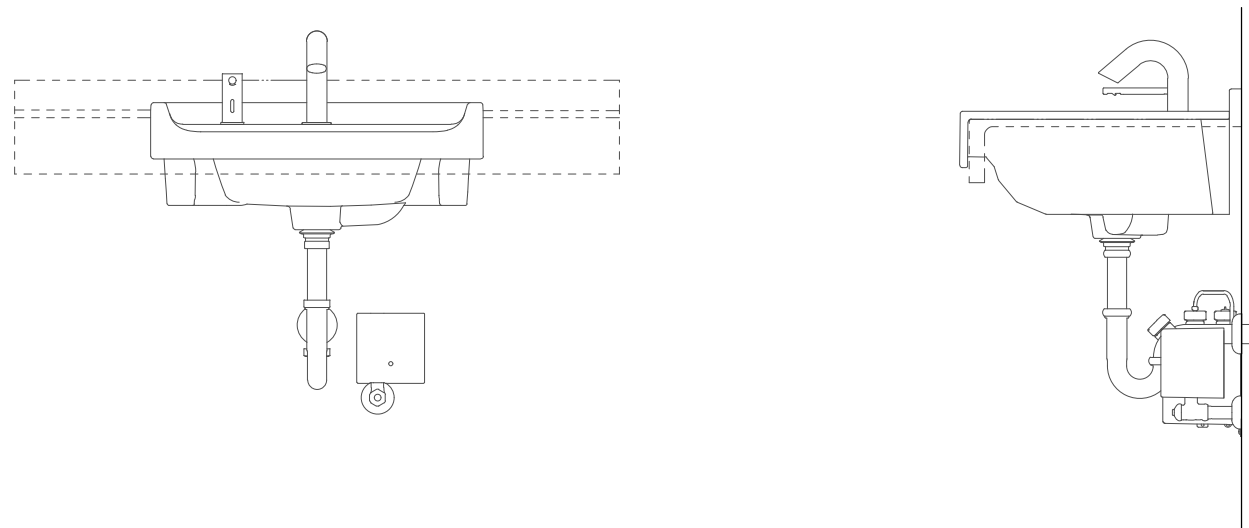


設計番号 24021	工事名 徳島市民病院 5階病棟改修工事 図面名 消火設備 5階平面図(改修後)	縮尺 A3:1/200 A1:1/100	07 機
---------------	--	----------------------------	---------

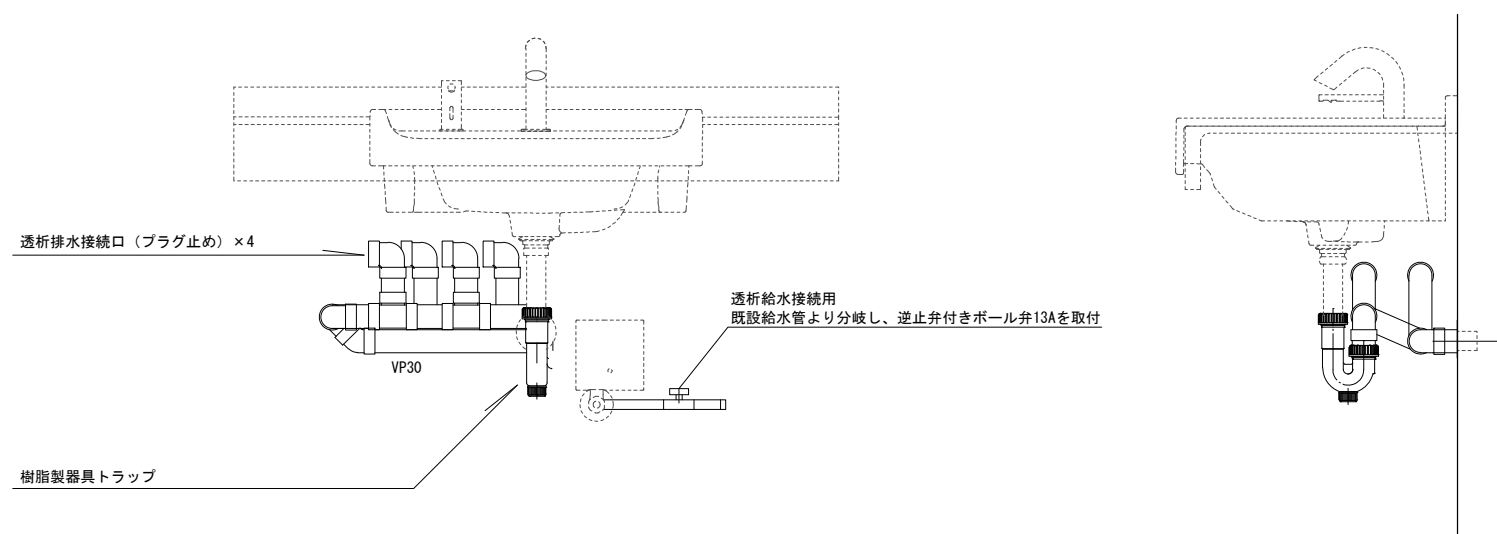
徳島市病院局

透析室洗面器

改修前



改修後



設計番号 24021	工事名 徳島市民病院 5階病棟改修工事	縮尺 A3:1/-	08
	図面名 給排水設備 5階透析室	A1:1/-	機

別紙・特記仕様の追記

1 下請を行う場合の市内企業の優先選定

請負者は、本工事の一部を下請に付する場合には、徳島市内に主たる営業所を有する者（市内企業）の中から優先して選定するよう努めるものとする。

請負者は、市外企業と下請契約を締結する場合は、市外企業を下請負人として選定した理由を記した文書を発注者に提出しなければならない。

2 地元建設資材の優先使用

請負者は、建設資材を調達するにあたり、徳島市内に主たる営業所がある地元販売業者から調達するよう努めるものとする。

3 暴力団等による不当介入の排除

- (1) 請負者は、受注工事に関し、暴力団等からの不当要求又は工事妨害(以下「不当介入」という。)を受けた場合（次の項に規定する場合は、下請負人から報告があったとき）には、その旨を直ちに発注者に報告するとともに、併せて所轄の警察署に届け出ること。
- (2) 請負者は、受注工事の一部について、他の建設業者に下請負させた場合においては、当該下請負工事の施工に関し、下請負人が暴力団等から不当介入を受けたときは、請負者にその旨を報告することを義務づけること。
- (3) 請負者は、発注者及び所轄の警察署と協力して不当介入の排除対策を講じること。
- (4) 請負者は、暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害届を速やかに所轄の警察署に提出すること。請負者は、当該被害により、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行うこと。その結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、請負者は約款第21条の規定により、発注者に工期延長の請求を行うこと。

現場説明書

・本工事における現場の特殊性について

本工事は稼働中の病院構内での作業であることから、一つの誤りが人命に関わる可能性がある為、計画段階から病院局及び現場関係者と打合せを密に行い、入院患者・施設利用者および現場周辺の安全を第一に考えた施工を心掛けること。

上記内容を踏まえた、工事計画及び施工計画書を作成し本工事に関する全ての者に周知徹底させること。また予定以外の作業は厳禁とする。

・工事業務について

1 資機材搬出入

資機材の搬出入経路及び時間については、事前に病院局及び現場関係者と協議し、必ず決められたとおり実施すること。

搬入経路の床及び廊下壁面に養生を実施すること。重量物の搬出入が発生する場合は床材を保護できる強度の養生を施すこと。

緊急車両及び歩行者を最優先とすること。

2 機能停止作業

全館停電・部分停電・自火報警報・断水等を伴う作業が発生する場合は、病院局及び現場関係者と調整を実施した上で行うものとする。

作業後は、確実な復旧が行われ、業務に支障が無いかを病院局及び現場関係者に必ず確認すること。

3 火気使用

無火気工法による工事計画を原則とする。火気使用が避けられない場合は事前の届出と作業後の確認を徹底すること。

4 振動・騒音・塵埃・臭い

振動・騒音・塵埃・臭いについては必要最小限に留めること。

振動・騒音・塵埃・臭いを伴う作業については、事前に作業可能時間を病院局及び現場関係者と協議し、決められた時間内で必ず実施すること。

特に、揮発性物質を用いる作業が発生する場合は、必ず事前に病院局及び現場関係者の承認を得ること。

5 活線作業厳禁

電気設備における活線作業は厳禁とする。

該当設備機器停電及び部分停電については病院局及び現場関係者と協議の上、停電時間厳守にて作業を実施すること。

復電後は該当機器及び該当箇所を必ず確認すること。

6 作業時間

原則として8時30分から午後5時00分までとする。

7 その他

工事作業員、その他出入り管理、風紀衛生の取り締まり並びに火災、盗難、その他の事故防止について留意すること。
本工事に伴い疑義が応じた場合は、速やかに病院局に連絡し指示を受けるものとする。